

科目名/Subject : 教育学実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 火曜日 4 講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会調査の理論と実践 (Practicum of Social Survey)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

社会調査を実際に行い、調査データを分析し、報告書を作成する

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 仮説や分析枠組みを構築し、調査票が作成することができる
- (2) 社会調査のフィールド・ワークを行うことができる
- (3) コーディング、データ入力、クリーニング作業を行い、データの計量分析と報告書の作成ができる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 はじめに:「研究倫理」と「調査倫理」
- 2 年間スケジュールと調査企画案の説明
- 3 調査企画案の確定と調査方法の決定
- 4 仮説構成と質問項目の決定
- 5 調査票の作成とプリテスト
- 6 調査対象者の決定と対象者原簿の作成
- 7 調査票の修正と依頼状・催促状の作成
- 8 調査対象者原簿確定と調査票・依頼状・催促状の最終チェック
- 9 調査依頼状と調査票の印刷
- 10 調査依頼状の発送
- 11 フィールド・ワークのマニュアル作成
- 12 フィールド・ワークについての解説
- 13 調査票の回収状況の確認と回収調査票の整理
- 14 エディティングとコーディングの準備
- 15 フィールド・ワーク (1)
- 16 フィールド・ワーク (2)
- 17 調査票の点検 有効調査票の確定
- 18 コーディング
- 19 コンピュータへのデータ入力
- 20 SPSS の使い方 (1)
- 22 SPSS の使い方 (2)
- 21 集計とデータ・クリーニング
- 22 単変量分析
- 23 二変量分析
- 24 多変量分析
- 25 調査報告書の構成と執筆分担案の検討
- 26 執筆内容の具体化
- 27 報告書の草稿の報告
- 28 分析結果のプレゼンテーション (1)
- 29 分析結果のプレゼンテーション (2)
- 30 報告書原稿の提出と検討

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- 盛山和夫 (2004) 『社会調査法入門』 有斐閣
- 森岡清志 (2006) 『ガイドブック社会調査 [第2版]』 日本評論社
- 原純輔・海野道郎 (2004) 『社会調査演習 [第2版]』 東京大学出版会
- 原純輔 (2016) 『社会調査:しくみと考えかた』 左右社
- 三輪 哲・林 雄亮 (2014) 『SPSSによる応用多変量解析』 オーム社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicate the practical business ○

9. その他/In addition :

- ★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること. 授業にとって迷惑になる場合は, 退室を命じる
- ★授業計画は予定であり, 実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり, 変更になる場合があります
- ★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「社会調査士のための必修科目」のうち、「G. 社会調査の実習を中心とする科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、<http://jasr.or.jp/>を参照のこと。

(Google クラウド対応)

①クラスコード

u74zibn

②第一回授業の開始時期

4/21 日に第一回目の授業を行う。

③授業の実施方法

授業形式は google meet による Online 授業とする。

④関連資料の入手方法

関連資料の入手方法は google classroom において指示する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業に参加困難な学生には授業で使用する PowerPoint のファイルを配布し、メールで質問を受け付ける

⑥その他

通常の教室での対面授業が可能になり次第、そちらに戻す

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 14:50:46

科目名/Subject : 教育学実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 水曜日 2 講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
社会教育調査及び社会教育研修をデザインする
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
この実習では、社会教育・生涯学習に関する様々な現象を調査し、得た知見を、実際の職員の力量形成研修計画に組み込むまでを体験することで、調査の技法と研修計画の組み立て方の基本を学ぶ。
具体的には、宮城県教育委員会主催の社会教育職員研修（年間全4回、2020年度は5月28日（木）、8月29日（土）、10月29日（水）、2021年1月を予定）に関与することをとおして、実際の社会教育職員との交流をもちつつ、その職務の実際を理解する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
実習を通して、社会教育主事ないしは社会教育職員の仕事の基本と具体を理解する。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - ①オリエンテーション
 - ②第1回宮城県社会教育・生涯学習職員研修（5月28日（木））への参加
 - ③第2回宮城県社会教育・生涯学習職員研修（8月29日（土））の企画・調査・実施への関与
 - ④第3回宮城県社会教育・生涯学習職員研修（10月29日（水））の企画・調査・実施への関与
 - ⑤第4回宮城県社会教育・生涯学習職員研修（1月22日（金））での独自企画・調査・実施
 - ⑥事後指導（ふりかえり）
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
出席および取り組みへの積極性、研修計画・実施への貢献性、宮城県教育庁の方々への所見などをもとに、総合的に評価を行う。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
授業中に指示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
実習であるため、実習先の予定に合わせる事が原則であることから、正規の時間割以外の時間帯での取り組みが相当時間含まれる。具体は初回授業で示す。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business ○
9. **その他/In addition :**
今年度の取り組みは、宮城県教育庁生涯学習課主催の職員研修事業に加え、第60回社会教育研究全国集会（南三陸集会、主催：社会教育推進全国協議会）および、令和元年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス（主催：文部科学省）への企画段階からの加担という内容で実施する。

(Google クラウド対応)
①クラスコード
ahhk2fd
②第一回授業の開始時期
初回は4月22日（水）2限10:30から実施。
③授業の実施方法
・通年の予定であったが、後期日程を主に活用して行う予定。
・受講希望者は4月21日（火）正午までに石井山までDCメールにて連絡をするように（ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp）。
④関連資料の入手方法
追って指示する。
⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
・オンライン授業への参加が困難な学生については授業前日正午までに石井山までDCメールにて連絡をするように（ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp）。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/22 14:14:13

科目名/Subject : 社会科教育論 I

曜日・講時/Day/Period : 通年 水曜日 4 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 新福 悦郎

単位数/Credit(s) : 4

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会科教育論 I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

中学校における社会科教育の目標・内容・方法等について、その基本的な問題を検討する。注目されてきた社会科実践に学ぶことで、社会科教育の理論と実践の理解を深める。

授業の概要としては、社会科の成立と歴史の変遷を中心にして、社会科の目的・意義を理解し、代表的な授業実践を通して社会科授業の多様なあり方について学ぶ。社会科で育てる学力について考察し、平成 29 年版学習指導要領を分析する。社会科の授業方法について 6 つのアプローチを学び、社会科授業づくりの参考とする。社会科の内容と課題として、いじめ問題などを取り上げ、具体的な授業アプローチを学ぶ。以上を通して学んだことをもとにして、具体的に教材づくりを行ない、議論する。さらに、地域教材の開発や ICT の活用を通して、具体的に各個人で授業指導案を作成し、模擬授業を行なう。そして一つ一つの模擬授業について全員で意見交流し、授業づくりについて具体的に学ぶ。

また、授業の導入では、授業者の社会科教師としての体験的なエピソードを通して、中学校社会科教師の魅力と悩みを知る機会を準備している。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

① 中学校社会科教師として必要な実践的指導力の基礎を習得する。

具体的には次のような、実践的指導力を習得する。

- ・社会科成立の歴史と変遷を学び、社会科教師としての使命と役割を学ぶ。
- ・代表的な社会科の授業実践を学ぶことで、授業づくりの多様性と魅力を知り、授業づくりの要素を学ぶ。
- ・社会科で育てる学力について考察し、平成 29 年版学習指導要領の内容を理解する。
- ・社会科の授業方法として 6 つのアプローチがあることを学び、授業づくりに活用する。
- ・授業で活用する教材づくりを創意工夫してできるようになる。
- ・模擬授業を契機に、具体的な学習指導案を書けるようになる。
- ・模擬授業において、教育内容および教材、教育方法の観点から総合的に授業成立できるようになる。
- ・子どもたちの視点から授業を分析する力を学ぶ。

② 教育実習に臨む準備を整える。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業計画

第 1 回：オリエンテーション、学びの履歴

第 2 回：社会科の原型－公民科と歴史教科書

第 3 回：社会科誕生の経緯（加藤章『戦後歴史教育史論』、梅野正信『社会科歴史教科書成立史』をもとに）

第 4 回：社会科の変遷Ⅰ（初期社会科プランとカリキュラム）

第 5 回：社会科の変遷Ⅱ（やまびこ学校、勝田・梅根論争）

第 6 回：社会科の変遷Ⅲ（学習指導要領の変遷と社会科）

第 7 回：社会科の変遷Ⅳ（社会科解体の動きと政治との関係）

第 8 回：社会科実践史Ⅰ（安井俊夫の楽しくわかる社会科授業）

第 9 回：社会科実践史Ⅱ（杉浦正和・和井田清司のディベート）

第 10 回：社会科実践史Ⅲ

第 11 回：社会科の目標と学力（社会科で育てる学力とは何か。平成 29 年版学習指導要領）

第 12 回：社会科の授業方法Ⅰ（問題解決、理解、説明）

第 13 回：社会科の授業方法Ⅱ（議論、意思決定、社会参加）

第 14 回：社会科の授業方法Ⅲ（佐藤学「学びの共同体」と社会科）

第 15 回：社会科の内容と社会科の課題Ⅰ（いじめ問題の授業）

第 16 回：社会科の内容と社会科の課題Ⅱ（ハンセン病問題の授業）

第 17 回：社会科に内容と社会科の課題Ⅲ（戦後補償の授業）

第 18 回：社会科における教材づくりⅠ（グループにおける教材づくり）

第 19 回：社会科における教材づくりⅡ（教材の説明とグループ発表）

第 20 回：社会科における教材づくりⅢ（各個人における教材づくり）

第 21 回：地域教材づくりと授業（山元研二の地域の歴史教材開発の授業）

第 22 回：社会科教育と ICT

第 23 回：学習指導案の作成

第 24 回：模擬授業と省察Ⅰ

第 25 回：模擬授業と省察Ⅱ

- 第26回：模擬授業と省察Ⅲ
- 第27回：模擬授業と省察Ⅲ
- 第28回：模擬授業と省察Ⅳ
- 第29回：模擬授業と省察Ⅴ
- 第30回：本授業におけるまとめ

定期試験

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- 前期・後期テスト 30点
- 模擬授業およびレポート発表 40点
- リアクションペーパー 30点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

【テキスト】

- 1 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 2 中学校社会科教科書（地理、歴史、公民）

【参考書・参考資料等】

授業の中で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ①模擬授業発表時の指導案作成と授業準備
- ②各授業ごとのリアクションペーパー

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

質問がある場合は担当教員の次のメールに連絡すること。

etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

cttxo4x

②第一回授業の開始時期

・第一回授業の開始時期：4月22日（水）14:40～から実施

③授業の実施方法

Classroom に講義資料と課題を授業開始時期にアップ

④関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談（<mailto:etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp>へ連絡のこと）

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 15:52:05

科目名/Subject : 公民科教育論

曜日・講時/Day/Period : 通年 水曜日 5 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 新福 悦郎

単位数/Credit(s) : 4

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

公民科教育論

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

高校における公民科教育の目標・内容・方法等について、その基本的な問題を検討する。注目されてきた公民科実践に学ぶことで、公民科教育の理論と実践の理解を深める。

具体的な概要は、まず、公民科教育の意義と課題、目標論や学力論、歴史的変遷などについて理解し、新しい学習指導要領の内容について検討する。現代社会、倫理、政治経済の具体的な授業づくりについて、優れた授業実践等を参考にして分析し、必要な要素を理解する。さらに、授業で活用する教材の作成や開発について学び、学習指導案の作成方法を理解し、具体的な模擬授業を通して授業の進め方を実践的に理解する。公民科教育に係わる学習内容についてはテーマ毎にアプローチし、環境教育、ESD、金融教育、法教育、生と死の教育、平和教育などについて学んでいく。

なお、授業の導入では新聞記事を活用した授業プランについて各自発表してもらう機会も準備する予定である。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

① 高等公民科教師として必要な実践的指導力の基礎を習得する。

具体的には次のような実践的指導力を習得する。

- ・公民科教育の意義と課題について考察できる。
- ・公民科教育の目標論、学力論について考察できる。
- ・新しい学習指導要領の内容について理解し分析できる。
- ・現代社会、倫理、政治経済の授業づくりの方法を説明できる。
- ・教材を創意工夫して作成できる。
- ・学習指導案を作成できる。
- ・模擬授業を機会にして、授業を教育内容、教材、教育方法の観点から総合的に成立できる。
- ・子どもたちの視点から授業を分析できる。

② 教育実習に臨む準備を整える。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業計画

第1回：オリエンテーション、優れた公民科授業とは？

第2回：公民科教育の意義と課題

第3回：公民科教育の目標論・学力論

第4回：新しい学習指導要領と公民科教育

第5回：現代社会の授業づくりと方法Ⅰ

第6回：現代社会の授業づくりと方法Ⅱ

第7回：「公共」の授業づくりと方法を考える。

第8回：政治・経済の授業づくりと方法Ⅰ

第9回：政治・経済の授業づくりと方法Ⅱ

第10回：倫理の授業づくりと方法Ⅰ

第11回：倫理の授業づくりと方法Ⅱ

第12回：公民科教育と教材づくりⅠ

第13回：公民科教育と教材づくりⅡ

第14回：公民科教育の評価Ⅰ

第15回：公民科教育の評価Ⅱ

第16回：公民科教育の歴史Ⅰ

第17回：公民科教育の歴史Ⅱ

第18回：環境教育とESD

第19回：生と死の教育

第20回：金融教育

第21回：国際理解教育

第22回：法教育

第23回：平和教育

第24回：教育実習と指導案

第25回：模擬授業と評価Ⅰ

第26回：模擬授業と評価Ⅱ

第27回：模擬授業と評価Ⅲ

第28回：模擬授業と評価Ⅳ

第29回：模擬授業と評価Ⅴ

第30回：まとめ

定期試験

5. 成績評価方法/Evaluation method :

前期・後期テスト 30点

模擬授業およびレポート発表 40点

リアクションペーパー30点

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

【教科書】

- ・ 魚山秀介・小泉博明・檜原毅・宮崎猛『新しい公民科教育の実践と理論』（清水書院）

【参考書】

- 1 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』
- 2 高等学校公民科教科書

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

①レポート発表担当時のレジメ準備

②模擬授業発表時の指導案作成と授業準備

③各授業ごとのリアクションペーパー

④次回授業時の論文を事前に読んでくること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness ○

9. その他/In addition :

質問がある場合は担当教員の次のメールに連絡すること。

etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp

(Google クラウド対応)

①クラスコード

yjs5cgx

②第一回授業の開始時期

・ 第一回授業の開始時期：4月22日（水）16:20～から実施

③授業の実施方法

Classroom に講義資料と課題を授業開始時期アップ

④関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談（<mailto:etsuro.shimpuku.d3@tohoku.ac.jp>へ連絡のこと）

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 15:51:20

科目名/Subject : 教育学実習

曜日・講時/Day/Period : 通年 木曜日 4 講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間形成に関わる文化人類学的フィールドワークの実習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

フィールドワークは、実証科学の非常に有効な調査方法の一つである。と同時にそれは、自己理解を深めるとともに新たな他者理解を開くための手法でもある。しかし、そのやり方はただ講義を聞いただけでは絵に描いた餅であり、実際に現場で体験してみないことには習得は難しい。そこで、この実習では、まずフィールドワークの方法を文献等から学んだ上で、自らも実践を試みるにより、自分で実際に使えるツールとして身につけることを目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

文化人類学的なフィールドワークを理論と実践の両面から学ぶことを通して、質的調査の具体的な技法を習得すると同時に、現場での実習を経る中で自分自身や他者をこれまでとは違ったまなざしで見つめられるようになることを目標とする。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業の前半では、調査研究に関する教科書文献や、文化人類学的なフィールドワークの成果である優れた民族誌を受講者全員で読む。同時にそれらについての自由なグループディスカッションを行い、理解を深めていく。その上で、頭で学んだフィールドワークの方法を現場で実践しながら自らの体験の中で鍛錬するために、各自テーマを設定し、フィールドワークを行う。今年度の調査地は、初回の授業で発表する。調査終了後には、調査結果の整理や資料化を行うと同時に、参与観察やインタビューをどのように分析していけばよいかを実践的に習得していく。

1) オリエンテーション 2) 文化人類学的フィールドワークとは① 3) 文化人類学的フィールドワークとは② 4) 文化人類学的フィールドワークとは③ 5) 民族誌のレビュー① 6) 民族誌のレビュー② 7) 民族誌のレビュー③ 8) 民族誌のレビュー④ 9) フィールドワークの実習① 10) フィールドワークの実習② 11) フィールドワークの実習③ 12) フィールドワークの実習④ 13) 調査資料の整理・分析① 14) 調査資料の整理・分析② 15) フィールドワーク報告会 (全受講生による成果報告と討議)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

教室での発表やディスカッション (30%)、フィールドワークや整理作業等への積極的参加 (40%)、報告会での成果発表など (30%) を総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

李仁子・金谷美和・佐藤知久『はじまりとしてのフィールドワーク：自分がひらく、世界が変わる』昭和堂、2008

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

調査地でのフィールドワークおよび調査資料の整理・分析に相応の時間を要する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ・ 海外調査を予定しているが、場所などは授業開始以降となる。
- ・ 調査実習を円滑に進めるため、定員をもうける。(10名まで)
- ・ ディスカッションにもフィールドワークにも自発的かつ積極的に参加する、意欲的な学生の受講を望む。

(Google クラクルーム対応)

① クラスコード

zdzfwtk

② 第一回授業の開始時期

4月23日 14時40分開場

③ 授業の実施方法

- ・ オンライン授業 (Google Meet)

・ 受講希望者は4月22日 (水) 正午まで、李までDCメールにて連絡をするように (mail@leeinja.net)

④ 関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/08 23:08:27

科目名/Subject : 教育課程総論

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 清水 禎文 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代日本における教育課程政策史

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育課程政策は、国民の合意に由来する公権力によって選択された教育理念を実体化・具体化する上でもっとも重要な役割を担っている。この授業では、戦後日本における教育理念、教育課程および教育実践を含みつつ、やや幅広く検証することによって、教育課程政策の展開を再定義することを目的とする。授業の具体的な目標としては、第1に教育課程（カリキュラム）という概念についての基本的理解を踏まえ、第2に教育課程の政策的背景についての理解すること、その上で第3の目標として、教育課程（カリキュラム）概念を動的に理解すること（カリキュラムの理論および発達史、カリキュラ政策の国際比較、またカリキュラム研究の動向など）を目標とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1 教育課程（カリキュラム）の基本構成要素について理解する。
- 2 教育課程の変遷について理解する。
- 3 教育課程政策の背景要因について理解する。
- 4 教育課程を多面的・批判的に検討する態度と方法を習得する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「カリキュラム」の拡がりと教育課程
- 第3回 教育課程の構成要素 カリキュラム開発史から
- 第4回 教育課程政策史の目指すもの
- 第5回 戦後日本における教育課程研究の系譜
- 第6回 戦後日本における教育課程政策の展開 戦後教育改革と経験主義的教育課程の試み
- 第7回 戦後日本における教育課程政策の展開 経験主義から系統主義への「転換」
- 第8回 戦後日本における教育課程政策の展開 能力主義的教育課程
- 第9回 戦後日本における教育課程政策の展開 「ゆとり」への転換
- 第10回 戦後日本における教育課程政策の展開 「生きる力」の教育課程
- 第11回 戦後日本における教育課程政策の展開 「資質・能力」の教育課程
- 第12回 教育課程の国際比較 国境を越える教育改革のストラテジー
- 第13回 教育課程の国際比較 PISA テストのインパクト 「エビデンス」の批判的検討と教育課程
- 第14回 教育課程の国際比較 教育課程におけるグローバリズムとリージョンナリズム
- 第15回 教育課程研究への誘い

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎回のふり返りシート (40%)、レポート (20%)、期末試験 (40%) とする。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- 主な参考書
- 水原克敏『現代日本の教育課程』風間書房
 - 加藤地三他『戦後日本教育史料集成』三一書房
 - OECD (有本昌弘他訳)『キー・コンピテンシー』明石書店

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習として、事前に指定する文献・資料等に目を通して頂くこと (45分程度)。復習として、学習した内容をノート等にまとめること (45分程度)。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

① クラスコード

gl57deq

② 第一回授業の開始時期

5月11日 (月) から実施

③ 授業の実施方法

Google Meet を使う予定

④ 関連資料の入手方法

共有ドライブにアップデートする

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
個別に相談

10. **更新日付/Last Update :**

2020/02/25 12:48:01

科目名/Subject : 教育心理学講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 2講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

文章理解の心理学

Psychology of Reading

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

私たちは文章を読むことで、時間的・空間的な隔たりを越えて、人とつながり、あるいは思想や技術を学び、伝え、創出する。このように重要な文化的活動である文章の読解について、本講義では、その認知過程および読解学習、読書の心理学研究を中心に概観する。

The aim of this course is to help students acquire the conceptual framework and factual knowledge of psychology of reading.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・文章読解の過程について基礎的な知識を学ぶ。
- ・読解に関する研究について知識と理解を深める。
- ・日本の読書に関する教育・研究について知識と理解を深める。

The goals of this course are to: 1) obtain basic concepts about reading processes, 2) understand the findings from scientific researches on reading, 3) acquire comprehensive knowledge about researches on reading in Japan.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 -- 第2回 「読む」こととは

第3回 -- 第5回 文章の読解過程

第6回 -- 第8回 ジャンルや形態と読み

第9回 -- 第11回 読みにおける感情、読みの熟達

第12回 -- 第14回 読書の発達

第15回 まとめ と振り返り

(1) -- (2) What is "Reading"?

(3) -- (5) Processes of Reading Comprehension

(6) -- (8) Various Reading

(9) -- (11) Reading and Emotion

(12) -- (14) Reading Books

(15) Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での課題 (50%)、レポート (50%) により評価する。

Grading will be based on in-class essay(50%) and term paper(50%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

○参考書

日本読書学会編 2019 読書教育の未来 ひつじ書房.

大村彰道 監修 秋田喜代美・久野雅樹 編集 2001 文章理解の心理学：認知、発達、教育の広がりの中で 北大路書房.

その他授業中に適宜資料の配布および参考書の紹介をする。

References and reading materials will be distributed and/or introduced at class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・配布資料を読んで授業に参加する。
- ・Minute Paper をもとに授業内容を復習して理解を深める。

Students are expected 1)to prepare each class by reading handouts; 2)to review them and other materials that used in the class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラウド対応)

①クラスコード

7cqwfxt

②第一回授業の開始時期

4月20日(月)3限 10:20~

③授業の実施方法

Classroomに講義資料と課題をアップの予定。詳細はClassroomで連絡する。

④関連資料の入手方法

授業用の資料はClassroomで紹介する予定。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。4月19日（日）までに深谷（yuko.fukaya.a7@tohoku.ac.jp）に連絡すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:30:27

科目名/Subject : 教育統計学 (心理学統計法)

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 2 講時 文学部第 1 講義室

担当教員/Instructor : 2020 熊谷 龍一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育統計学

Educational Statistics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育・心理学に必要なとなる統計的素養の入門を学ぶ。レベルは初等統計。数学的な準備としては高校文科系程度のものがあればよい。学部科目「統計的学習論講義」へ接続する。

This course deals with the basic concept of educational statistics. The level of this course is elementary statistics, so knowledge of elementary mathematics in high school is necessary to take this class.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 心理・教育で使われる基本的な統計用語・概念が理解できること。
2. 教育学的なデータの処理に際して記述統計の知識を利用できること。
3. 初歩的な推測統計の知識に基づき、統計資料を分析し理解できること。

The goals of this course are to

1. be able to recognize and recall major terms of statistics,
2. be able to apply knowledge of descriptive statistics to educational data analysis,
3. be able to understand and analyse statistical materials using knowledge of basic inferential statistics.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第 1 回 統計学の概要と数学的準備
- 第 2 回 分布の記述的指標とその性質 (1)
- 第 3 回 分布の記述的指標とその性質 (2)
- 第 4 回 相関と回帰 (1)
- 第 5 回 相関と回帰 (2)
- 第 6 回 相関と回帰 (3)
- 第 7 回 測定の妥当性と信頼性 (古典的テスト理論入門)
- 第 8 回 変数と統計量のベクトルによる表現 (1)
- 第 9 回 変数と統計量のベクトルによる表現 (2)
- 第 10 回 確率モデルと標本分布 (正規分布を中心に) (1)
- 第 11 回 確率モデルと標本分布 (正規分布を中心に) (2)
- 第 12 回 推定と検定の考え方 (1)
- 第 13 回 推定と検定の考え方 (2)
- 第 14 回 推定と検定の考え方 (3)
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎回の小テスト および 期末試験

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

南風原朝和 『心理統計学の基礎－統合的理解のために－』 有斐閣アルマ

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ・理解を促進するために、各授業の初めに小テストを行うので復習は必ずしておくこと
- ・授業内容が積み上げ方式のため、初回からの参加が望ましい

(Google クラウド対応)

① クラスコード

kyli36g

② 第一回授業の開始時期

- ・第 1 回目の授業は 4 月 20 日 (月) 10 : 30 分までに配信予定。
内容は、授業の進め方等のオリエンテーションになります。

③ 授業の実施方法

・授業は Google Classroom による動画配信形式。

④関連資料の入手方法

・授業資料については、Google Classroom にて共有。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・動画の視聴が困難な学生については、動画の内容を PDF にした資料を Google Classroom にて配布します。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 12:00:29

科目名/Subject : 健康・医療心理学

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

健康・医療心理学 / Health and Medical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心身の健康とは何かを広い視野で考え、またそれが損なわれる原因について理解するとともに、心身の問題に対する具体的な支援の在り方について学ぶ。また援助法について、医療現場における心理援助職の役割と課題、医療現場で活用されている心理的援助法の理論や特徴について学ぶ。

Understand factors detrimental to health and learning practical strategies to help people cope with mental and physical problems.

Learn the role of psychological assistance practitioners in medical settings and issues in providing help, and the theory and characteristic of psychological assistance applied in medical settings.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①心身の健康とそれが損なわれる要因との関係を理解する

②さまざまな心身の問題に対する支援の在り方、医療現場における心理的援助の役割と課題、具体的な方法論について説明できる

1.To understand mental and physical health and its obstructive factors.

2.To understand psychological assistance for mental and physical problems.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 健康心理学概論
2. 健康心理学におけるアセスメントと支援
3. 健康心理学の実際 (1) ストレスマネジメント
4. 健康心理学の実際 (2) 各種の心理支援法
5. 医療心理学概論
6. 医療心理学におけるアセスメントと支援
7. 医療心理学の実際 (1) 精神科
8. 医療心理学の実際 (2) 院内独立型心理室
9. 医療心理学の実際 (3) 心療内科
10. 医療心理学の実際 (4) 小児科
11. 医療心理学の実際 (5) 緩和医療
12. 医療心理学の実際 (6) 産業保健
13. 地域保健活動
14. 災害心理学
15. 多職種協働と医療連携 / 期末試験

1. Health psychology
2. Assessment and psychological support in health psychology
3. Stress management
4. Variety of psychological support
5. Medical psychology
6. Assessment and psychological support in medical psychology
7. Psychiatry
8. Stand-alone counseling room in hospitals
9. Psychosomatic medicine
10. Pediatrics
11. Palliative care
12. Occupational health
13. Community health
14. Disaster psychology
15. Collaboration with other specialists / Final exam

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末試験 (100%)

Final exam (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

公認心理師カリキュラム準拠 健康・医療心理学 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）医歯薬出版 2018年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に当該章を予習し、自らの疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。

Students have to read the textbook and clarify question marks.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

gnehse3

②第一回授業の開始時期

4月20日(月)3限:13:00~

③授業の実施方法

Meet(音声のみ)を用いたポイント解説、Hangout Chatを用いた質疑応答、Classroomを用いた小テスト

④関連資料の入手方法

授業用の動画・資料・課題等はClassroomで紹介

事前にシラバスで指示のある教科書を購入し、手元に置いておくこと”

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談(saran.yoshida.d6@tohoku.ac.jp)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : 教育相談 (教育・学校心理学)

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学校における諸問題の理解と対応

Understanding and responding to various problems at school

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

不登校・いじめなど児童生徒を取り巻く学校環境、そしてニート・ひきこもりなど青年のキャリア形成に、種々の問題が指摘されて久しい。この授業では、それらの問題とその対応についての基礎的な理解を目指し講義を行う。具体的な理解の促進のため、視聴覚教材も適宜用いる。

Various problems have been pointed out for school environments surrounding schoolchildren such as school refusal, bullying, hikikomori and NEET for a long time. In this lesson, we will give a lecture aiming at basic understanding of those problems and their correspondence. To promote concrete understanding, audiovisual teaching materials are used as appropriate.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 児童・生徒の問題行動や不適応行動についてその概要を理解する。
2. 学校内外における教育相談や生徒指導、支援の概要を理解する。
3. 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法について理解する。

Participants will

1. understand the outline of problem behavior and maladaptive behaviors of children.
2. understand the outline of educational counseling, student guidance, and support resources inside and outside the school.
3. understand the theory and method of course instruction and career education.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 教育相談と生徒指導
3. カウンセリングの理論と方法
4. キャリア教育
5. 非行の動向と対応
6. いじめの動向
7. いじめへの対応 1 : 個別事例への対応
8. いじめへの対応 2 : 予防と組織的対応
9. 不登校の動向 1 : 児童生徒のストレス、不登校の概況
10. 不登校の動向 2 : 不登校の原因
11. 不登校への対応
12. 自殺の動向
13. 自殺予防教育
14. 発達障害の理解と対応
15. まとめと試験

1. Orientation
2. Educational consultation and guidance of students
3. Theory and method of counseling
4. Career training
5. Trends of delinquency and correspondence
6. Trends of bullying
7. Response to bullying 1: Response to individual cases
8. Response to bullying 2: Prevention and systematic response
9. Trends of school refusal 1: Stress of students, general situation of truancy
10. Trends in school refusal 2: Cause of school refusal
11. Response to school refusal
12. Trends of suicide
13. Suicide prevention education

- 14. Understanding and responding to developmental disorders
- 15. Summary and Exam

5. 成績評価方法/Evaluation method :

受講態度 : 20%、試験 : 80%

attitude in class:20%, exam:80%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

参考書 : 生徒指導提要 (文科省、H22)、中学校キャリア教育の手引き (文科省、H23)、高等学校学校キャリア教育の手引き (文科省、H23)、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果 (文科省、H30)、教育相談 (森田、H30、ミネルヴァ書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

参考書等の講読。

Reading reference books etc.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

c341psd

②第一回授業の開始時期

4月20日(月)4限:14:40 までに掲示

③授業の実施方法

オンデマンド方式(動画(音声ppt)配信方式)

④関連資料の入手方法

授業用の動画・資料はClassroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談(hideo.ambo.d5@tohoku.ac.jpへ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 11:31:48

科目名/Subject : 発達心理学演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 月曜日 5講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学研究の動向 / Current trends of researches and studies of developmental psychology on childhood

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

主に子どもを対象とした発達心理学研究を講読することで、発達心理学の研究動向を把握するとともに、子どもを対象とする研究手法について理解する。

/This course aims to describe the current trends of developmental studies on childhood, and to understand study methods through intensive reading the research papers of the developmental studies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

現在の発達心理学研究における主要な研究テーマについて理解する。

/ At the end of the course, you should be able to describe main research interests and issues in current developmental psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

発達心理学関連学会誌(教育心理学研究、発達心理学研究、心理学研究、パーソナリティ研究など)の掲載論文を取り上げる。毎回、報告担当者がレジュメを作成し、著者の立場にたつて論文を紹介する。指定討論者は批判的な観点から討論すべき点を指摘する。それらをふまえ、全員で議論する。

This course will cover articles published in academic journals related to developmental psychology. Every time, the reporter creates a resume and introduces the paper based on the author's position. Debateors point out problems in the paper from a critical point of view. Based on those, discuss with all.

第1回 オリエンテーション

第2回 発表にあたっての注意と準備

第3回-第14回 発達心理学に関連する査読論文を選択し、報告担当者がそれぞれの論文について報告し、全員で討議する。

第15回 まとめとふりかえり

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献(70%), 期末レポート(30%)により評価する。

/ Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(70%) and term paper(30%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教育心理学研究、心理学研究、発達心理学研究、パーソナリティ研究など

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

次週の発表論文を受講者全員が事前に読んでおくこと。/Students are expected to read the assigned papers beforehand and prepare for the discussions.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。/The course management will be explained in the first lecture.

(Google クラブルーム対応)

①クラスコード

nk76ywe

②第一回授業の開始時期

4月20日(月)5限(ガイダンスのみ)

③授業の実施方法

Classroomに掲載されたガイダンス資料を読むこと。受講を決定した学生はメンバー登録をし、発表論文を探しておくこと。本格的には5月以降開始。

④関連資料の入手方法

授業用の資料はClassroomで紹介する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。mari.hasegawa.c2@tohoku.ac.jpに連絡すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 13:52:46

科目名/Subject : 教育情報デザイン論演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 1 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

真剣に実践し続ける力を育む

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

何か困難なことをやり遂げようとするならば、長い期間にわたって強い意志を保ち、努め励み続ける必要がある。

この授業では受講者自身が、そのような、真剣に実践し続ける力を養うことを目的とする。

その目的を達成するために、受講者は自分自身に合う目標を決め、それに向かって毎日努力することが求められる。

その毎日のプロセスの中で、最新のテクノロジーを含めた古今の努力を継続するための方法を試す。

試した内容をクラス内でディスカッションをしつつ、自分に合うものと合わないものを取捨選択し、あるいは自分に向けた新しい方法を見出していく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 受講者自身にとって、長期間継続できるような目標を見出せる。

2. 自分に合った、努力を継続できる方法を見出せる。

3. セメスターの間、努力を継続できたことを証明できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

下記の内容を受講者の進度に合わせて行う。進度によっては、より高度な内容を導入することがある。

・なぜ継続して努力する必要があるのか？

・目標の仮設定。まずやってみる。

・自分に向けた目標とは。

・クラス内での経験のシェア。

・古今の努力継続法、GRIT。

・目標・方法の改善。

・振り返り。

・自分に向けた方法と向かない方法。

・科学で証明されているけれど、自分には合わないこと。

・まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

・ほぼ毎回の小レポート(20%)

・授業内での種々の活動(40%)

・最終レポート(20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

1. 『やり抜く人の9つの習慣』, ハイディ・グラント・ハルバーソン, ISBN 978-4799321133

2. 『1日ひとつだけ、強くなる。』, 梅原 大吾, ISBN: 978-4046006417

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

1. 自分で決めた目標に向かって毎日継続的に実践を行う。

2. ほぼ毎回の小レポート。

3. 最終レポート。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

この授業では、知識の習得よりも実際に能力や態度を身につけることが中心となる。

それゆえに、授業に参加するだけで単位を得ることは難しく、毎日の授業時間外での活動が必要となる。

(Google クラスルーム対応)

②第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は4月21日(火)8:50~から実施

③授業の実施方法

・授業はGoogle Meet を使用し行う予定・受講希望者は4月20日(月)正午までに中島までDCメールにて連絡をするように(nakag@tohoku.ac.jp)。

④関連資料の入手方法

・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月20日(月)正午までに中島までDCメールにて連絡をするように

(nakag@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 13:41:43

科目名/Subject : 福祉心理学

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司, 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

福祉心理学

Welfare Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

障害者, 子ども家庭, 高齢者等の福祉を中心に, 社会福祉の理念や制度を踏まえ, それぞれの現場で生じている心理社会的な問題を理解し, 適切な支援とはなにかについて考える。

The aim of this course is to understand the psychosocial problems that occur at each field based on the social welfare philosophy and system, focusing on the welfare of children and adults with disabilities, children and families, the elderly, and discuss what appropriate support is.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 障害者, 子ども家庭, 高齢者といった主だった社会福祉の基本的な理念や制度を理解する
- 2) 福祉現場で生じている問題とその背景を説明し, 必要とされる心理的支援を活用できる

By the end of the course, Participants should be able to do the following:

- 1) Understand the basic philosophy and system of social welfare, such as children and adults with disabilities, children and family, and the elderly
- 2) Explain the problems that are occurring at the each welfare field and their background, and can utilize the necessary psychological support.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1) イントロダクション & 障害のある子どもの乳幼児期における心理社会的課題と支援 (1)
- 2) 障害のある子どもの乳幼児期における心理社会的課題と支援 (2)
- 3) 障害のある子どもの学齢期における心理社会的課題と支援 (1)
- 4) 障害のある子どもの学齢期における心理社会的課題と支援 (2)
- 5) 障害のある青年・成人における心理社会的課題と支援 (1)
- 6) 障害のある青年・成人における心理社会的課題と支援 (2)
- 7) 中途障害の子ども・成人における心理社会的課題と支援
- 8) 子ども家庭福祉の理念と制度
- 9) 子ども家庭福祉の諸機関
- 10) 子ども家庭福祉に関する心理社会的課題と支援 (1)
- 11) 子ども家庭福祉に関する心理社会的課題と支援 (2)
- 12) 児童虐待とその支援
- 13) 高齢者福祉に関する心理社会的課題と支援
- 14) 認知症と介護に関する支援
- 15) 試験とまとめ

(講義の内容や順番は変更の可能性あり)

- 1) Introduction & Psychosocial issues in and supports for children with disabilities in infancy (1)
- 2) Psychosocial issues in and supports for children with disabilities during infancy (2)
- 3) Psychosocial issues in and supports for children with disabilities during school age (1)
- 4) Psychosocial issues in and supports for children with disabilities during school age (2)
- 5) Psychosocial issues in and supports for adolescents and adults with disabilities (1)
- 6) Psychosocial issues in and supports for adolescents and adults with disabilities (2)
- 7) Psychosocial issues in and supports for children and adults with acquired disorders
- 8) Philosophy and system of Children and Family Welfare
- 9) Support centers and institutions for Children and Family Welfare
- 10) Psychosocial issues in and supports for children and family welfare (1)
- 11) Psychosocial issues in and supports for children and family welfare (2)
- 12) Child maltreatment and its support
- 13) Psychosocial issues in and supports for elderly welfare
- 14) Dementia and support for nursing care

15) Test and summary

(Lecture contents and the order may be slightly changed.)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎講義時のコメント (30%) 及び期末試験 (70%)

Minute Papers: 30%, and Term-end examination: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料はその都度配布する。参考書籍は、適宜講義時間内に紹介する。

Will be provided and introduced in the class or through ISTU.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間内に指示する。

Will be suggested in the class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

gob7bax

②第一回授業の開始時期

初回：4月28日(火) 8:50～

③授業の実施方法

オンライン講義（リアルタイム視聴あるいはオンデマンド）を想定していますが、しばらくの間は資料配布による学習形態をとることとします。詳細は、追って伝達します。

④関連資料の入手方法

ClassroomあるいはGoogle Drive等の共有ドライブから入手するようにします。共有ドライブを作成するため、受講希望者はClassroomの本授業のストリームからフォームを介して、4月21日(火)17時までに履修希望をお知らせください。資料配布の詳細は、追って伝達します。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応します。オンライン授業への対応が困難である場合は、フォームで履修希望をお知らせいただく際に、その旨を付してください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 教育政策科学演習IV

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代学校改革の理論的諸問題 / Theoretical Issues on Current School Reform

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

いつの時代でも学校は改革論議の焦点とされてきたが、そこで提示されてきた論点や課題には、近代的制度としての学校の本質や矛盾を突くものから、政治・経済・社会の変動に即して徐々に変容してきたものまで、様々なものがある。本演習では、主に1990年代以降の学校改革において焦点とされてきた原理的・理論的課題（教育の公共性、新自由主義、教育を受ける権利の保障等）について、主要な文献を読み進めながら理解を深めることを目的とする。 / “School” has always been discussed as “what it should be reformed” after World War II in Japan. There have been many issues about school reform. Some issues have not been changed because they are requisite for us to understand the relationship between schools and society (i.e., the equality of educational opportunity or the publicness of education), but others have been newly occurred in the development of modern society (i.e., neoliberalism). This course covers these issues to help students understand the current school reform debates, especially focusing on the articles issued after 2000.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・1990年代以降の学校改革の動態について原理的かつ構造的に把握できるようになる。
- ・教育学および教育行政学で用いられる主要概念を理解できるようになる。
- ・教育学および教育行政学の主要概念を用いて論証を展開できるようになる。

/The aim of this course is that students understand main issues of school reform debates after 2000 in the field of education policy studies. Through this process, students will develop the skills to discuss academic topics using technical terms and to write logical comments.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

参加者の数に応じて小グループを形成し、グループ内ディスカッションを中心とする授業を行う。参加者は毎回、課題論文を読んで、感想や疑問をワークシートに記入してることが求められる。授業では、教員がはじめに課題論文のポイントと論点について解説し（約30分）、その上でワークシートに基づくディスカッションをグループごとに行う（約30～40分）。最後に、グループごとにディスカッションの成果を発表し、教員がコメントや補足説明を加えていく。

/ In this course, students are structured into small groups and required to discuss educational issues with others. Students are required to read an academic article every week. The contents and schedule are as shown below:

(進度予定)

1. オリエンテーション／学校改革の動態と主要争点
2. 公教育の構造変容
3. 一つの解としての新自由主義的教育改革
4. 教育の公共性と国家関与をめぐる争点と課題
5. 多文化社会の教育と宗教をめぐる現代的課題
6. 学校選択制・民営化と教育機会
7. ガバナンス改革と教育の質保証
8. 教育は誰のものか—格差社会のなかの「学校選び」
9. 現代教育政策の公共性分析
10. 教育主体の多様化に対する公財政支出の公共性確保
11. 多様な教育機会の確保と学習権保障（土岐）
12. 〈シティズンシップ／教育〉の欲望を組みかえる
13. 生活・生存保障と教育をむすぶもの／へだてるもの（倉石）
14. 市民社会と民主主義的排除
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ワークシートへの評価（55%）、毎回の授業へのコメント（15%）、最終レポート（30%）

/ Your overall grade in this class will be decided based on the following:

- Quality of comments written in worksheet: 55%
- Quality of short comments you write in every class: 15%
- Final report: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

本授業で使用する論文は以下の図書に採録されたものである。論文はISTUを通じて入手可能にする。 / Academic articles used in this course are handout through ISTU.

- ・藤田英典、大桃敏行編 (2010) 『リーディングス日本の教育と社会⑩ 学校改革』 日本図書センター。
- ・日本教育学会編 (2015) 『教育学研究』 第 82 巻第 4 号。
- ・小玉重夫編 (2016) 『岩波講座 教育 変革への展望 6』 岩波書店。
- ・日本教育学会編 (2018) 『教育学研

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・論文の熟読 (毎回)。
- ・ワークシートへの記入 (毎回)。

/Reading articles and writing worksheets.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

【使用言語】

日本語のみ。 / This course will be taught in Japanese.

【その他】

・E-mail: taketoshi.goto.a8@tohoku.ac.jp

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

hhb7emw

②第一回授業の開始時期

第 1 回 : 4 月 21 日 (火) 10:30~

③授業の実施方法

- ・リアルタイム型 (Google Meet を使用)
- ・受講希望者は 4 月 20 日 (月) 正午までに後藤まで DC メールにて連絡をすること (@tohoku.ac.jp)。

④関連資料の入手方法

- ・google classroom から入手すること

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・通常の課題に加えて、補足の課題提出とメールでのやりとりで対応する

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 11:30:59

科目名/Subject : 生涯学習論演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

自治を築く学び

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

子育て、環境問題、地域福祉など、暮らしの質を良くするために取り組まれている市民の学習と行動に着目し、そのような営みを支える社会教育実践の実際をとらえる。さらに、それらをふまえて、ゼミ参加者それぞれの教育経験を振り返りながら、「教育とは何か」をあらためて考えあう。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

地域でいかなる学習実践が組み立てられているのか、その実際についての基礎的理解とともに、そうした学習を組み立てるための基礎的な素養を培う。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

こちらで用意した論文や実践記録を素材に、学生相互で議論を行う。事前に、報告者と司会者を決め、演習当日は、報告者による論文・実践記録の内容紹介と論点の提案を受け、司会者の進行にもとづき、全員参加の議論を行う。検討する実践記録や論文は、参加者の関心や議論の方向に応じて適宜調整する。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

討議への参加度、議論の深まりへの貢献度、最終レポートから、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

大田堯『地域のなかで教育を問う』（藤原書店、2017年）など。 その他、授業の中で提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

定例の時間以外で、宮城県内で行われている、地域問題にかかわる学習会などへの参画を予定している。

なお、受講の延長に、8月29(土)～30日(月)に開催される第60回社会教育研究全国集会（南三陸集会）にもあわせて参加いただきたい。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

受講希望者数がディスカッションを行いにくい規模に達したときには、人数制限がありうることを、ご容赦いただきたい。

(Google クラウド対応)

① クラスコード

xxnv3zg

② 第一回授業の開始時期

第一回目の授業は4月21日(火) 2限 10:30 から開始

③ 授業の実施方法

・授業は Zoom を使用し行う予定

・受講希望者は4月20日(月) 正午までに石井山までDCメールにて連絡をするように(ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp)。

④ 関連資料の入手方法

・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生については授業前日正午までに石井山までDCメールにて連絡をするように(ryuhei.ishiiyama.e1@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/22 13:47:12

科目名/Subject : 教育心理学演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 2 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学文献講読

Reading papers on educational psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育心理学の研究論文を講読することで、心理学研究の具体的内容を知るとともに、研究の方法やまとめ方を学ぶ。

This course deals with discussions on papers on educational psychology.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①心理学研究論文を読解するための基本概念を理解する。
- ②心理学研究を進めるための具体的な方法、研究をまとめる際の論述構成法を理解する。
- ③多様な研究領域を知り、研究に対する興味を高める。

The goals of this course are to

- (1) Understand the basic concepts for reading research papers.
- (2) Understand the methodology of psychological research.
- (3) Increase motivation for research.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

教育心理学関連学会誌（教育心理学研究、発達心理学研究、教授学習心理学研究など）の掲載論文を取り上げる。毎回、報告担当者がレジュメを作成し、著者の立場にたつて論文を紹介する。指定討論者は、批判的な観点から討論すべき点を指摘する。それらをふまえ、全員で議論する。

This course will cover articles published in academic journals related to educational psychology. Every time, the reporter creates a resume and introduces the paper based on the author's position. Debateors point out problems in the paper from a critical point of view. Based on those, discuss with all.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

報告担当者および指定討論者としての貢献度（40%）、議論への参加度（30%）、期末レポート（30%）で評価する。

The degree of contribution (40%) as the reporter and the debateor, the degree of participation in the discussion (30%), the final report (30%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

あらかじめ指定された文献を読み、内容を理解しておくとともに、必要に応じて事前学習を進める。

The students are expected to read preliminarily specified papers, understand the contents, and prepare as necessary.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed. tohoku. ac. jp

(Google クラウド対応)

① クラスコード

5gxc3q

② 第一回授業の開始時期

4/21 (火) 2 限開始。

③ 授業の実施方法

当面は資料配付方式。状況を見て、Meet を用いたリアルタイム方式に変更する可能性もあり。

④関連資料の入手方法

Classroomに講義資料と課題をアップする

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
資料配付型で対応

10. **更新日付/Last Update :**

2020/02/18 16:01:14

科目名/Subject : 海外教育演習

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3講時 総合研究棟201教室

担当教員/Instructor : 2020 劉 靖

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 英語

1. 授業題目/Class subject :

Shadow Education in East Asia 東アジアにおける私的な補習指導

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

Shadow education has been a global phenomenon over the past years. East Asia is one of the regions where shadow education is deeply rooted and widely influenced by social, economic and cultural development. The primary objective of this course is to investigate patterns, nature, and impact of shadow education in East Asian societies.

The course includes four parts. It starts with the introduction of shadow education, reasons for shadow education, impact of shadow education and policy responses to the rise of shadow education in general. Also, it gives specific focus on shadow education in East Asia. In the 2nd part, it provides knowledge and skills of fieldwork, such as research proposal writing, interview methods, and research ethics. Group fieldwork on shadow education will be conducted in the 3rd part. In the last part, participants are required to submit a final group report of the fieldwork.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

Goals of study are to enable students to: (1) have a more comprehensive and more in-depth understanding of shadow education in the context of East Asia and beyond, (2) obtain knowledge and skills of critically analyzing educational issues, (3) acquire fieldwork skills through group work in a foreign context, and (4) improve their communication skills through group work and foreign languages.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

Week 1 Introduction

-Shadow education

-Fieldwork

Week 2 Why Is Shadow Education Needed?

-Supply

-Demand

-Social and cultural context

Week 3 Impact of Shadow Education

-Academic achievement

-Mainstream schooling

-Inequalities and social cohesion

Week 4 Policy Responses and Options

-Alternative approaches

-New trends

Week 5 Shadow Education in East Asia (1)

Week 6 Shadow Education in East Asia (2)

Week 7 Fieldwork 1

-Research proposal

Week 8 Interim Presentation

Week 9 Fieldwork 2

-Interview

Week 10 Fieldwork 3

-Research ethics

Week 11 Fieldwork 4

-Interview: Pilot study

Week 12 Fieldwork 5

-Language

Week 13 Group Presentation of Research Proposal

Week 14-15 Fieldwork

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Class participation (25%)

Group preparation and fieldwork (35%)

Final group report (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

References and reading materials will be distributed at class. 授業内で文献などを配布する。

Main references 主な参考書 :

Mark Bray (2007) The Shadow education system: private tutoring and its implications for planners. Paris: UNESCO
マーク・ブレイ (著) 鈴木慎一 (訳・解説) 『塾・受験指導の国際比較』 東信堂, 20

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

Active engagement in group work for class and fieldwork is highly recommended.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他/In addition :

1. Active engagement in group work is highly recommended in this course.
2. Details of fieldwork trip such as destination, schedule, and cost will be discussed and announced in the class. There is a selection if the number of participants is beyond the limitation of the course design.
3. English is the primary instruction language of this course. Although students are encouraged to speak in English, it is possible to join the discussion and class by speaking in Japanese if necessary. Also, Japanese reading materials and explanation will be provided in the class to encourage students' active participation.
4. Office hour: Tuesday 4th period

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

mgvljix

② 第一回授業の開始時期

- ・ 第一回目の授業 4月21日 (火) 13:00~から

③ 授業の実施方法

"・ 授業は Google Meet を使用し行う予定

- ・ 受講希望者は 4月20日 (月) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。"

④ 関連資料の入手方法

・ 授業の資料については、授業開始前までに Google Classroom の共有ドライブにアップロード予定 (受講希望者を招待する)。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・ 説明会や授業を録画し、Google Classroom で履修生に共有する
- ・ オンライン授業への参加が困難な学生については、4月20日 (月) 正午までに劉までDCメールにて連絡をするように (jing.liu.e8@tohoku.ac.jp)。"

⑥ その他

状況によって、海外調査の代わりに Skype・ZOOM を通して外国の教育関係者を対象とする聞き取り調査を実施する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/28 21:08:12

科目名/Subject : 教育情報デザイン論演習 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3 講時 総合研究棟 203 演習室

担当教員/Instructor : 2020 熊井 正之

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

アクセシブルデザイン/Accessible Design

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、アクセシブルデザインとその評価について学び、教育情報学の研究に必要な基本的知識の習得を目指す。
/This course deals with accessible design and its evaluation. It also helps students acquire the basic knowledge necessary for conducting educational informatics research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この授業の目標は、(1)アクセシブルデザインとその評価を理解し、説明できるようになること、(2)教育情報学の研究に必要な基本的知識を習得することである。

/The goals of this course are to

- (1) be able to explain accessible design and its evaluation,
- (2) acquire the basic knowledge necessary for conducting educational informatics research.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1. イントロダクション
- 2. アクセシビリティの問題
- 3-4. アクセシブルデザイン
- 5-6. 評価手法
- 7-12. 演習
- 13-14. 発表と討論
- 15. 総括

/

- 1. Introduction
- 2. Accessibility issues
- 3-4. Accessible design
- 5-6. Evaluation methods
- 7-12. Exercises
- 13-14. Presentation and discussion
- 15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表・授業への取り組み (約 80%)、学期末課題 (約 20%)

/Exercises, presentations and class participation (about 80%), final paper (about 20%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

各回に配付する資料を教科書・参考書として用いる。

/No textbooks will be used. References are handed out at every class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題に取り組むことを中心に、各回の配付資料を用いて復習すること。

/Students are required to make a thorough review each class using handouts, mainly by completing assignments.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

欠席する場合には事前に申し出てください。

/If you have to absent from class, you must notify the lecturer in advance.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

36eh4bv

② 第一回授業の開始時期

・第 1 回講義 (オリエンテーション) は 4 月 28 日 (火) 13:00 から実施します。

③ 授業の実施方法

・履修希望学生は、4 月 21 日 (火) 14:30 までに熊井 (kum@tohoku.ac.jp) まで DC メールで「教育情報デザイン論演習 II を履修希望」と必ず連絡をしてください。

・Google Classroom を用いた資料配布方式（資料と課題をアップ）の授業を予定していますが、履修学生数により Google Meet を用いた生中継型授業等に変更する可能性があります。

④関連資料の入手方法

・各回の授業で用いる資料は、各回の授業開始日時までに Google Classroom にアップロードする予定です。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・履修を希望するがオンライン授業への参加が困難な学生は、4月21日(火)14:30 までに熊井(kum@tohoku.ac.jp)まで DC メールで「教育情報デザイン論演習 II を履修希望だがオンライン授業は参加困難」と必ず連絡をしてください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 17:05:25

科目名/Subject : 教育文献講読

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 3講時 総合研究棟206教室

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭, 柴山 直, 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育文献講読

Literature Reading for Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業科目は教育学部の必修科目であり、教育学、教育心理学および教育情報アセスメント分野の論文、とりわけ英語文献を検索、収集および読解する能力を育成することを目的としている。

This is a required subject of the department of education. This class is intended to enhance the ability to search, collect, and read the article of pedagogy, educational psychology and educational informatics and innovative assessment in English.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

学習者は、教育学、教育心理学および教育情報アセスメント分野の論文、とりわけ英語文献の読解を通じて、以下の3点を身につける。

- ①英語文献収集および読解にかかわる基本的な技能
- ②教育学や教育心理学の英語論文にかかわる専門的な知識の基礎
- ③実際の教育学や教育心理学、教育情報アセスメント分野の論文の読解力

This class aims to develop the following skills and knowledge.

- 1. Basic skills to collect, read and understand English literature
- 2. Basic expertise in pedagogy, educational psychology and educational informatics and innovative assessment
- 3. Skills to read articles in pedagogy, educational psychology and educational informatics and innovative assessment

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業は教育学分野、教育情報アセスメント分野、教育心理学分野ごとにその分野を専門とする教員が担当となり、以下の3セッション構成で進める。なお、#の後の数字は回数を示す。

This class consists of following three parts.

第1セッション：教育心理学分野における文献の講読（担当：吉田）

Part1: Reading articles in educational psychology

- ・教育文献講読とは（#1）
- ・教育心理学分野における文献の特徴と検索（#2）
- ・教育心理学分野の論文を読む（小グループによる読解と報告）（#3～5）

第2セッション：教育情報アセスメント分野における文献の講読（担当：柴山）

Part2: Reading articles in educational informatics and innovative assessment

- ・IMRAD型科学論文の一般的構造とロジカルセンテンスの関係（講義）（#6）
- ・教育の心理学に関する英語テキストを読む（輪講）（#7）
- ・経済学者ヘックマンの教育に関する英語論文をよむ（小グループによる読解と報告）（#8～#10）

第3セッション：教育学分野における文献の講読（担当：後藤）

Part3: Reading articles in pedagogy

- ・課題文献の割り振り（グループ分け&グループ毎の担当箇所決め）（#11）
- ・翻訳読み合わせ①+発表に向けた話し合い①（#12）
- ・各章の内容報告①（#13）
- ・翻訳読み合わせ②+発表に向けた話し合い②（#14）
- ・各章の内容報告②（#15）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

各回における文献の講読、レポート等の課題への取り組みや成果物によって総合的に評価する。

Evaluate by engagement in literature reading and assignment, and product

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

テキストおよび参考文献は、授業内で指示する。

Textbook and articles will be provided in the class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

文献講読のため、授業時間外の予習およびレポート作成が必須の作業となる。

Preparation and writing assignment is essential

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

3 人で行う授業であるため、特定の教員の授業で出席や課題の提出等を怠ると単位が取れなくなる恐れがあるので、留意すること。

Lack of attendance and/or skipping assignment during particular part can result in missing credit

(Google クラスルーム対応)

① クラスコード

m3tvs3q

② 第一回授業の開始時期

4月21日(火) 3限: 13:00~

③ 授業の実施方法

"3名の教員のオムニバスのため、Meet を用いた双方向授業、Classroom に資料と課題をアップ等教員によって実施方法が異なります。

それぞれの教員の実施方法については、4/21の初回授業 (Meet で実施) の際に説明します。"

④ 関連資料の入手方法

授業用の動画・資料・課題等は Classroom で紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に相談 (全体に関することは吉田 (saran.yoshida.d6@tohoku.ac.jp) へ、個別の授業については各担当回の担当教員 (初回授業時にアナウンス) へ連絡のこと)

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 21:53:43

科目名/Subject : リカレント教育論講義

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代社会と社会教育・成人教育・生涯学習

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

私たちの生活や暮らしにとって社会教育・成人教育・生涯学習はどのような意味をもつのか、そして社会教育・成人教育・生涯学習を必要とする現代社会とはどのような社会なのか。現代社会における生活や暮らしと関連づけて社会教育・成人教育・生涯学習の本質や理念を考察する。

具体的には、子ども、子育て、学校、労働、地域社会といった人生や生活の諸次元に即して、社会教育・成人教育・生涯学習の意義や役割を講述する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会教育・成人教育・生涯学習に関わる国内外の理念、制度、概念の基礎を理解できる。
- (2) 生活課題や社会問題との関わりから社会教育・成人教育・生涯学習の特徴を考察できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：社会教育・成人教育・生涯学習の概念
- 第2回：地域学校協働活動と社会教育（1）－展開と実態－
- 第3回：地域学校協働活動と社会教育（2）－課題と論点－
- 第4回：子ども・若者と社会教育（1）－展開と実態－
- 第5回：子ども・若者と社会教育（2）－課題と論点－
- 第6回：子育てと社会教育（1）－展開と実態－
- 第7回：子育てと社会教育（2）－課題と論点－
- 第8回：労働と成人教育（1）－リカレント教育－
- 第9回：労働と成人教育（2）－ワークプレイスラーニング－
- 第10回：地域づくりと社会教育（1）－地域づくりと学習との関係－
- 第11回：地域づくりと社会教育（2）－東北の地域課題と社会教育－
- 第12回：地域づくりと社会教育（3）－課題と論点－
- 第13回：高齢者と社会教育（1）－展開と実態－
- 第14回：高齢者と社会教育（2）－課題と論点－
- 第15回：まとめ

授業の進行状況等により内容が異なる場合がある。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度（15%）、中間レポート（15%）、最終試験（70%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：使用しない。毎回資料を配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

論文検索などでテーマに即した社会教育実践・成人教育実践について情報収集すること。
また、講義で紹介された参考文献に目を通すこと。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

他の社会教育・生涯学習関連科目と合わせて履修することが望ましい。

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

mgb74zb

② 第一回授業の開始時期

- ・第一回目の授業は4月21日（火）14:20～から実施

③ 授業の実施方法

- ・授業は Google Meet もしくは zoom によるリアルタイム方式で行います。
- ・受講希望者は4月21日（火）9時までに松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。

④ 関連資料の入手方法

- ・授業の資料については Classroom にアップロード、もしくはメールで送付予定。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・松本までDCメールにて連絡してください (matsumoto.dai@gmail.com)。個別に対応します。

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/18 14:44:48

科目名/Subject : 発達臨床論演習 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 火曜日 4 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

青年期・成人期における発達心理学研究の実際

Current trends of researches and studies of developmental psychology on adolescence and adulthood

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

青年期、成人期を対象とした発達心理学研究を講読することで、青年期・成人期に関する研究動向を把握するとともに、その研究手法について理解する。

The aims of this course is to describe current trends of developmental studies on adolescence and adulthood, and to understand study methods through intensive reading the research papers of the developmental studies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

当該領域における心理学研究の動向を把握するとともに、基礎的な研究方法、論文の書き方について理解する。

青年期・成人期の発達に関する心理学的知見を体得する。

At the end of the course, participants are expected to explain the current topics of Developmental Research on adolescence and adulthood, understand the basic methods and writing papers, and review psychological findings on adolescent and adult development.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

「発達心理学研究」「心理学研究」「教育心理学研究」「Developmental Psychology」「Child Development」等の心理学ジャーナルに掲載されている論文を読む。

毎回、発表の担当を決め、担当者は、上記のジャーナルを中心として自分の興味・関心に沿った論文を1編選び、まとめたものを報告する。それを踏まえ、全体で討論を行う。

1. オリエンテーション

2. 心理学研究論文の読み方

3. ~14. 個々のグループによる研究発表と質疑応答・討論

15. 全体のまとめ

Participants select an academic paper which is published in "Japanese Journal of Developmental Psychology", "Japanese Journal of Psychology", "Japanese Journal of Educational Psychology", "Developmental Psychology", and "Child Development", and make a presentation of the paper.

In the early half of each class, presenters report an academic paper and point a couple of questions. The last half of the class, all participants make a question and answer session.

1. Orientation

2. How to read psychological research papers

3. ~ 14. Presentations of academic paper, Q & A and discussion by each group

15. Overall Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内の研究報告(30%)、授業態度・討論への参加状況(40%)、期末レポート(30%)により評価する。

1)Presentation of academic paper(30%), 2) A fraction of in-class contribution(40%). 3) Term-end report(30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料はその都度配布する。

Will be provided in the class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各回で発表される論文は、1週間前にレジメとともに配布されるので、必ず精読してから授業に臨むこと。

また、担当した論文については、使用されている尺度項目や実験資材について可能な限り調べ、授業時間に資料として配布すること。

自ら主体的に疑問を提示し、その解決に臨む姿勢を求める。

The academic paper and its short summary (resume) will be provided at the class of one week before. Par

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

初回授業時に発表の担当日を決めるので必ず出席すること。

Be sure to attend the first class to determine the date of the presentation.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

dfzgnyi

②第一回授業の開始時期

初回：4月21日(火) 14:40～

③授業の実施方法

・授業はGoogle Meet か Zoom を使用する予定

・受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いてこの授業の classroom のメンバー登録を済ませておいてください。

授業開始5分前までには、classroom内のストリームにビデオ会議の案内を掲示します。

④関連資料の入手方法

classroomにおいておきます。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応します。可及的速やかに神谷 (kamiya@sed. tohoku. ac. jp) まで連絡ください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 人間形成論演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時 総合研究棟 204 演習室

担当教員/Instructor : 2020 八 楸 友広

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間形成と教育の歴史演習

Seminar on the history of human formation and education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成や教育は、本質的に歴史的な存在であり、人間形成と教育の現状を考察するためには、今日の状況へと至った歴史的な過程を理解することが不可欠である。本演習は、人間形成と教育に関して、このような歴史的な観点から考察する力を育成することを目的としている。このため、人間形成の具体的な事例に関する文献に即しながら、その歴史的な背景について自ら探索し、読み、調査をおこない、発表をおこなう。また、人間形成と教育の現状について、歴史的な観点から考察をおこない発表する。

This course has a seminar on the history of human formation and education in Japan. In this seminar students will have an opportunity to investigate into some topics of history of human formation and education in Japan, and to make a presentation on those topics.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①人間形成と教育について、歴史的な観点から、その成り立ちについて理解することができる。
- ②自ら探究し、調査することができる。
- ③他の学生と協力し、研究の計画を立て実行できる。

The goals of this course are to

- (1) Understand the history of human formation and education in Japan.
- (2) Be able to make an investigation into the history of human formation and education in Japan by themselves.
- (3) Be able to cooperate with other students, to plan the investigation, and to practice the investigation

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 ガイダンス、文献講読・調査発表の分担
- 2 田中未来『生きること育てること』を読む
- 3 発表①鉛筆とノート：認知的道具の歴史
- 4 発表②読書の歴史
- 5 発表③「学級」とはなにか
- 6 発表④試験と競争の歴史
- 7 発表⑤先輩・後輩の社会史
- 8 発表⑥文部省唱歌の世界
- 9 発表⑦学校と制服
- 10 発表⑧「運動会」というもの：学校行事の世界
- 11 発表⑨大正新教育運動
- 12 発表⑩生活綴方教育運動
- 13 発表⑪戦時下の教育
- 14 発表⑫「新自由主義」と教育
- 15 発表⑬「長い21世紀」論と教育

- 1. Guidance
- 2. Reading conference
- 3. Pencil and notebook, history of the cognitive tools
- 4. History of reading books
- 5. History of the class system of school
- 6. History of the examination and competition
- 7. History of the seniority in students
- 8. History of songs which were written by Ministry of Education in Japan
- 9. History of the school uniforms
- 10. History of the school events
- 11. The educational movements for a new education in Taisho Japan
- 12. The educational movements for free composition
- 13. Education in the wartime period

- 14. Neoliberalism and education
- 15. The long 21st century and education

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表 80%+発言記録 20%

Report:20%

Presentation on conference:80%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

発表のための参考図書を、最初の授業において紹介する。

No textbook

Reference books will be introduced in the course.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発表にむけて、相当の学習が必要となる。複数人で発表する場合は、打ち合わせをおこなうものとする。その他、オフィスアワー等において、発表についての相談に応じる。

Students need to read textbook and to prepare for report and presentation on conference.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

5回以上欠席したものは単位不認定となる。

討論への積極的な参加が求められる。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

m5zoimi

②第一回授業の開始時期

4月22日(水)10:30より開始

③授業の実施方法

Google Meet によるリアルタイム方式で実施。受講希望者は前日までに、八咫まで DC メールにて連絡のこと (tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp)。また当日、Meet の URL をクラスルームに掲示する。

④関連資料の入手方法

授業の資料は、クラスルームに置いておくので、各自あらかじめダウンロードのこと。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業参加困難な学生は、八咫までメール (tomohiro.yakuwa.b8@tohoku.ac.jp) のこと。なんらかの代替的措置を講ずる。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 09:34:02

科目名/Subject : 教育学概論

曜日・講時/Day/Period : 前期 水曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
現代教育学の課題
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
教育の現象の多様化と、それに伴う教育諸科学の専門化が進行する中で、そうした状況をふまえて、教育理解の基礎となる事柄（教育の概念と歴史）や、今日の教育が抱える諸問題（生涯学習、地域社会、心のケア……）を、主として教育哲学、教育人類学の視座から多角的・重層的に検討する。これによって、現代教育学の担うべき課題の核心を明らかにしていく。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教育という事象を多角的・重層的に理解するとともに、教育の現在と将来に対する洞察力をもつことができる。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
第1回：オリエンテーション（担当：李）
第2回：教育の基本的概念（1）～教育哲学的考察～（担当：笹田）
第3回：教育の基本的概念（2）～教育人類学的考察～（担当：李）
第4回：教育の歴史的展開（1）～教育哲学的考察～（担当：笹田）
第5回：教育の歴史的展開（2）～教育人類学的考察～（担当：李）
第6回：教育現実の諸問題（1）～「生涯学習」（講義）～（担当：李）
第7回：教育現実の諸問題（2）～「生涯学習」（小レポート作成）～（担当：李）
第8回：教育現実の諸問題（3）～「生涯学習」（討論）～（担当：李）
第9回：教育現実の諸問題（4）～「地域社会」（講義）～（担当：李）
第10回：教育現実の諸問題（5）～「地域社会」（小レポート作成）～（担当：李）
第11回：教育現実の諸問題（6）～「地域社会」（討論）～（担当：李）
第12回：教育現実の諸問題（7）～「心のケア」（講義）～（担当：李）
第13回：教育現実の諸問題（8）～「心のケア」（小レポート作成）～（担当：李）
第14回：教育現実の諸問題（9）～「心のケア」（討論）～（担当：笹田、李）
第15回：総括～現代教育学の課題～（担当：笹田、李）
最終レポート作成
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
討論への参加（50%）およびレポートの内容（50%）によって評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
李仁子・金谷美和・佐藤和久『はじまりとしてのフィールドワーク：自分がひらく、世界がかわる』昭和堂、2008
笹田博通編著『教育的思考の歩み』ナカニシヤ出版、2015
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
授業で配付した資料を読み復習すること。
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
(Google クラウドルーム対応)
① クラスコード
ssm4igk
② 第一回授業の開始時期
4月22日 10時30分開始
③ 授業の実施方法
・オンライン授業 (Google Meet)
・受講希望者は4月21日 (火) 正午まで、李までDCメールにて連絡をするように (mail@leeinja.net)
④ 関連資料の入手方法
初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroom で紹介
⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
対応困難な理由に沿って提示する。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/08 22:50:23

科目名/Subject : 人間形成論演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

映像から見る韓国の教育問題と格差社会

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業は韓国の映画、ドラマなどの映像を通じて、近現代の韓国の教育問題を考えることを目標としている。とりわけ、戦後韓国で映画は歴史や文化、政治に敏感に反応しながら作られてきた。本授業の目的は、1) 映像の社会性について考える、2) 韓国の映像をみながらその映像が作られた時代的・社会的・歴史的背景を総合的に考察する、3) 映画やドラマの描き方を通じて教育における格差の問題を考察する、などである。なお、本授業では韓国の映像を中心素材と扱うが、そのなかで移民と難民、ディアスポラ、戦争、歴史などの問題について考えることで、日本で「日常」を営む私たちとのつながりについても考察していく。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 映像から韓国の文化を読み取ることができる。
- 2) 映像（テキスト）、映像の行間（間テキスト）、映像と社会との関係（コンテキスト）について理解することができる。
- 3) 映画やドラマを題材に、全世界的な課題でもある格差社会に関する考察ができる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション、授業の進め方、授業内容の説明
- 第2回：韓国の教育問題（学歴社会の現状）1
- 第3回：韓国の教育問題（学歴社会の現状）2
- 第4回：韓国の教育問題（学歴社会の現状）3
- 第5回：韓国の教育問題（学歴社会の現状）4
- 第6回：格差社会を考える1
- 第7回：格差社会を考える2
- 第8回：格差社会を考える3
- 第9回：韓国の社会背景を考える（韓国映画と民主化運動）
- 第10回：韓国の社会背景を考える（韓国映画と386世代1）
- 第11回：韓国の社会背景を考える（韓国映画と386世代2）
- 第12回：韓国映画と家族の変化（1990年代）
- 第13回：韓国映画と移民、
- 第14回：韓国映画の現在、
- 第15回：総まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業での発表やディスカッション（50%）、レポート（50%）

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業の初回に紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

ドラマ、映画などを予習としてみる必要がある。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業においては積極的に発言し、自発的に発表するような姿勢が求められる。

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

vzd6a5w

② 第一回授業の開始時期

4月23日 10時30分開始

③ 授業の実施方法

・オンライン授業 (Google Meet)

・受講希望者は4月22日（水）正午まで、李までDCメールにて連絡をするように (mail@leeinja.net)

④ 関連資料の入手方法

初回の授業にて紹介する。基本的には、Classroomで紹介

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

対応困難な理由に沿って提示する。

10. 更新日付/Last Update :
2020/03/25 10:02:01

科目名/Subject : 教育政策科学演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

計量分析の基礎 (Introduction to Statistical Analysis)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

社会学で用いられる計量分析の理論を理解し、統計分析のソフトで分析ができるようになる

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会学の分析で用いられる計量分析の基礎的な手法を理解する
- (2) 統計分析のソフトを用いて基礎的な計量分析を行うことができる

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 はじめに：社会科学における計量分析
- 2 データの要約と度数分布表
- 3 クロス集計表と散布図
- 4 正規分布と F 分布
- 5 信頼区間
- 6 統計的推測と仮説検定
- 7 平均と比率の検定
- 8 多重比較と分散分析
- 9 相関係数と偏相関係数
- 10 離散変数の関連の測定
- 11 単回帰分析
- 12 重回帰分析
- 13 ダミー変数
- 14 外れ値と多重共線性
- 15 二値変数の回帰分析

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・レポート (40%), 課題 (40%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

片瀬一男/阿部晃士/高橋征仁 (2015) 『社会統計学ベシック』 ミネルヴァ書房
 片瀬一男/阿部晃士/林雄亮/高橋征仁 (2019) 『社会統計学アドバンスト』 ミネルヴァ書房
 片瀬一男 (2007) 『社会統計学』 放送大学教育振興会
 南風原朝和 (2002) 『心理統計学の基礎』 有斐閣
 ボーンシュテット&ノーキ (1992) 『社会統計学』 ハーベスト社
 三輪 哲・林 雄亮 (2014) 『SPSS による応用多変量解析』 オーム社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

- ★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
- ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
- ★本授業科目は、日本社会学会、日本教育社会学会、日本行動計量学会が共同で設立した一般社団法人社会調査協会の定める「社会調査士のための必修科目」のうち、「D. 社会調査に必要な統計学に関する科目」として認定の申請を予定している授業科目である。社会調査士資格については、<http://jasr.or.jp/>を参照のこと。

(Google クラウド対応)

①クラスコード

6q3u3ux

②第一回授業の開始時期

4/21 日に第一回目の授業を行う。

③授業の実施方法

授業形式は google meet による Online 授業とする。

④関連資料の入手方法

関連資料の入手方法は google classroom において指示する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業に参加困難な学生には授業で使用する PowerPoint のファイルを配布し、メールで質問を受け付ける

⑥その他

通常の教室での対面授業が可能になり次第、そちらに戻す

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 14:41:55

科目名/Subject : 学習・発達論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2講時 総合研究棟206教室

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司, 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学習と発達の基礎

Introduction to Learning and Development

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、人の発達と学習の基礎について学ぶとともに、発達と学習との関連、またそれらの関連に教育はどのようにかわるかを学ぶことを目的とする。

This course introduces the foundations of Learning and Development, their relationships, and the application to Education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 発達のメカニズムについて理解する。
2. 学習の原理・過程について理解する。
3. 発達, 学習, 教育の関連について理解する。

At the end of the course, participants are expected to

1. Understand the mechanism of development.
2. Understand the principle and process of learning
3. Understand the associations among development, learning, and education.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション (担当：神谷)
 第2回：「発達」とはなにか？ (担当：神谷)
 第3回：「発達」の諸理論 (担当：神谷)
 第4回：「発達」概念の変遷 (担当：神谷)
 第5回：生物学的要因によって規定される発達の側面 (担当：神谷)
 第6回：社会・文化的要因によって規定される発達の側面 (担当：神谷)
 第7回：初期環境の影響と発達の可塑性 (担当：神谷)
 第8回：特別な支援ニーズと「教育福祉」問題 (担当：神谷)
 第9回：「学習」とはなにか？ (担当：深谷)
 第10回：行動主義的学習論 (担当：深谷)
 第11回：認知主義的学習論 (担当：深谷)
 第12回：社会的学習 (担当：深谷)
 第13回：状況的学習 (担当：深谷)
 第14回：教育における学習と発達(1) (担当：深谷)
 第15回：教育における学習と発達(2) (担当：深谷)
 定期試験

- 1 Introduction to Learning and Development.
 - 2) What is "Development"
 - 3) Theories of Development
 - 4) History of Concept of Development.
 - 5) Biological aspect of Development.
 - 6) Social and Cultural aspect of Development.
 - 7) Early Environment and Plasticity of Development.
 - 8) Special Education Needs and Current Issues of Education and Welfare.
 - 9) What is "Learning"?
 - 10) Behavioral Approach to Learning
 - 11) Cognitive Approach to Learning
 - 12) Social Learning Theory and Social Cognitive Theory
 - 13) Situated Learning
 - 14) Motivation, Transfer and Expertise
 - 15) Reflection and Review of the Course Topics
- Final Exam (Closed Book Exam)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

試験(70%)とミニットペーパー(30%)により評価する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination(Closed Book Exam): 70%, Minute Papers: 30%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内容に応じて、適宜資料等を配布。

Teaching Materials will be distributed in class or through ISTU.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

事前に ISTU から授業資料を入手し一読しておくこと(神谷担当分)

ミニットペーパーをもとに授業内容を復習して理解を深める(深谷担当分)

You need to obtain the teaching materials before the class through ISTU. (on Kamiya's class)

We highly recommend 1)to prepare each class by reading handouts; 2)to review them a

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

ttgrupu

②第一回授業の開始時期

初回：4月23日(木) 10:30～

③授業の実施方法

Meet あるいは zoom によるリアルタイム視聴あるいは、powerpoint も含む講義動画のオンデマンド配信、もしくは講義資料形式など、学生の履修状況をみながら進めていく予定。

・受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いてこの授業の classroom のメンバー登録を済ませておいてください。授業開始5分前までには、classroom 内のストリームにビデオ会議の案内を掲示します。

④関連資料の入手方法

Classroom あるいは Google Drive 等の共有ドライブから入手するようにします。詳細は、追って伝達します。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応します。可及的速やかに神谷 (kamiya@sed. tohoku. ac. jp) まで連絡ください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 発達障害学演習 II

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 2 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害研究法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

主に発達障害や関連する症候を対象とする研究について研究の目的や方法、研究計画全般に必要な知識について習熟を深める。また四回生では実際に卒業研究実施に向けた研究計画の発表や検討を行う。

The main purpose of this class is to learn research methods for developmental disorders.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

卒業研究に必須となる知識と技量（先行研究の検索、研究計画法他）に習熟するとともに、円滑な卒業研究実施に向けて研究計画の立案・修正・検討を行う。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

本講義では当該領域（障害関係）で卒業研究実施を具体的に検討しているものを対象とする（所属ゼミは問わないが研究対象が異なる場合は適切な履修指導を行う場合がある）。

1 : オリエンテーション

2~6 : 論文通読

* 各自の研究と関連する領域から各自論文 1 本を選択して発表とディスカッションを行う。

7~10 : 研究計画発表

* 4 年次生ならびに院生ゲストによる卒業研究に関する計画発表（院生の場合は進行中のプロジェクトに関する発表）を行いディスカッションを行う。

11・12 : 外部特別講師による講義

* 研究の着想に関する様々な分野からの知見を得る。* 変更の可能性あり

13・14 研究計画再発表

* 3, 4 年次生を含む。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Grading will be decided based on attendance and reports.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

各自発表では積極的に資料を準備し期限を厳守して事前資料の提出を行うよう努力を求める

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

本講義では当該領域（障害関係）で卒業研究実施を具体的に検討しているものを対象とする（所属ゼミは障害系に限定しないが研究対象が異なる場合は適切な履修指導を行う場合がある）。

また専門性の高い演習となるため、方向性が決まっていない三年次生の履修は事前に必ず相談してください。

(Google クラウド対応)

① クラスコード

lqpvjxg

② 第一回授業の開始時期

演習講義（実際に論文を読んでディスカッション）のため初回を 5 月 13 日に致します。

③ 授業の実施方法

個別に連絡いたしますので、受講希望者は「その他」を確認の上、4 月 20 日までに akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp に授業名・受講希望・氏名を記載の上メールをください。

④ 関連資料の入手方法

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

⑥その他

卒業研究で障害に関する論文執筆を考えている方を対象としています。

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/17 16:25:07

科目名/Subject : 教育政策科学演習VI

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育の経済・社会的効果の計測/ Economic and Social Impacts of Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習では、教育を通じて獲得されることが期待される人的資本・能力が実際に所得、健康、市民的関与などとどのように関係するのかについて、計量的データと多変量解析等を用いて、実証的に考究していく。

In this class, we will use quantitative data and multivariate analysis to examine how human capital and abilities expected to be acquired through education. And we will actually study the relationship between education and income, health, and citizen engagement.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学領域において用いられるデータや計量的手法について学び、計量的分析手法を身につける。また、汎用的技能・態度・志向性という観点からは、チームでの作業や演習形式の授業を通じて、コミュニケーションスキル・論理的思考力・自己管理能力・批判的思考力、生涯学習力を向上させる。特に数量的スキルの向上に力点を置く。

Students learn data and quantitative methods used in the field of economics of education from the viewpoint of specialized knowledge and skills, and acquire quantitative analytical methods. In addition, from the viewpoint of general skills, communication skills, logical thinking skills, self-management skills, critical thinking skills, and lifelong learning skills are improved through team work and classroom exercises.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1~7回 : 基礎的統計手法と SPSS の使用法

8~10回 : PIAAC データについての理解と入手

11~14回 : 教育と所得、健康、市民的関与の関係についての分析演習

15回 : 報告会

1-7 times: Basic statistical methods and how to use SPSS

8 to 10 times: Understanding and obtaining PIAAC data

11-14 times: Analytical exercises on the relationship between education and income, health, and citizen engagement

15 times: Report session

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業内容についての理解とコミットメント (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%)/Final Report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : 特になし

参考書 : 授業ごとに指示する

Textbook: Nothing special

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める。

Ask for active involvement, such as remarks during class.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

syzy3e5

②第一回授業の開始時期

- ・第一回目の授業は4月23日(木)13:00~から実施

③授業の実施方法

- ・授業はGoogle Meetを使用し行う予定
- ・受講希望者は4月22日(水)正午までに島までDCメールにて連絡をするように(kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp)。

④関連資料の入手方法

- ・授業の資料については、授業開始前までに共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・オンライン授業への参加が困難な学生については、4月22日(水)正午までに島までDCメールにて連絡をするように(kazunori.shima.e6@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 19:13:18

科目名/Subject : 発達障害学演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害教育文献講読

Reading the literature on developmental disabilities

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

発達障害領域の英語文献の講読を通じ、発達障害についての理解を深める。

Those who take this seminar will deepen their understanding of developmental disabilities through reading English literature.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①発達障害領域の基本的な概念、専門用語等について理解する。

②発達障害領域の心理・教育に関する英語文献の読解力の向上を図る。

After taking this seminar, you should be able to :

①Describe the fundamental concepts and technical terms regarding to developmental disabilities

②Read and understand various English literature on psychology and education of developmental disabilities.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

Richard M. Gargiulo & Debbie Metcalf (2017) Teaching in Today's Inclusive Classroom: A Universal Design for Learning Approach (3rd Ed.)の各章を分担訳出する。

各章の訳出後に、内容について討論の時間を設ける。

Each student will translate some parts of chapters in the following book. Richard M. Gargiulo & Debbie Metcalf (2017) Teaching in Today's Inclusive Classroom: A Universal Design for Learning Approach (3rd Ed.)

After translating each chapter, students will discuss the content.

1. ガイダンス (Guidance)

2. Learners in Today's Classroom

3. Placement Options for Educating Students with Special Needs

4. 「Diversity in the Classroom: Learners with High-Incidence Disabilities」

Learners with Intellectual Disability

5. Learners with Learning Disabilities

6. Learners with Speech and Language Impairments

7. Learners with Emotional or Behavioral Disorders

8. Learners with Attention Deficit Hyperactivity Disorder

9. Summary of Selected Learning and Behavioral Characteristics

10. 「Diversity in the Classroom: Learners with Low-Incidence Disabilities」

Learners with Hearing Impairments

11. Learners with Visual Impairments

12. Learners with Deaf-Blindness

13. Learners with Autism Spectrum Disorders

14. Learners with Physical Disabilities, Health Disabilities, or Traumatic Brain Injury

15. Summary of Selected Learning and Behavioral Characteristics

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点(60%), レポート(40%)により評価する。

Evaluation will be made based on class performance (60%) and reports (40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

上記文献を使用する。資料は授業時に適宜配布する。

In the class, the above textbook will be used. Related materials will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎時、割り当てられた部分を訳出すること。

You need to translate the parts of the textbook that will be used in the next class in advance.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

特になし。

None.

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

1y4a6vg

②第一回授業の開始時期

・資料配付に関わるコピーライトに鑑み、第1回目の授業は5月7日(金)13:00からの実施とします。

③授業の実施方法

・Google Meet を使用して、リアルタイム方式で実施することを想定しています。

・受講希望者は、4月30日(木)17時までに、DCメールにて野口(kazuhito.noguchi.a5@tohoku.ac.jp)まで連絡をしてください。

④関連資料の入手方法

・授業の資料は、共有ドライブにて配付する予定です。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な場合は、受講希望のメールにその旨を付してください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/07 10:26:43

科目名/Subject : 教育制度論

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 3 講時 文学部第 1 講義室

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

現代公教育制度の意義・原理・構造とその展開 / Introduction to Education System

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

社会的な営みとしての公教育は、さまざまな制度によって枠づけられ、支えられている。したがって、公教育の現状に対する認識および将来への展望を得るためには、教育制度に対する理解が必要不可欠である。そこで本授業では、現代公教育制度に関する基礎的知識の習得を目指して、その思想的・法的基盤、運営に関する理念と仕組みについて講義する。また、学校と地域の連携や学校の危機管理などの今日の課題への対応と教育制度改革の展開についても講義する。 / The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of the modern public education system.

Notice: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 現代公教育制度を支えている思想的・法的基盤について理解する。
2. 現代公教育制度の運営に関する理念と仕組みについて理解する。
3. 今日の学校教育の展開を、学校と地域の連携や学校の危機管理などの具体的な課題に即して理解する。
4. 教育をめぐる諸問題を制度の視点から主体的に考察する姿勢を身につける。

/ The goals of this course are to

- understand the ideological and legal foundations of the modern public education system,
- understand the philosophy and structure of the modern public education system,
- understand the current trends in school education based on specific issues such as cooperation between school and local society and risk management in school,
- acquire the attitude to consider various issues related to education from the viewpoint of the system.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第 1 回 オリエンテーション / Orientation

第 2 回 教育制度の構造と現代公教育制度の原理 / The structure of the education system and the principles of the modern public education system

第 3 回 現代公教育制度の法的基盤 / Legal foundation of the modern public education system

第 4 回 教育行政制度 / Education administration system

第 5 回 学校教育制度の基本的構造と歴史的展開 / The structure and historical development of the school education system

第 6 回 現代日本の学校教育制度 / The school education system in contemporary Japan

第 7 回 就学前教育制度 / Preschool education system

第 8 回 初等・中等教育制度 / Primary and secondary education system

第 9 回 高等教育制度 / Higher education system

第 10 回 特別支援教育制度 / Special needs education system

第 11 回 教職員制度 / Teachers and staff system

第 12 回 社会教育行政制度 / Social education administration system

第 13 回 学校と地域の連携 / cooperation between school and local society

第 14 回 学校の危機管理 / Risk management in school

第 15 回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 小テスト (30%) : 授業の進度に合わせて 3 回実施予定 (各回 10%×3 回)。講義内容の理解度を評価する。
2. 期末テスト (70%) : 提示された論点について、制度の視点から考察、論述できるかを評価する。

/ Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Three quizzes about the lecture before: 30%
- Term-end examination: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

○教科書 / Text book

- ・高見茂・開沼太郎・宮村裕子編『教育法規スタートアップ・ネクスト』昭和堂、2018 年。
- ・解説教育六法編修委員会編『解説教育六法 2020 令和 2 年版』三省堂、2020 年。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で扱ったテーマに関連する書籍の読書等を通じて、主体的に教育制度についての認識・思考を深めていくこと。また、小テストに向けての復習も欠かさないこと。

／The students are expected to read the books related to each lecture and review in preparation for the quizzes.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00

／Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

ovtjs4d

②第一回授業の開始時期

・第1回授業の開始時期：4月23日（木）3限：13:00~

③授業の実施方法

・授業の実施方法：Meet を用いた双方向授業とオンデマンド方式（動画配信方式）の併用。

・詳しくはClassroom上に説明を掲示するので、第1回授業の前日までに確認しておくこと。

④関連資料の入手方法

・授業用の資料は各回の授業開始前までにClassroomで紹介。

・授業用の動画はリアルタイムの授業実施後、翌日までにClassroomで紹介。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・個別に相談に応じる。

・オンラインでの受講が困難な事情説明を、DCメールを使って4月22日（水）正午までに井本（imoto@tohoku.ac.jp）へ連絡すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 15:52:23

科目名/Subject : 教育社会学

曜日・講時/Day/Period : 前期 木曜日 4 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会科学としての教育研究 (Introduction to Sociology of Education)

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育を社会科学的方法で分析する基礎を理解する

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 社会科学に関する基礎知識を修得する
- (2) 社会科学で必要とされる方法論を理解する
- (3) 教育に関わる社会科学の視点と意義を理解する

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 はじめに：社会学と教育学
- 2 社会科学における『記述』と『説明』
- 3 仮説と検証の方法
- 4 社会科学的方法とは何か？
- 5 数量的研究と因果関係
- 6 質的研究と因果関係
- 7 社会科学の方法論
- 8 ロビンソン・クルーソーと社会科学
- 9 価値意識と人間行動
- 10 社会科学における人間類型
- 11 経済学における人間
- 12 社会学における人間
- 13 産業社会の誕生と教育社会学
- 14 デュルケームと教育社会学
- 15 ウェーバーと教育社会学

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (20%), 発表・課題 (30%), 定期試験 (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

高根正昭 (1979) 『創造の方法学』 講談社
 大塚久雄 (1966) 『社会科学の方法』 岩波書店
 大塚久雄 (1977) 『社会科学における人間』 岩波書店
 荻谷剛彦 (2002) 『知的複眼思考法』 講談社
 山ロー一男 (2008) 『ダイバーシティ』 東洋経済新報社

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
- ★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

- ★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
- ★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
- ★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
- ★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります

(Google クラウド対応)

① クラスコード

fjjpg3s

② 第一回授業の開始時期

4/21 日に第一回目の授業を行う。

③ 授業の実施方法

授業形式は google meet による Online 授業とする。

④ 関連資料の入手方法

関連資料の入手方法は google classroom において指示する。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

オンライン授業に参加困難な学生には授業で使用する PowerPoint のファイルを配布し、メールで質問を受け付ける

⑥その他

通常の教室での対面授業が可能になり次第、そちらに戻す

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 14:46:03

科目名/Subject : 臨床心理学講義Ⅱ (精神疾患とその治療)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 1 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 上埜 高志 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

精神疾患とその治療 Mental illness and its treatment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

メンタルヘルスの概要を理解するとともに、代表的な精神疾患等を学ぶ。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of mental health.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

メンタルヘルスおよび代表的な精神疾患等に関する基礎的な知識を習得する。

The goal of this course is to understand mental health and psychiatric disorders.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション、メンタルヘルス序論(1)－概要、福祉 Introduction- Welfare

2. メンタルヘルス序論(2)－医療 Introduction - Medicine

3. メンタルヘルス序論(3)－心理 Introduction - Psychology

4. メンタルヘルス序論(4)－社会 Introduction - Society

5. こころと発達－自閉症 Autism

6. こころとリズム－睡眠障害 Sleep Disorders

7. こころと不安－神経症 Neurosis

8. こころと物質－依存症 Dependence

9. こころと災害－PTSD、こころと死－自殺 Suicide

10. こころとスティグマ－統合失調症 Schizophrenia

11. こころとライフイベント－うつ病 Depression

12. こころと加齢－認知症 Dementia

13. 「スピーカーズビューロー」(当事者 [統合失調症・うつ病] による体験発表) (予定)
Speaker's Bureau (Schizophrenia, Depression)

14. 討論「こころと脳について」(レポートのテーマ) Discussion "Mind-Body Problem"

15. 総括、筆記試験(英語を含む) Examination

5. 成績評価方法/Evaluation method :

筆記試験(40%)、レポート(40%)および平常点(20%)による総合的な評価。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

とくに教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。

授業中に適宜、紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、その都度、指示する。課題のレポートについては、討論時に指示する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

次年度、開講する。

(Google クラウドルーム対応)

①クラスコード

et7pjra

②第一回授業の開始時期

・第一回目の授業は、04月24日(金)08:50から実施予定。

③授業の実施方法

・授業は、「Google Meet」で行う予定。

・受講希望者は、04月22日(水)正午まで、上埜へDCメールにて連絡をすること(tueno@tohoku.ac.jp)。

④関連資料の入手方法

・授業の資料は、授業開始前まで、共有ドライブにアップロード予定(受講希望者を招待する)。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・オンライン授業への参加が困難な学生は、04月22日(水)正午まで、上埜へDCメールにて連絡をすること(tueno@tohoku.ac.jp)。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/21 16:52:49

科目名/Subject : 神経・生理心理学

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

神経・生理心理学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、脳の構造や機能局在について学ぶとともに、高次脳機能障害（先天性および後天性双方）に関する障害出現機序について学ぶ。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

大脳機能局在について理解を深めるとともに、認知症や発達障害の障害機序について正しく理解する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. イントロダクション*講義全般の内容について概説する。

2. 脳の解剖と生理 解剖

3. 脳の解剖と生理 知覚と運動

4. 脳の解剖と生理 高次脳機能

5. 脳の解剖と生理 言語

6. 視覚情報処理と神経機構

7. 聴覚情報処理と神経機構

8. 認知症とは (AD)

9. 認知症とは (FTD・ピック病)

10. 限局性学習症

11. ASD・ADHD

12. 前頭葉機能①注意

13. 前頭葉機能②実行機能

14. 機能画像とその実際

15. まとめ

1. Introduction

2. Brain anatomy and physiology (brain anatomy)

3. Brain anatomy and physiology (motion and sense)

4. Brain anatomy and physiology (higher brain function)

5. Brain anatomy and physiology (language)

6. Visual process and neural mechanism

7. Auditory process and neural mechanism

8. Dementia (alzheimer disease)

9. Dementia (FTD and Pick disease)

10. SLD

11. ASD and ADHD

12. Frontal lobe function (attention)

13. Frontal lobe function (execution function)

14. f-nirs, f-MRI,

15. Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 30%, term-end examination 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学 [神経・生理心理学] 医歯薬出版株式会社 緑川晶編

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連領域について適宜習熟を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

公認心理師資格対応科目のため、原則として資格取得を前提とするもの、障害系心理学で生理病理を研究領域とするものが履修してください。講義の性質を鑑みて試験重視となります。

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

dq7pext

②第一回授業の開始時期

4月24日当該時間にZOOMを用いてライブ講義を行います。

③授業の実施方法

初回講義（オリエンテーション）で説明しますが、ZOOMによるライブ配信のみとなります

④関連資料の入手方法

参考テキストをご購入下さい

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

メール（akihiro.kawasaki.c5@tohoku.ac.jp）にて4月二十日までにご相談ください。

⑥その他

公認心理師対応科目であるため、資格取得を前提とするもののみ履修してください。また、後期には文学部でも開講されますのでそれらも踏まえてご検討ください。

*ZOOMは必ず最新のものにアップデートしておく必要があります。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 15:52:27

科目名/Subject : 生涯学習論演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2 講時 総合研究棟 202 教室

担当教員/Instructor : 2020 甲斐 健人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

スポーツの社会学を学ぶ/seminor on sociology of sport

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

産業形態の変化、ライフスタイルの変容、高齢化など、様々に変容する現代社会において、身体活動の意義は見直されつつある。同時に、市場と結びついたスポーツの肥大化も進み、私たちのスポーツとのかかわりは多様化している。現代におけるスポーツの諸相を社会的に理解しようとする。関連領域の文献を、特に、事例研究に焦点をあてながら検討する。質的データに関する次週を行う可能性もある。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

スポーツ社会学、体育社会学領域、中でも事例研究に関する理解を深める。スポーツや体育という語を広義にとらえながら、それらに関する何気ない話題から、人々の暮らしにかかわる課題を考察する姿勢を身につける。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1) イントロダクション
- 2-1 4) 具体的事例の検討・ディスカッション
- 1 5) まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 (50%)、および報告等 (50%) による

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

適宜指示する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

関連する文献の収集、読了を課す

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

担当教員の学部開講授業は「スポーツ文化論講義」と隔年開講になる可能性がある

(Google クラウド対応)

① クラスコード

jp7qwvn

② 第一回授業の開始時期

4月24日(金) 10:30 開始

③ 授業の実施方法

google meet を想定。ただし、何らかの形で円滑な授業運営が難しい場合は別の対応を検討する。

受講希望者は4月23日(木)までに甲斐までDCメールで連絡のこと (taketo.kai.a2@tohoku.ac.jp)。

④ 関連資料の入手方法

検討中。追って連絡する。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

連絡の際に、その旨を申し出ること。

⑥ その他

授業担当者はMe e t等を利用した活動はほぼ初めてであり、円滑な授業運営が難しい場合は代替案をとる可能性がある。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 14:37:02

科目名/Subject : 学習心理学講義

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 2講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学習心理学と教授ストラテジー

Psychology of Learning and Teaching Strategy

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ストラテジー(strategy)とは目的遂行のための長期的な総合戦術のことである。教育においても、個別の教授活動をどうするかという問題を越えた、長期的かつ総合的な教授ストラテジー(teaching strategy)が必要となる。この講義では、教授ストラテジーとその理論的ベースを提供する学習心理学理論について概説する。

This course deals with theories of psychology of learning and its relation to teaching strategies.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①学習心理学の基本概念を知る。
- ②学習心理学理論と教授ストラテジーの関連について理解を深める。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about psychology of learning.
- (2) Understand the relationship between theories of learning and teaching strategies.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス
2. 教授ストラテジーはなぜ必要か
3. 行動主義的学習理論
4. 行動主義的学習理論と教授ストラテジー
5. 積み重ね型ストラテジーの特徴(1)
6. 積み重ね型ストラテジーの特徴(2)
7. 認知主義的学習理論
8. 認知主義的学習理論と教授ストラテジー
9. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(1)
10. 組みかえ型ストラテジーの特徴-対決型ストラテジー(2)
11. 組みかえ型ストラテジーの特徴-懐柔型ストラテジー(1)
12. 組みかえ型ストラテジーの特徴-懐柔型ストラテジー(2)
13. 状況主義的学習理論
14. 状況主義的学習理論と教授ストラテジー
15. まとめ

1. Introduction
2. Why teaching strategy is needed.
3. Behaviorist view of learning theory
4. Behaviorism and teachig strategy
- 5~6. Cumulative-type strategy
7. Cognitivist view of learning theory
8. Cognitivism and teachig strategy
- 9~10. Teaching strategy for conceptual change; Confrontation-type strategy
- 11~12. Teaching strategy for conceptual change; Conciliation-type strategy
13. Situationist view of learning theory and teachig strategy
14. Situationism and teachig strategy
15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末テスト100%である。

Final Exam 100%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

前回の講義内容を復習するとともに、与えられた課題について準備する。

The students are expected to 1) review the last lecture; 2) work on the given subject for the next lecture.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed. tohoku. ac. jp

(Google クラウド対応)

① クラスコード

2h7bmzq

② 第一回授業の開始時期

4/24 (金) 2 限開始。

③ 授業の実施方法

資料配付方式

④ 関連資料の入手方法

Classroom に講義資料と課題をアップする。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

資料配付型で対応

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/18 16:17:40

科目名/Subject : 人間形成論演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3講時 その他

担当教員/Instructor : 2020 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
カント倫理学と倫理的ジレンマ/Reading Kant's Original Texts("Groundwork of the Metaphysics of Morals")
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
カントのテキスト（英語訳を使用する）を講読することを出発点とし、実生活で直面する様々な倫理的ジレンマを検討（解消）する。/Students acquire logical thinking skills at some thought experiments.
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
カントの文献を精確に読み解き、その思考を追思考することができる。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
1. カント倫理学 概観 2～3. 『実践理性批判』「定義」講読 4～5. 同書「定理1～3」講読 6～7. 同書「法則、定理4」講読 8～11. 『道徳形而上学の基礎づけ』（4:397-401, 421-423, 429-430）講読 12～15. 倫理的ジレンマ (ethical dilemmas) の哲学的・倫理的検討 (thought experiments)
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
テキストの読解と討議、それに基づく報告を総合的に評価する。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
Kant, Groundwork of the Metaphysics of Morals, 1785.
Kant, Critique of Practical Reason, 1788.
その他 教室で指示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
Students are required to prepare for class.
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note:"○"Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
(Google クラウド対応)
①クラスコード
nos3svt (不使用予定)
②第一回授業の開始時期
4月22日(金)を開講日とする。前日の4月21日(木)正午までに受講希望者は以下のメールアドレスにメールにて申請のこと (kyoichi.ikeo.d4@tohoku.ac.jp)。
③授業の実施方法
メールを通じて課題等を連絡する形で授業を実施する。
④関連資料の入手方法
メールでのやり取りとする。
⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策
メールでの資料配布方式のために想定不要。
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/13 14:06:49

科目名/Subject : 教育政策科学演習 V

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

比較教育学の論文を読む / Reading Papers of Comparative Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、日本比較教育学会の学会誌『比較教育学研究』に掲載された諸論稿の講読を通じて、比較教育学とはどのような学問であるかについて、理解を深めてゆく。前半では特集論文を取りあげることで共通のテーマで書かれた複数の論文を読み比べる。また後半では、受講者の関心に即してピックアップした論文を検討する。 / The aim of this course is to help students develop their skill in looking at education from a comparative perspective. We shall read papers in "Comparative Education: Bulletin of the Japan Comparative Education Society".

Notice: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 比較教育学の学問的特質について理解する。
2. 学術論文特有の記述スタイルに親しみ、読みこなす力を身につける。
3. 教育を比較という視点から考察するセンスを身につける。

/ The goals of this course are to

- understand the characteristics of comparative education as a discipline,
- familiarize yourself with the writing style of academic papers and acquire the ability to read it well,
- acquire the sense to consider education from the viewpoint of comparison.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 オリエンテーション / Orientation

第2回 外国人児童生徒の教育課題(1) : 日本の公立学校における外国人児童生徒教育の理想と実態 / A comparative study on primary and secondary foreign student education 1

第3回 外国人児童生徒の教育課題(2) : オランダの移民をめぐる教育課題の整理と検討 / A comparative study on primary and secondary foreign student education 2

第4回 外国人児童生徒の教育課題(3) : スウェーデンにおける外国人児童生徒の教育課題 / A comparative study on primary and secondary foreign student education 3

第5回 外国人児童生徒の教育課題(4) : EU 主要国における外国人の子どもの教育に関する施策と課題 / A comparative study on primary and secondary foreign student education 4

第6回 外国人児童生徒の教育課題(5) : OECD 国際調査にみる移民の子どもの教育成果とその分析 / A comparative study on primary and secondary foreign student education 5

第7回 選定論文の報告と議論(1) / Presentation and discussion of the selected papers 1

第8回 選定論文の報告と議論(2) / Presentation and discussion of the selected papers 2

第9回 選定論文の報告と議論(3) / Presentation and discussion of the selected papers 3

第10回 選定論文の報告と議論(4) / Presentation and discussion of the selected papers 4

第11回 選定論文の報告と議論(5) / Presentation and discussion of the selected papers 5

第12回 選定論文の報告と議論(6) / Presentation and discussion of the selected papers 6

第13回 選定論文の報告と議論(7) / Presentation and discussion of the selected papers 7

第14回 選定論文の報告と議論(8) / Presentation and discussion of the selected papers 8

第15回 全体のまとめと補足 / Review, reflection, and course evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 授業内での報告および議論への貢献 (50%)

2. 期末レポート (50%)

/ Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Presentation and attitude in class: 50%
- Final paper: 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

以下の学会誌に所収の論稿の中から検討対象とするものを適宜指示する。

- ・日本比較教育学会編『比較教育学研究』東信堂

/ The papers to be discussed are selected from the following journal:

- 日本比較教育学会編『比較教育学研究』東信堂 (Comparative Education: Bulletin of the Japan Comparative Education Society)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- ・検討対象の文献については授業までに必ず読んでおくこと。

・各回の報告担当者は事前にプレゼンの資料を作成すること。

／The students are required to read the assigned papers.

The students in charge of the presentation in each lesson are required to prepare for it.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

／Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00

／Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

(Google クラスルーム対応)

①クラスコード

zgaz6lt

②第一回授業の開始時期

・第1回授業の開始時期：4月24日（金）3限：13:00~

③授業の実施方法

・授業の実施方法：Meet を用いた双方向授業。

・詳しくはClassroom上に説明を掲示するので、第1回授業の前日までに確認しておくこと。

④関連資料の入手方法

・授業で使用する資料については、授業開始前までにメンバーのみアクセス可能なGoogle Driveの本授業用共有フォルダにアップロード予定。

・メンバーに招待するので、受講希望者は必ず4月23日（木）正午までに井本（imoto@tohoku.ac.jp）までDCメールでその旨連絡すること。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

・個別に相談に応じる。

・オンラインでの受講が困難な事情説明を、DCメールを使って4月23日（木）正午までに井本（imoto@tohoku.ac.jp）へ連絡すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 11:52:13

科目名/Subject : 教育心理学実験 I (心理学研究法)

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 総合研究棟 202 教室. 前期 金曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室. 前期 金曜日 4 講時 総合研究棟 202 教室. 前期 金曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子, 吉田 沙蘭, 教育心理学コース教員

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理実験 I

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業科目は、教育心理学コースの3年次学生が実験実習を通じて研究、実践方法の基礎を習得することを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1 心理学実験の基礎を学ぶ。
- 2 心理学の統計的分析方法について学ぶ。
- 3 心理学研究におけるレポートの書き方について学ぶ。
- 4 研究者の倫理について考える。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション, 実験レポートの書き方
- 2 実験計画法
- 3 質問紙調査法① 質問紙作成の留意点と実際
- 4 質問紙調査法② 作成された質問紙の検討
- 5 知覚実験①
- 6 知覚実験②
- 7 調査面接法①
- 8 調査面接法②
- 9 行動観察法① 行動観察の基礎
- 10 行動観察法② 行動観察の実際
- 11 記憶実験
- 12 事例研究法
- 13 研究者の倫理
- 14 質問紙調査法③ 仮説の検証とデータ分析の実際
- 15 教育心理学実験Ⅱの事前オリエンテーションと文献検索法について

5. 成績評価方法/Evaluation method :

各回のレポート（すべてのレポートを提出すること）をもとに、受講時の積極性を加味して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は用いず、適宜資料を配布する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題によっては、授業時間外のグループ作業を必須となる。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

グループによる実験、実習が含まれる。授業の進行に支障のないように、遅刻、欠席をしないこと。

(Google クラウドルーム対応)

① クラスコード

4em2auv

② 第一回授業の開始時期

4月24日(金) 3限 13:00~

③ 授業の実施方法

・第一回から当面の間は Meet を用いた双方向授業。ただし、オムニバス形式のため、各回によって進め方は異なる。詳細は Classroom で連絡する。

・受講希望者は授業開始前までにクラスコードを用いてこの授業の Classroom のメンバー登録を済ませておくこと。第一回授業開始5分前までには、Classroom 内のストリームにビデオ会議の案内を掲示する。

④ 関連資料の入手方法

授業用の資料は Classroom で紹介する。

⑤ オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別に対応する。遅くとも4月23日(木)正午までに (yuko.fukaya.a7@tohoku.

ac.jp に連絡すること)

⑥ その他

教育心理学コース3年次学生のみ受講可。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 16:26:19

科目名/Subject : 生涯学習論演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 3 講時 総合研究棟 203 演習室

担当教員/Instructor : 2020 坂口 大洋 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

縮退化社会における公共文化施設のサステナビリティ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本科目では、少子高齢化、ストックの活用などの日本が直面する縮退化社会における将来的な公共文化施設の未来を考える。施設とは何かを皮切りに制度の背景、サービスの成立基盤、社会における役割、活動をつくり出す様々なマネジメント手法、新たな動きを、豊富な実践例とトピックスをもとに理解することを目的とする。

更に、被災・復旧の過程を共有し検証することで、公共文化施設やサービスなどが果たした役割、課題、今後の可能性を捉え、公共文化施設が持続的に活動する仕組みを具体的に考えてみたい。また、授業の中で、実際に現場で運営に関わる施設のスタッフをゲストで招聘したり、施設見学なども予定している。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 公共文化施設の歴史的な背景、意義、役割、課題、運営の仕組みを理解する。
- ② 縮退化社会における公共文化施設の課題と今後の具体的な戦略を考えてみる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

■ 公共文化施設と社会

- 1. ガイダンスと施設とは何か
- 2. 縮退化社会における公共施設マネジメントの課題
- 3. 制度としての公共文化施設

■ 公共文化施設の運営と実践

- 4. 公共文化施設の運営論 1) 「公の施設」と指定管理者制度
- 5. 公共文化施設の運営論 2) アートマネジメント
- 6. 公共文化施設の運営論 3) アウトリーチとワークショップ
- 7. 公共文化施設の実践にみる運営分析と調査方法

■ 文化的アクティビティの場の役割

- 8. アートイベントにみる観光と文化
- 9. 創造都市と文化施設のアクティビティへの期待
- 10. 平田オリザの「新しい広場をつくる」を考える。

■ 縮退化社会における公共文化施設のサステナビリティに向けて

- 11. 施設ストック更新と 2030 年問題
- 12. 東日本大震災の被災から復旧にみる文化の場の新たな動き 1)
- 13. 東日本大震災の被災から復旧にみる文化の場の新たな動き 2)
- 14. 社会包摂に向けた公共文化施設の実践
- 15. プレゼンテーションとディスカッション

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席状況 10% レポート及びプレゼンテーション 90%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

使用しない。参考書は随時教室で指示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

* 毎回プリント及び関連資料を配布する。

* 授業の一環として仙台市の公共文化施設見学を行うので、希望者は参加すること。(見学日時は受講生と相談の上、決定する)

(Google クラウド対応)

① クラスコード

※ 設定され次第周知する。

② 第一回授業の開始時期

第一回 4月24日(金) 3限: 13:00~

③ 授業の実施方法

資料配布方式

第二回以降は、オンデマンド又はリアルタイム方式を行う予定。詳細は24日に提示します。”

④関連資料の入手方法

classroomで紹介

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

個別の状況に基づいて対応する。対応が必要な学生はDCMailにて sakaguchitaiyo@sendai-nct.ac.jp に連絡すること

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 09:08:59

科目名/Subject : 発達障害学演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 前期 金曜日 5 講時 総合研究棟 202 教室

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学研究法

Research methods of developmental disabilities

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

先行研究のレビューや討論を通じて自らの問題意識を明確化し、発達障害のある子どもや成人に対する心理教育支援の在り方を追求するための研究姿勢を身に付ける。

Those who take this seminar will clarify their own research subjects through review of previous researches and discussion. Those who take this seminar will also acquire some basic skills to study psychological and educational support for individuals with developmental disabilities.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 自らの問題意識を明確化し、研究課題として位置づける。
- ② 先行研究のレビューの仕方を身に付ける。
- ③ 研究計画の立案、計画の遂行、解析方法、考察の仕方を身に付ける。
- ④ 習得した方法を卒業論文等の作成に応用する。

After taking this seminar, you should be able to :

- ① Describe your own research subject.
- ② Review the preceding researches.
- ③ Make your research plan and execute the plan, and also show analysis methods and the way of thinking.
- ④ Prepare your graduation thesis.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1～5. 各自の問題意識に沿った文献報告あるいは文献レビュー
- 6～10. 発表と討論を通じての研究課題の焦点化
- 11～15. 研究計画の立案、研究方法の検討

1～5. To review research papers in line with your interests and report your review at this seminar

6～10. To clarify your research themes through presentations and discussions

11～15. To make a research plan and clarify the research method

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点 (50%), 討論への参加 (25%), 研究発表内容 (25%) により、総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%), participation in discussions (25%), and contents of research presentations (25%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

国内外の研究論文を検索・収集し、授業で紹介できるように準備を進める。

Search and collect domestic and foreign research papers and prepare to introduce them in class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

この授業は、授業担当教員の指導学生を対象とする。

This class is for students in the lab of the faculty in charge of the class.

(Google クラウド対応)

① クラスコード

ujobbgm

②第一回授業の開始時期

- ・ゴールデン・ウィーク明けからの開始とします。

③授業の実施方法

- ・この授業は、授業担当者の指導学生を対象としています。
- ・授業は、Google meet 等を用いたリアルタイム方式で行う予定です。

④関連資料の入手方法

- ・Google 共有ドライブ等の使用を想定しています。

⑤オンライン授業への対応が困難な学生への対応策

- ・自宅のWiFi 環境が整っていない場合は、野口まで申し出てください。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 17:10:12

科目名/Subject : 博物館教育論

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 生島 美和 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

博物館教育の理論的展開と人々の学習・研究活動を支援する教育実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

資料である「モノ」と、利用者・学習者としての「人」とを、博物館という「場」はどのように結び付けることで教育機能を創出することができるのか。設置規模や収蔵資料の種類、館が持つミッション・重点課題により多様な在り方を持つ博物館が、教育活動をどのように捉え市民の学習活動を支援するのか。博物館の教育機能についての考え方や特性について概観しながら、企画・実施・評価といった実践の展開について検討する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・博物館教育の基盤となる理論や、実践に関する方法論について理解する。
- ・博物館における教育活動を通じた人間形成・主体形成について理解を深める。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

【授業の内容】

- 第1回 教育の意義と本質 : 人間形成における「教育」について考える
- 第2回 社会教育施設としての博物館 : 社会教育施設としての博物館の位置と役割について論じる
- 第3回 博物館の利用実態と利用者の博物館体験 : 博物館の教育機能について利用者の立場から検討する
- 第4回 博物館教育論史 : 欧米・日本における博物館教育論史について
- 第5回 博物館教育の特性(1) : 博物館教育の特性について、特に展示・事業を通じて論じる
- 第6回 博物館教育の特性(2) : 博物館教育の特性について、特に地域社会とのかかわりから論じる
- 第7回 博物館教育の方法(1) : 講座・講演会・参加体験などを通じた教育活動について
- 第8回 博物館教育の方法(2) : 学習・研究活動の支援を通じた教育活動について
- 第9回 博物館の分類別にみる教育活動 : 多様な分類をしながら、それぞれの教育活動について検証する
- 第10回 学校教育と博物館との連携 : 事例を通じながら学校教育と博物館教育の差異・連携について論じる
- 第11回 ボランティア・友の会 : ボランティア・友の会への参加促進による教育活動について
- 第12回 地域の学習活動の場としての博物館 : 「地域博物館論」及びその活動について
- 第13回 地域づくりと博物館 : 博物館活動と地域社会とのダイナミクスの中から教育を考える
- 第14回 博物館教育における学芸員の役割 : 博物館教育を進める上で学芸員に求められることは何か
- 第15回 まとめ : 授業のふり返しを行う

【授業の方法・進度予定】

4日間の集中授業で行う。

講義を主とし、スライドや映像などを使用しながら進める。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

- ・博物館の教育活動に携わるうえでの基本的な知識・力量を身につけることができたか。
- ・授業内容の理解およびそれに関する自身の関心や考えについて述べるよう、レポートを課す。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業時に提示する。

授業内容に応じてレジユメのほか、適宜、文献や資料(事例紹介、新聞記事)などを配布する。

参考図書: ジョージ・E・ハイン『博物館で学ぶ』(同成社、2010)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

平時から新聞やニュース、自治体の広報などを見るようにする。また博物館や文化財の見学に足を運ぶようにするとともに、それらをめぐる話題や議論について関心を持ち、自分なりの考えを持てるようにする。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業への積極的参画・発言を求める。毎回の終了時には授業に関するコメントシートを提出する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 09:07:06

科目名/Subject : カリキュラム論演習 I

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 串本 剛

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

カリキュラム研究の理解と実践

Understanding and practice of curriculum studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本演習の目的は、教科書の精読によりカリキュラム研究の概要を理解し、それを実践することである。受講生には最初の3日間で身につけた知識を基礎に、10日程度の期間で実際にカリキュラム研究を行い、その成果をまとめたレポートを最終日に発表することが求められる。

The purpose of this seminar is to make students understand the outline of curriculum studies by reading the textbook, and make them practice a curriculum study. Students are required to conduct a curriculum study for about 10 days based on the knowledge acquired in the first 3 days of this course, and to make a presentation about the results of the study on the last day.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) カリキュラム研究の概要を理解する
- 2) カリキュラム研究の成果をレポートにまとめ発表する
- 3) 一定期間に集中して自律的に研究する

1) Understand the outline of curriculum studies

2) Write a report of the outcomes of a curriculum study and make a presentation on it

3) Study independently with concentration for a certain period

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

本演習は、4日間15コマ分の授業と、30コマ分の授業外学修で構成される。授業の予定は次の通りである。最初の3日間12コマ分で教科書の内容を理解・共有し、最終回までの期間でレポートを作成する。

第1回～第4回[7月31日(月)1限～4限]:第1部 カリキュラム理論の展望(全14章)

第5回～第8回[8月1日(火)1限～4限]:第3部 カリキュラム研究の方法(全11章)

第9回～第12回[8月2日(水)1限～4限]:第2部 カリキュラム実践の課題(全14章)

第13回～第15回[8月11日(金)2限～4限]:レポート発表会

This seminar consists of 15 lessons for 4 days and independent study deserving the length of 30 lessons. The class schedule is as follows. Students will understand and share the contents of the textbook in 12 lessons for the first 3 days, and they will write a report during a period until the final day.

Lesson 1 to 4 [7/31 (Mon.) 1~4 periods]: Part 1. Outlook of curriculum theories (14 chapters)

Lesson 5 to 8 [8/1 (Tue.) 1~4 periods]: Part 3. Methods of curriculum studies (11 chapters)

Lesson 9 to 12 [8/2 (Wed.) 1~4 periods]: Part 2. Challenges of curriculum practices (14 chapters)

Lesson 13 to 15 [8/11 (Fri.) 2~4 periods]: Report presentations

5. 成績評価方法/Evaluation method :

プレゼンテーション40%, レポート60%

Presentations 40%, Report 60%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

【教科書】日本カリキュラム学会編(2019)『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版

初日までに購入して、当日必ず持参すること

All students must buy the textbook and bring it to the first class

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第3回と最終回の間に、レポート作成期間として30コマ分の時間を確保する

Between the third and final days of this course, a duration deserving to the length of 30 lessons will be ensured for writing a report

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

最終日授業後に、希望者による懇談会を実施する予定。

After the class on the last day, a party for the ones wish to come will be held.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/04 13:19:13

科目名/Subject : カリキュラム論講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 石井 英真 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
教育方法学研究から現代の学校改革を読み解く
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
教育方法学研究の歴史的な展開を概観し、基本的な論点を整理する。学校教育の中心的な営みである授業づくりの方法論や理論的・実践的知見を学ぶ。そうした教育方法学研究の蓄積をふまえて、現代の授業改革や学校改革を検討する。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
教育方法学研究の歴史的な展開、および基本的な論点を理解する。
授業づくりの方法論や理論的・実践的知見を理解する。
教育方法学研究の蓄積をふまえて、現代の授業改革や学校改革を読み解けるようになる。
4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :
 1. オリエンテーション (授業の進め方の説明、受講者の問題意識の共有)
 2. 教育改革の現在—新学習指導要領をめぐる論点など
 3. 学力論争史とカリキュラム研究の基本的な論点
 4. 授業研究の諸系譜と基本的な論点
 5. 教師教育と教師の専門性をめぐる基本的な論点
 6. 授業の本質と授業をデザインする枠組み
 7. 教育目的・目標の明確化
 8. 教科内容研究と教材研究の方法論
 9. 教育をめぐる時間・空間・関係・文化の問い直し
 10. 授業づくりの技とテクノロジーの活用
 11. 教育評価の考え方と方法論
 12. 教師の成長と学校づくり
 13. 授業づくりのヴィジョンとしての「教科する」授業
 14. 「未来の学校」をどう構想するか
 15. まとめ (授業全体を振り返って、自分の授業づくりにどう生かすか)
5. 成績評価方法/Evaluation method :
授業中に行うテキストのまとめと発表をもとに評価する。
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
石井英真『授業づくりの深め方』ミネルヴァ書房、2020年。
石井英真『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』東信堂、2020年。
石井英真『今求められる学力と学びとは』日本標準、2015年。
下司晶他編『教育学年報 11 教育研究の新章』世織書房、2019年。
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
授業中に課すレポート課題への取り組みを求める。
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○" Indicates the practical business ×
9. その他/In addition :
なし。
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/12 14:13:38

科目名/Subject : 比較人間形成論講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 竹川 大介

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
3. 学習の到達目標/Goal of study :
4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :
5. 成績評価方法/Evaluation method :
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note:"○"Indicates the practical business
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :

科目名/Subject : 道徳教育の研究 (理系)

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講 その他

担当教員/Instructor : 2020 八幡 恵 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

学校における道徳教育

Moral education in school

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業では、歴史的な観点をつまみ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容、道徳の教科化、道徳教育の指導法について解説する。

This course provides explanations of the contents of the moral education implemented throughout all educational activities, moral education as an official subject and teaching methods of moral education, based on historical background.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要点を説明することができる。
- ・個々の道徳授業について、その利点と欠点を説明することができる。

The purpose of this course is to help students explain the points of the moral education implemented throughout all educational activities in schools.

The purpose of this course is to help students explain the good points and the weak points of the individual moral education classes.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 道徳と教育① : オリエンテーション、「道徳科」について (講義)
Orientation, about the "Morality Period"
- 2 道徳と教育② : 慣習倫理と反省倫理 (講義)
Customary ethics and reflective ethics
- 3 道徳と教育③ : 社会性と道徳教育 (講義)
Sociality and moral education
- 4 道徳教育の歴史① : 戦前の道徳教育① (講義)
Prewar moral education①
- 5 道徳教育の歴史② : 戦前の道徳教育② (講義)
Prewar moral education②
- 6 道徳教育の歴史③ : 戦後の道徳教育 (講義)
Postwar moral education
- 7 道徳教育の歴史④ : 道徳の教科化 (講義)
Moral education as an official subject
- 8 道徳教育の規定 : 学習指導要領の解説 (講義)
Explanation of the national curriculum standards
- 9 道徳の授業研究① : 基本型の道徳授業① (講義)
Basic type of moral classes①
- 10 道徳の授業研究② : 基本型の道徳授業② (演習)
Basic type of moral classes②
- 11 道徳の授業研究③ : モラルジレンマ授業 (講義)
Moral dilemma class
- 12 道徳の授業研究④ : 映像資料を用いて (演習)
Using video material
- 13 道徳の授業研究⑤ : 道徳教育の指導計画 (講義)
Syllabus of the moral education
- 14 道徳の授業研究⑥ : 学習指導案① (講義)
Teaching plan①
- 15 道徳の授業研究⑦ : 学習指導案② (演習)
Teaching plan②

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時の課題 (4割)、レポート (6割) による。出席不良者はレポートを受理しない。

Submitted assignments 40%, the final report 60%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

『考える道徳教育 ―「道徳科」の授業づくり』笹田・相澤・山口（編）（福村出版）

『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』文部科学省（教育出版）

(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_011.pdf)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

Students are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 13:25:53

科目名/Subject : 教育政策科学演習Ⅶ

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講 その他

担当教員/Instructor : 2020 末富 芳 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育費の政治経済学

The Political Economy of Education Expenditure

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「教育の経済」は、純粋なマーケットメカニズムで成立しているわけではない。教育サービスの需要サイドは保護者と子どもでもあるが、保護者と子どものサービスに対する好み（選好）は常に一致するわけではない。また教育サービスの供給市場は、政府による様々な規制が作用しており、供給サイド（学校、塾）は様々なやり方によりサービスの受け手を選別する。教育は単なる商品の売買ではなく、サービスの需要サイド（生徒）と供給サイド（学校・教師）による共同生産財としての一面を持つからである。

本講義では決してシンプルではない「教育の経済」の諸相を、ミクロ（家計、生徒、保護者）、メゾ（学校、地方政府）、マクロ（市場、中央政府）に注目しながら理解し、変化する教育消費の現実やその背景にあるポリティクスを冷静に評価するための基礎的スキルを、理論や政策分析に焦点を当てながら養うことを目的とする。

The actual "economy" is not simply depend on a market mechanism. The demand side of the education economy is composed by both parent and children. However their preference sometimes won't match. On the other hand, the supply side of education are effected by the regulation policy. The supplier play as "cream skimmier" in the quasi-market of education.

We should not understand education as a "goods" like a fruit or clothes, but should discribe the characteristic as a "corrabolative production" which is co-produced between the demandd side and the supply side.

Through this lecture, learning object are set as follows. Firstly, to understand the structure of actual "economy" of education focusing on micro-mezo-macro level. Secondly, to recognise the impact of "politics" behind the "economy". Third, to grasp the whole structure of complicated "economy" of eduaction by learning theories and anlysing policy process.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・日本における政府教育費支出と家計教育費支出との歴史的な展開と相互作用の変動を理解できる。
- ・家計教育費に依存した日本の公教育市場とそれに付随するエデュケーションキャピタリズムの巨大化プロセスとその課題を指摘できる。
- ・家計教育費に依存した「親負担ルール」がもたらしてきた格差や貧困の負の側面とその改善策を理解できる。
- ・教育の無償化政策が急拡大したことのメリットとデメリットを分析することができる。

・The participants could understand histrical expansion process and interaction between governmental funding and household cnsuming of education.

・The participants could pointout the problems of expanding of education capitalism cansed by the public education market in which household expenditure has signifiacnt leading role.

・The participants could recognise and discribe the negative aspect of "parent paying rule" which depend on household education expenditure as the socio-economical gap and child poverty.

・The participants can point out the merit and the demerit of the hasty introducation of "fee free policy" from pre-primaty to tertially level.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 「教育の経済」の構造と主体—ミクロ・メゾ・マクロ—

(The sutructuers and significant actors of the "economics" of education)

2. 教育は消費か、投資か？

(Is education is consume or investment?)

3. 教育格差をどう解くか？—格差の縮小と貧困の改善との違い—

(How to improve the gap of education: focusing on the defference between narrowing gap and improving poverty)

4. オーバービュー：日本における教育財政の制度と機能

(Overview; the system and role of governmental funding of Japan)

5. 義務教育段階における教育費の公私負担を考える

(Thinking about the economic role of government and household of the compulsory education)

6. 義務教育費国庫負担制度の変容—「面の平等」と「個の平等」—

- (The transformation of national funding for compulsory education: from horizontal equity to individual equity)
7. 無償化政策をどうとらえるか?—高校段階を中心に—
(How the fee free policy have impacted on the education: focusing on high schools)
8. 無償化政策をどうとらえるか?—幼児教育と高等教育—
(How the fee free policy impact on the education: focusing on pre-primary and tertially level)
9. 子どもの貧困・格差と教育—学力調査・子どもの貧困調査による把握—
(Child poverty and social gap in education: grasp through the national test survey and important survays of child poverty)
10. 子どもの貧困・格差と教育—日本における政策的アプローチの分類—
(Child poverty and social gap in education: the categorial analysys of policy approach)
11. 子どもの貧困・格差と教育—日本における政策的アプローチの合理性—
(Child poverty and social gap in education: the effectiveness of policy approach)
12. 学校外教育への公費投入は「正しい」か?—ファンディングとガバナンスを考える—
(Is that "right" to spent govermental expenditure to extracurricular activities provided by private sector?)
13. 拡張する教育財政は教育経済をどう変容させるか?
(What is happening in the "economy" of education by the expanding eduaction finance?)
14. 教育経済学、教育社会学の「価値」—実体経済とエビデンスなるもの—
(The value of economics of education and sociology of education)
15. 教育学としての教育行政学・教育財政学のポジションをどう考えるか?
(What the value of the research of educational administration and finance as a education science?)
- 5. 成績評価方法/Evaluation method :**
授業への出席および参画度 60%
レポート 30%
- Attendance and class participation including discussion 40%, essay (including short essays) 30%
- 6. 教科書および参考書/Textbook and references :**
末富芳, 2010, 『教育費の政治経済学』 勁草書房.
末富芳編著, 2017, 『子どもの貧困対策と教育支援』 明石書店.
居場所カフェ立ち上げプロジェクト編著, 2019, 『学校に居場所カフェをつくろう』 明石書店.
- 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**
上記教科書の事前の読解
The participant required reading of text books as a preperation.
- 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note:"○"Indicates the practical business**
- 9. その他/In addition :**
- 10. 更新日付/Last Update :**
2020/03/10 16:27:24

科目名/Subject : 道徳教育の研究 (文系)

曜日・講時/Day/Period : 前期集中 その他 連講 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 池田 全之 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
義務教育学校で実施されている特別の教科道徳の運営について理解する。
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
本講義の目的は以下の3つである。
①義務教育学校で行なわれている特別の教科道徳が、学習指導要領を始め、いかなる規則に従っているのを理解すること。
②従来の基本型、討論型、課題解決型などの道徳の学習指導の基本的方法を理解できている。
③実際に道徳の学習指導案を作成できるところ。本講義の概要は以下の通りである。
この授業では、道徳科の授業を実施するにあたり、教師が素養としてもっているべき倫理的基礎知識、近代日本における道徳教育の歴史、子どもの道徳性の発達理論を説明する。そのうえで、具体的にどのように道徳科の指導案を作成すべきかを、学習指導要領に定められた道徳科の目標から説明を始め、基本型授業の指導案の構造、討論型授業の指導案の構造、新しい道徳教育の手法として哲学対話を取り入れた道徳授業の構造を説明する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
①学校において実施される特別の教科道徳が、制度上どのように規定されているのかを理解できる。
②特別の教科道徳の学習指導案を作成するための基礎知識を習得できる。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
第1回：教育思想の観点から現代の道徳教育の課題を考える (その1) ——ヘーゲルの古典的人間形成観について
第2回：教育思想の観点から現代の道徳教育の課題を考える (その2) ——ヘーゲルの人間形成観に欠けているもの。ベンヤミンの意識論とヤスパースの「ソクラテス的教師」を参照して
第3回：教育思想の観点から現代の道徳教育の課題を考える (その3) ——ヘーゲルの人間形成観に欠けているもの。ハイデガーの「存在論的差異」概念を参照して
第4回：日本における道徳教育の歴史の概略、学習指導要領で「特別の教科道徳」の授業はどのように規定されているのか
第5回：学習指導要領で「特別の教科道徳」の授業はどのように規定されているのか、学校における道徳の全体計画と年間指導計画について
第6回：基本型授業のレイアウト (その1)
第7回：基本型授業のレイアウト (その2)
第8回：反面教師としての修身——修身の授業方法から教訓とすべきこと

第9回：反面教師として修身 (続き) と討論型の授業について (導入)
第10回：討論型授業の原則——ピアージェとコールバーグの発達理論について
第11回：討論型授業のレイアウト (その1)
第12回：討論型授業のレイアウト (その2)
第13回：道徳教育の新しい方法論の模索——対話を取り入れた道徳授業のレイアウト (その1)
第14回：道徳教育の新しい方法論の模索——対話を取り入れた道徳授業のレイアウト (その2)
第15回：まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
レポートの出来によって決定する (100%)。授業内容の理解を測る課題 (学習指導案作成) とする予定である。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
教科書は使用しない。授業時に随時必要な資料を配付する。なお参考書として、笹田博通他編著『考える道徳教育』、福村出版、2018年を随時参照してほしい。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
短期間の連続講義であるため特段要求はしないが、あらかじめ講義資料を配布しながら実施するので、事前に読んでから参加することが望ましい。
8. **実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/20 13:15:03

科目名/Subject : 司法・犯罪心理学

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 菅藤 健一 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

司法・犯罪心理学

Juducal criminal Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

少年保護法制, 犯罪・非行の現況や犯罪・非行少年の心理的特性及びその支援について解説し, 犯罪・非行臨床についての基本的な知識を獲得させることを目的とする。

The purpose of this lecture is to explain the juvenile protection legislation, the current state of crime and delinquency, the psychological characteristics of crime and delinquency boys, and their support, and to acquire basic knowledge about crime and delinquency.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・少年保護法制に関する基本的事項について説明できる。
- ・犯罪・非行に至る少年の心理的特性と支援の方法を理解する。
- ・犯罪・非行臨床の現況と将来について, 様々な角度から考察することができるようになる。

- ・ Explaining basic matters related to juvenile protection legislation.
- ・ Understanding the psychological characteristics of boys leading to crime and delinquency and how to support them.
- ・ Considering the current situation and future of crime and delinquency from various angles.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション Orientation
- 2 少年保護法制の概説及び関係機関の説明 Outline of juvenile protection legislation and explanation of related organizations
- 3 少年事件の歴史と現況 History and present situation of juvenile case
- 4 非行発生機序と処遇について～薬物犯 About mechanism of delinquency and treatment-drug offense
- 5 非行発生機序と処遇について～放火犯 Arsonist
- 6 非行発生機序と処遇について～財産犯 Property criminal
- 7 非行発生機序と処遇について～女子非行 Women's delinquency
- 8 非行発生機序と処遇について～発達障害を有する少年 Boy with developmental disabilities
- 9 少年鑑別所における鑑別システム Identification system in juvenile classification home
- 10 少年院における矯正教育 Corrective education in juvenile training schools
- 11 犯罪・非行臨床における心理アセスメント Psychological assessment in criminal and delinquency clinical practice
- 12 非行少年の人格上の問題, 拘禁の心理 Personality problems of delinquent boys, psychology of detention
- 13 被害者対応, 裁判員制度, 医療観察法他 Victim response, judge system, medical observation method, etc.
- 14 防犯 Crime prevention
- 15 授業の振り返り Review of class

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時の発言内容, 毎授業ごとの小レポートで 30%, 期末に実施する試験またはレポート課題で 70% の割合で評価する。

30% for the content of remarks during class, for small reports for each class, and 70% for exams or report assignments conducted at the end of the term.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書はありません。独自に作成したパワーポイントによる授業を実施します。

参考書としては, 日本犯罪心理学会編 犯罪心理学事典 丸善出版

法務省矯正研修所編 矯正心理学 矯正協会

細江達郎 犯罪心理学 (図解雑学) ナツメ社等を推薦します。

There are no textbooks. I will hold a class using our uniquely created PowerPoint.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

できるだけ新聞等で犯罪に関する記事を読むように心がけてください。日頃から犯罪・非行に対する興味関心を高めて, 授業に臨んでいただくとより興味が増すかと思えます。授業に主体的に取り組むことを期待しています。

Try to read articles about crime in newspapers and other media as much as possible. I think that raising interest

in crime and delinquency on a regular

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

現場での経験を織り交ぜながら犯罪・非行について解説します。実習や討論も実施します，より主体的・積極的に授業に参加してください。

Explains crimes and delinquencies while intermingling experiences on the spot. Practices and discussions will be held. Please participate more actively and actively in the class.

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 18:26:38

科目名/Subject : 教育心理学演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時 総合研究棟 203 演習室

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理学研究の実際

Topics in Educational Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、教育心理学における実証研究論文（査読付）を抄読するなかで、心理学研究の各トピックスや方法論についての知識と理解を深めて、さらにその知識ベースの共有化を受講者間で図ることを目的とする。

The aim of this course is to provide students with the conceptual framework, factual knowledge, and analytical skills necessary to deal with the researches in current educational psychology through intensive reading of peer-reviewed papers.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・現在の教育心理学研究における主要な研究テーマ・トピックについて理解する。

At the end of the course, you should be able to describe main research interests and issues in current educational psychology .

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 教育心理学研究論文のトピックス

第2回～第14回 教育心理学に関連する査読論文が掲載されている雑誌から実証研究の論文を選択し、各回3～4名の報告担当者がそれぞれ論文について報告し、全員で討議する。

第15回 まとめ と ふりかえり

(1) Topics in Educational Psychology

(2) -- (14) Reports and discussions of papers

(15) Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

発表および授業への参加・貢献（60%）、期末レポート（40%）により評価する。

Grading will be based on your presentation and a fraction of in-class contribution(60%) and term paper(40%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教育心理学研究、心理学研究、発達心理学研究、教授学習心理学研究、読書科学、認知科学他

その他授業中に適宜参考書を紹介する。

References and reading materials will be distributed at class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

・次週の発表論文が共有されるので、受講者全員、事前に読んでくること。

・発表者は、討論および指摘事項を踏まえてレジュメを修正し、共有すること。

The students are expected to read papers beforehand and to prepare presentations.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業の運営については、初回に説明する。本授業では、受講者は3回程度の発表が求められる。

Details of required presentation will be announced in the class.

Active engagement in the class is highly recommended.

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 17:13:07

科目名/Subject : 教育実践論講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 長島 康雄 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

総合的な学習ならびに特別活動の教育実践とその教育的意義

★Description and analysis of educational practices ; The period for Integrated Studies and Extracurricular activities.

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この講義を通して、学生は総合的な学習や特別活動がどのように成立してきたか、ならびに日本の教育政策の下で、どのようにマネジメントされ、実践されているのかを理解できる。

In this lecture, students can understand the process of comprehensive learning and the formation of special activities. Under the education policy of Japan, you can know the actual situation of each school.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

この講義では、学生が特別活動ならびに総合的な学習への理解を深めるとともに、教育実践を支えている教師に興味を持つことが目標である。

This course is designed to help students understand educational practices ; Extracurricular activities, The period for Integrated Studies and deepen their interest in teacher.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 : 2030年の子どもと学校教育

Children and school education in 2030

第2回 : 学習指導要領からみた総合的な学習と特別活動

The period for Integrated Studies and Extracurricular activities from the point of a course of study

第3回 : 学力観の変遷と総合的な学習・特別活動

History of The period for Integrated Studies and Extracurricular activities

第4回 : 総合的な学習におけるカリキュラム開発

Curriculum development of The period for Integrated Studies

第5回 : 総合的な学習と教科教育等の相補性

Complementarity; The period for Integrated Studies and the subjects in a school curriculum

第6回 : 地域連携と総合的な学習

Significance of community cooperation in The period for Integrated Studies

第7回 : 日本型教育活動として世界に広がる「特別活動」

Extracurricular activities spreading from Japan to the world

第8回 : 子どもの権利条約と特別活動

Convention on the Rights of the Child and Extracurricular activities

第9回 : 学級活動 (ホームルーム活動)

Class activities; homeroom activities

第10回 : 生徒会活動

Student council

第11回 : 学校行事

School event

第12回 : 学校組織開発と特別活動

School organization development in Extracurricular activities

第13回 : 防災教育

Disaster prevention education

第14回 : 道徳教育への総合的な学習・特別活動の果たす役割

Contribution of The period for Integrated Studies and Extracurricular activities to moral education

第15回 : 教育課程経営の視点からみた総合的な学習の時間・特別活動

Curriculum management in The period for Integrated Studies and Extracurricular activities

5. 成績評価方法/Evaluation method :

成績評価は以下の方法で行う。

- ・講義への出席状況と受講態度 20%
- ・授業毎に出す課題レポート 50%
- ・期末レポート 30%

以上の割合で、総合的に判定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class: 20%
- Short reports: 50%
- Term-end report: 3

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は特に指定しない。授業の中で適宜資料を配付する。

No textbooks will be used. References are handed out at every class.

参考図書

藤田晃之 『新学習指導要領の展開－特別活動編－』 明治図書 2017年

田村学 『新学習指導要領の展開－総合的な学習編－』 明治図書 2017年

水原克敏 『学習指導要領は国民形成の設計書』 東北大学出版会 2010年

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時に課される宿題を提出するだけでなく、配布されるプリントにより授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。

Students are required not only to submit class assignments but also to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask quest

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

この授業は日本語で提供されます。

This course will be taught in Japanese.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:55:29

科目名/Subject : 教育情報デザイン論講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 2 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 克美

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

ICT 活用と教育
ICT utilization and education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育情報学とは超高度情報化社会、知的基盤社会における教育について、基礎及び応用そして実践と言う領域を内包した、融合的・学際的・先端的な学問領域である。
教育情報学デザイン論講義 I では、教育情報学について、教育と情報科学、テクノロジーの関連について概観することで教育情報学という学問の融合性・学際性・先端性を理解するとともに、教育情報学の基礎的な知識を学習する。

Educational informatics is an integrated, interdisciplinary, and advanced academic discipline that encompasses basic, applied, and practical areas of education in a highly computerized society and an intellectually-based society. Course on Educational Informatics Design I will provide an overview of the relationship between education and informatics and technology in educational informatics. Students will understand the academic integration, and advanced academic discipline for educational informatics and the learn basic knowledge about it.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育情報学の融合性・学際性・先端性について理解する
- ・教育情報学の基礎をなす、教育と情報科学・テクノロジーとの関連を理解する

The purpose of this course is to help students better:

- ・Understand the academic integration, interdisciplinary, and advanced academic discipline
- ・Understand the relationship between education, information science, and technology, which are based on educational informatics.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：コンピュータで何が出来るか（1）
- 第3回：コンピュータで何が出来るか（2）
- 第4回：教育情報学を支えるテクノロジー（1）ICT 機器
- 第5回：教育情報学を支えるテクノロジー（2）ソフトウェア
- 第6回：教育情報学を支えるテクノロジー（3）インターネット
- 第7回：教育情報学と学校教育
- 第8回：教育情報学と情報科学
- 第9回：まとめ（1）
- 第10回：ICT を活用した教育・学習の具体（1）
- 第11回：ICT を活用した教育・学習の具体（2）
- 第12回：ICT を活用した教育・学習の具体（3）
- 第13回：ICT を活用した教育・学習の具体（4）
- 第14回：ICT を活用した教育・学習の具体（5）
- 第15回：まとめ（2）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業毎に行うミニットペーパー、授業内の発言と数回のレポート課題、及びディスカッションでの発言内容・態度等を総合的に判断して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- 参考書
佐伯胖監修・渡部信一編 『「学び」の認知科学辞典』 大修館書店
坂元 昂・岡本敏雄・永野和男編著 『教育工学とはどんな学問か』 ミネルヴァ書房
渡部信一監修 『高度情報化時代の「学び」と教育』 東北大学出版会
渡部信一 『超デジタル時代の「学び」 よいかげんな知の復権をめざして』 新曜社
その他、必要に応じて配布

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

レポートの他、講義で課題を出します。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

特に無し

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:28:13

科目名/Subject : 生涯学習論演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時 総合研究棟 203 演習室

担当教員/Instructor : 2020 松本 大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

社会的排除に抗する社会教育・成人教育・生涯学習の理論と実践

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

- (1) まず、成人教育・成人学習の理論について講義する。
- (2) 次に、社会的排除をめぐる社会教育実践・成人教育実践に関する文献収集・文献講読と討論を行う。
- (3) さらに、それら社会的排除に関わるテーマについて、受講生が実際にワークショップ型の学習を企画・実践する。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- (1) 成人の学習支援に関する理論的・実践的な知識や技術の基礎を獲得できる。
- (2) 社会的排除をめぐる社会教育実践・成人教育実践の意義や課題を考察できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：ガイダンス
 第2回：成人教育の理論 (1) —ノールズ—
 第3回：成人教育の理論 (2) —メジローとフレイレ—
 第4回：成人教育の理論 (3) —状況的学習論—
 第5回：成人教育の理論 (4) —成人学習論の論点と課題—
 第6回：貧困と社会教育・成人教育 (1) —文献講読と討論①—
 第7回：貧困と社会教育・成人教育 (2) —文献講読と討論②—
 第8回：貧困と社会教育・成人教育 (3) —文献講読と討論③—
 第9回：貧困と社会教育・成人教育 (4) —ワークショップ実践—
 第10回：社会的排除と社会教育・成人教育 (1) —文献講読と討論①—
 第11回：社会的排除と社会教育・成人教育 (2) —文献講読と討論②—
 第12回：社会的排除と社会教育・成人教育 (3) —文献講読と討論③—
 第13回：社会的排除と社会教育・成人教育 (4) —文献講読と討論④—
 第14回：社会的排除と社会教育・成人教育 (5) —ワークショップ実践—
 第15回：まとめ

受講者数や授業の進捗状況によって内容が変わる場合がある。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度 (30%)、発表内容 (40%)、最終レポート (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：使用しない。資料を配布する。

参考書：授業時に適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

- (1) テーマに関する文献をグループもしくは個人で収集し、レジュメとしてまとめること。
- (2) テーマに関するワークショップ型の学習をグループもしくは個人で企画・準備すること。
- (3) 授業で紹介された文献について自分で調べ、読んでみる。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

他の社会教育・生涯学習関連科目と合わせて履修することが望ましい。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 14:46:09

科目名/Subject : 心理演習

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

心理演習 / Seminar in Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理的な支援についての基礎的な知識と技能を習得する。 / This course is designed to help students to gain the knowledge and the ability for psychological support at a fundamental level.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

心理的支援に求められるコミュニケーション、要支援者のニーズの把握や適切なフィードバック、心理査定、心理支援の技法などの技能の基礎を習得する。また、多職種連携・地域連携や支援者に求められる倫理について説明できる。 / To gain the ability required in psychological support (e.g., communication skills, understanding needs of a person requiring help, proper way of providing feedback, psychological assessment, therapeutic approaches, etc.), at a fundamental level.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション：心理演習で学ぶこと
- 第2回 心理学的支援におけるコミュニケーション：情報収集
- 第3回 心理学的支援におけるコミュニケーション：傾聴的態度①
- 第4回 心理学的支援におけるコミュニケーション：傾聴的態度②
- 第5回 心理検査①
- 第6回 心理検査②
- 第7回 心理検査③
- 第8回 心理検査④
- 第9回 心理面接：認知行動療法に基づく要支援者の理解と支援①
- 第10回 心理面接：認知行動療法に基づく要支援者の理解と支援②
- 第11回 心理面接：家族療法に基づく要支援者の理解と支援①
- 第12回 心理面接：家族療法に基づく要支援者の理解と支援②
- 第13回 公認心理師としての職業倫理および法的義務
- 第14回 チームアプローチ・多職種連携に関する事例検討
- 第15回 地域連携に関する事例検討、まとめ

#1 Orientation

#2 Communication in psychological support: gathering information

#3 Communication in psychological support: active listening skills (1)

#4 Communication in psychological support: active listening skills (2)

#5 Psychological tests (1)

#6 Psychological tests (2)

#7 Psychological tests (3)

#8 Psychological tests (4)

#9 Psychological assessment and therapeutic approaches based on cognitive behavioural therapy (1)

#10 Psychological assessment and therapeutic approaches based on cognitive behavioural therapy (2)

#11 Psychological assessment and therapeutic approaches based on family therapy (1)

#12 Psychological assessment and therapeutic approaches based on family therapy (2)

#13 Professionalism of Certified Public Psychologist

#14 Case studies of team approaches and multi-professional collaborations

#15 Case studies of community approaches

5. 成績評価方法/Evaluation method :

ディスカッションやロールプレイへの参加状況、受講態度 (60%)、複数回の小レポート (40%) / Presentations and class participation 60%, short essays 40%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で適宜指示する。 / Textbooks will be introduced in the class if necessary.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間外での小レポートの作成が必要となる。内容は授業内で適宜指示する。 / Students are required to complete short essays. The contents of the essays will be designated in the class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

公認心理師試験を受験するために必要な科目である。

この科目は平成30年以降入学者対象科目である。

本演習ではペアワークや少人数のグループによる活動を多く実施する予定である。そのため、心理的な負担がかかることも想定されることから、熟慮のうえ、受講について検討すること。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/03 16:21:09

科目名/Subject : 教育学実習

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時 総合研究棟 204 演習室. 後期 月曜日 5 講時 総合研究棟 204 演習室

担当教員/Instructor : 2020 柴山 直, 有本 昌弘, 熊谷 龍一, 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

プログラミング学習を通じた STEAM 型汎用スキルの獲得

Programming exercise for acquiring STEAM-type general-purpose skills

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「情報処理能力」「論理的思考能力」「批判的思考能力」は、これからの知識基盤社会において、学術研究はいうまでもなく、企業人・社会人としてさまざまな仕事に取り組む上で、必須の汎用的スキル・能力です。しかし、その複雑な仕事を組織的に効率よく進めていくスキル・能力を修得する上で、プログラミング実習が極めて有効であることはあまり知られていません。本演習では、自由度の高いデータ処理能力を持つ R、ビッグデータの処理や AI 開発などで盛んに利用されている Python の「プログラミング・スキル」習得を通してこうした能力の修得を目指します。教育心理学コースの方にも役立つ、汎用的な内容の教育学実習です。

Abilities such as “information processing”, “logical thinking”, and “critical thinking” are essential general skills for various kind of jobs in the upcoming knowledge-based society, as well as academic research. Programming course is extremely effective in acquiring such skills that enable us to carry out complex tasks efficiently and systematically. The aim of this exercise is to acquire these skills through learning programming methodologies in R and Python, that are widely used in statistical analysis, big data processing, and AI development. The course is designed as a general-purpose practice that is also useful for students in educational psychology courses.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・プログラミング・スキルの初歩がマスターできます。
- ・速くて無駄のないシンプルな仕事への方向づけができるようになります。
- ・情報の整理や解決すべき問題の切り分けなどができるようになります。

After taking this course, you will be able to:

- understand the basics of programming methodology.
- direct your working style towards simpler, faster, and more efficient ways.
- organize related information properly and divide problems to be solved into sub-tasks efficiently.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業はコンピューター・ルームにおける実習方式をとる。

進度予定

第1回 オリエンテーション

第2回 R 入門 R の基本操作

第3回 R による統計分析 (ファイル操作)

第4回 R による統計分析 (データフレーム操作)

第5回 R による統計分析 (プログラミング入門)

第6回 R による統計分析 (各種統計量の算出とグラフ作成)

第7回 R による統計分析 (重回帰分析, 分散分析, 因子分析)

第8回 R による統計分析 (総括)

第9回 Python 入門 Python による文書の自動分類 (概要)

第10回 Python による文書の自動分類 (ファイルと文字列の操作)

第11回 Python による文書の自動分類 (ファイルと文字列の操作)

第12回 Python による文書の自動分類 (文書からの特徴量抽出)

第13回 Python による文書の自動分類 (文書からの特徴量抽出)

第14回 Python による文書の自動分類 (文書の自動分類)

第15回 Python による文書の自動分類 (総括)

The exercise will take place in a computer room.

Schedule

Exercise 1: Orientation

Exercise 2: Introduction to R: Basic operations

Exercise 3: Statistical analysis using R (operations on file)
Exercise 4: Statistical analysis using R (operations of data-frame)
Exercise 5: Statistical analysis using R (Introduction to programming)
Exercise 6: Statistical analysis using R (basic statistics and graph)
Exercise 7: Statistical analysis using R (regression analysis, ANOVA, factor analysis)
Exercise 8: Statistical analysis using R (Summary)
Exercise 9: Introduction to Python: Document Categorization using Python
Exercise 10: Document Categorization using Python (operations on file and character sequence)
Exercise 11: Document Categorization using Python (operations on file and character sequence)
Exercise 12: Document Categorization using Python (feature extraction from document)
Exercise 13: Document Categorization using Python (feature extraction from document)
Exercise 14: Document Categorization using Python (document categorization)
Exercise 15: Document Categorization using Python (Summary)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

実習への参加状況 10%、課題への取り組み状況 90%

10% for participation in exercise, 90% for submitted assignments

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/11 16:58:14

科目名/Subject : 心理学的支援法

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭, 加藤 道代, 若島 孔文, 安保 英勇, 前田 駿太, 砂川 芽吹, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

心理学的支援法

Methods of Psychological Support

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習する。

あわせて、訪問による支援や地域支援等の多様な形態による支援の方法、心理支援に際しての倫理的配慮等についても学習する。

Participants will learn the history, concept, significance, adaptation and limit of representative psychotherapies and counseling.

Participants will also learn about methods of the various psychological support such as the support by visit or community approach, the ethical consideration on the psychological support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できる
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できる
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができる
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につける
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できる
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できる

The participants will be able to

- ・ understand the history, concept, significance, adaptation and limit of representative psychotherapies and counseling.
- ・ give an outline about significance of the support by the visit and the community support.
- ・ choose an appropriate support method depending on a characteristic and the situation of a person needing support about the psychology and can adjust it.
- ・ acquire communicative competence to build the good relationships.
- ・ explain limitation in an application of a psychotherapy and the counseling.
- ・ consider the privacy of the persons who need psychological support.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 心理学的支援の基礎
- 3-4. 精神分析療法・力動的心理療法
- 5-8. 行動療法、認知療法、認知行動療法
9. パーソンセンタード・アプローチ
- 10-12. 家族療法・集団療法
13. 子どもに対する心理療法
14. コミュニティ・アプローチ
15. 心の健康教育

1. Introduction
2. Basics of psychological support
- 3-4. Psychoanalytic therapy and dynamic psychotherapy
- 5-8. Behavioral therapy, Cognitive therapy, and Cognitive and behavioral therapy
9. Person centered approach
- 10-12. Family therapy and group therapy
13. Psychotherapy for children
14. Community approach
15. Education in mental health

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末試験 (100%)

Final exam (100%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で適宜指示、配布する。

Each professor instructs textbooks in the classroom.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当教員ごとに教室内で指示する。

Each professor instructs homework in the classroom.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness ○

9. その他/In addition :

※ この授業科目は平成30年度以降入学対象科目である

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : 発達心理学講義 (発達心理学)

曜日・講時/Day/Period : 後期 月曜日 5講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 長谷川 真里

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達心理学の基礎 /Foundation of developmental psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本コースは、最新の理論と研究に重点を置き、人の一生を通じた発達について学ぶ。様々な理論モデルから、認知的、社会的、感情的、道徳的発達を検討する。

/This course provides an introduction to lifespan development, emphasizing recent theory and research. The course examines the cognitive, social, emotional, and moral aspects of development through various theoretical models.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

人の一生を通じた発達のプロセスやメカニズムを説明できる。/At the end of the course, students should be able to explain the developmental processes and mechanisms.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 発達とは何か
3. 胎児期
4. 乳児期
5. 人間関係の発達 (1)
6. 人間関係の発達 (2)
7. 言語と遊びの発達
8. 自己の発達
9. 仲間関係 (1)
10. 仲間関係 (2)
11. 学校での学び
12. 青年期
13. 授業のまとめと試験準備
14. 授業のまとめと試験
15. 授業のまとめと試験結果のフィードバック

5. 成績評価方法/Evaluation method :

試験(70%)とミニ・レポート(30%)により評価する。 /The examination(70%) and the submitted reports (30%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

[教科書] 坂上裕子・山口智子・林創・仲間玲子 (著) 「問いからはじめる発達心理学」 有斐ストゥディア

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキストの授業当日の該当箇所を予習しておくこと /Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

[使用言語] 日本語。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/26 13:53:28

科目名/Subject : 産業・組織心理学

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 榎原 佐和子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

産業・組織心理学

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

産業・組織心理学は、個人および集団が人間の可能性を基盤として成長し、効率的であると同時に健康的かつ生きがいのある組織を形成し、心と行動の総合体として作業を遂行し、文化的生活者として消費することのできる条件などを研究する領域です。本授業では、産業・組織心理学の理論を概観し、継続的に健康的に働くために必要な知識を深めることを目標とします。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・産業・組織心理学の理論を概観し、理解する
- ・自らが継続して、健康的に働いていくための知識を得る
- ・自分が働くということを考えるきっかけを得る

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業では以下のことを扱います。

- ・産業・組織心理学の歴史
- ・働く人のメンタルヘル스에影響を及ぼしている日本の労働状況
- ・働く人のメンタルヘル스에影響を及ぼしている産業・労働分野の法令
- ・働く人のメンタルヘルス
- ・労働災害防止計画
- ・精神疾患の労災認定
- ・過労死等の労働の現場の現代的な問題
- ・ワークライフバランス
- ・労働者の心の健康に関する指針
- ・働く人のストレス、ストレスマネジメント
- ・職場におけるハラスメント
- ・職場復帰支援
- ・ワークモチベーション
- ・ワークエンゲイジメント
- ・キャリア発達、キャリア開発、キャリア支援
- ・障害のある人の就労支援、障害者雇用促進法
- ・職場におけるリーダーシップ 等

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度(50%)、試験(50%)を総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特に指定しない。

参考書：馬場昌雄・馬場房子・岡村一成(監修)(2017). 産業・組織心理学 改訂版 白桃書房

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

新聞や本などを通して、現代における労働関係の問題を考えるようにしてください。

参考資料等については各授業時に適宜指示する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

本授業では以下のルールで運用します。

- ・授業を30分以上遅刻した場合は欠席とみなします。ただし、相応の事情がある場合は授業担当者に申し出ること。
- ・私語はしないこと。
- ・他学生の迷惑になりうる行為をした場合は、授業担当者の判断で教室から退室をしていただく場合があります。

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/23 16:25:58

科目名/Subject : 発達障害学講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2 講時 総合研究棟 202 教室

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害学概論

Introduction to developmental disabilities

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この講義では、ASD（自閉スペクトラム症）、知的障害、AD/HD、などを有する子どもたちに関する基本的な知識（法令、教育制度、心理・生理・病理など）を学ぶ。グループ毎に割り当てられたテーマについて調べ、発表資料としてまとめ、発表することが求められる。

Those who take this lecture will learn basic knowledge (laws, educational system, psychology, physiology, pathology, etc.) on children with ASD (autism spectrum disorder), Intellectual Disability, AD/HD, and so on. Those who take this lecture are required to investigate the themes assigned to each group, summarize them as presentation materials, and present them.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①発達障害のある児童・生徒の困難状況とその背景について理解する。

②発達障害のある児童・生徒への心理教育支援について、多面的に捉える力を培う。

After taking this lecture, you should be able to :

①Explain the some difficult situations experienced by children with developmental disabilities and the background that they occur.

②Think diversely about psychological and educational support for children with developmental disabilities.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス

2～4. 発達障害の特性、発達障害に関わる教育制度、法令等に関するグループワーク（各グループに課されたテーマに関する資料を収集し、グループでの討議を通じて発表資料を作成する。）

5～8. 各グループによる発表、討議

9. 発達障害に関わる法令等について

10. 発達障害に関わる教育制度等について

11. ASD（自閉スペクトラム症）、AD/HD、LDのある子どもの理解と支援①

12. ASD（自閉スペクトラム症）、AD/HD、LDのある子どもの理解と支援②

13. 知的障害のある子どもの理解と支援

14. 関連する障害等のある子どもの理解と支援

15. まとめ

1. Guidance

2-4. Group work on the themes (characteristics of developmental disabilities, educational systems related to developmental disabilities, laws and regulations, etc.) assigned to each group. Each group collects materials on the assigned theme and prepares presentation materials through discussion.

5-8. Presentations by each group and general discussion

9. Laws related to developmental disabilities

10. Education systems related to developmental disabilities

11. Understanding and supports for children with ASD (Autism Spectrum Disorder), ADHD and LD

12. Understanding and supports for children with ASD (Autism Spectrum Disorder), ADHD and LD

13. Understanding and supports for children with intellectual disabilities

14. Understanding and supports of children with other disabilities

15. Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点(50%)及びレポート(50%)により評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%) and report (50%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要に応じて資料を配付する。

Not specified. Necessary materials will be distributed in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

それぞれのグループに課されたテーマに関する資料を収集し、グループでの討議を通じて発表資料としてまとめる。
配布した資料を予め読んでおくこと。

You should collect materials on the themes assigned to each group and compile them as presentation materials through group discussions.

And also you need to read the distributed m

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

特になし。

None.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 19:59:06

科目名/Subject : 教育行政学講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 後藤 武俊

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育行政学の基本概念と争点 / Basic Concepts and Controversies in Education Policy Studies.

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育行政学の対象領域に関する法的概念とその理論的背景を理解しつつ、不登校や外国人の子ども、困難を抱えた若者などの現代的教育課題に関わる争点について検討を加えていく。

/ The aim of this course is to help students understand legal concepts and theoretical backgrounds related to education policies. It also enhances the development of students' understanding on controversies about current educational issues, i.e., school refusal, foreign children in Japan and at-risk youth.

NOTICE: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

・教育行政学の基本概念（法的概念および理論的背景に関する知識）の獲得

・教育行政学の基本概念を用いて現代的教育課題を分析する力の獲得

/ The goals of this course are to

1) obtain basic knowledge about school system and education policy in Japan, especially the legal concepts and theoretical debates.

2) be able to analyze the current educational issues based on correct understanding the legal concepts and theoretical debates about education policy.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

内容および進度予定は以下のとおりである。 / The contents and schedule are as shown below.

1. オリエンテーション

2. 憲法と教育基本法①～憲法における教育関連規定

3. 憲法と教育基本法②～1947年教育基本法と2006年教育基本法

4. 文部科学省と教育政策形成

5. 教育委員会制度

6. 公教育制度①～日本の学校制度

7. 公教育制度②～義務教育制度

8. 公教育制度③～学校選択と学校参加

9. 学校組織と学校経営

10. 教職員制度

11. 教員の免許・養成・研修／教員評価

12. 教育課程

13. 多様な人々への教育機会保障①～不登校の子どもたちとその支援

14. 多様な人々への教育機会保障②～外国人の子どもの教育機会保障

15. 若者支援と学校の取組

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席 30%、試験 70%。

/Your overall grade in the class will be decided based on the following:

-- Class attendance: 30%

-- Term-end examination: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

解説教育六法編修委員会 (2019) 『解説教育六法 2019 平成 31 年版』三省堂。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

講義内で配布した資料の読解とワークシートへの記入。 / Reading the handout and writing comments on worksheet.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

【使用言語】

日本語のみ。 / This course will be taught in Japanese.

【その他】

• E-mail: takego@sed.tohoku.ac.jp

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/13 11:32:21

科目名/Subject : スポーツ文化論講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時 総合研究棟 202 教室

担当教員/Instructor : 2020 鷺谷 洋輔

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

身体文化論

Physical Cultural Studies

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

身体をめぐる現状を紐解くキーワードには際限がない。それはスポーツや身体を多角的にとらえることの今日的な意義を示しているといえる。同時に、身体を多角的に問うことは、既知の身体や諸文化の実践について、角度を変えながら照射することに限られないことに留意したい。本講義は身体の社会学的な議論を軸に、身体なるもの、社会なるものの見え方を考えるだけでなく、その見方やとらえ方をあらためて問い返すことを目指す。

Examining how we can approach physical experiences is not limited to typical cultures we have already categorized. This course focuses on the sociological debate of the body, and seeks to highlight possible perspectives to reconsider physical experiences.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

身体、社会、文化を探究する視座を鍛える

Develop perspectives and understandings of the physical, social, and cultural body.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

講義内容は以下のテーマに即して進む。

The class is based on the key topics below.

1 - 4

交錯する文化 Culture at intersections

カテゴリーとしての類型 Categories and categorization

身体加工 Body modification

文明化 Process of civilization

5 - 8

身体技法 Techniques of the body

技法とわざ Techniques and skills

集団と個、他者と自己 The social/individual

エンボディメント Embodiment

9 - 11

言語記述化 Languages and Articulation

体感のアンビバレント Sensibilities

動きと言葉 Spatialization

内臓と体壁、オノマトペ Onomatopoeia

12 - 15

身体の見方と見え方 Recapturing the Body

イメージと身体 Images

自然の中の身体 Body with(in) nature

時間と身体 Duration

5. 成績評価方法/Evaluation method :

中間レポート (40%)、期末レポート (60%)

Midterm paper (40%), Final paper (60%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

課題文献の精読

Read the assigned materials.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/16 10:31:01

科目名/Subject : 教育社会学講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 福田 亘孝

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
教育社会学概論 (Sociology of Education)
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
本講義では、(1) 教育社会学の学問的性格、(2) 教育社会学の理論と方法の特質、について講述するとともに、(3) 教育社会学の各研究領域に即して概括的な説明をする。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
教育社会学という学問の特徴と研究の現状を理解し、社会学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。
4. **授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - 1 はじめに：社会学から教育を分析する
 - 2 メリット・クラシーの諸問題
 - 3 学歴と資格社会
 - 4 選抜機関としての学校
 - 5 教育におけるラベリング理論
 - 6 階級・言語・社会化
 - 7 人的資本と社会関係資本
 - 8 文化資本と教育達成
 - 9 日本の学校の社会学
 - 10 グローバル化と教育
 - 11 多文化主義と教育
 - 12 高等教育の拡大と変容
 - 13 教育社会学のパラダイム (1) : 1970 年代の展開
 - 14 教育社会学のパラダイム (2) : 1990 年代の展開
 - 15 教育社会学のパラダイム (3) : 2000 年代の展開
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
授業への参加度 (20%)、発表・課題 (30%)、定期試験 (50%)。
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
カラベル&ハルゼー (1980)『教育と社会変動』 東京大学出版会
ハルゼー (2005)『教育社会学：第三のソリューション』 九州大学出版会
ヒュー・ローダー (2012)『グローバル化・社会変動と教育』 東京大学出版会
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
★教科書、参考書、配布資料を理解し、授業の予習・復習をする
★必要に応じて Reading Assignment と Writing Assignment を課す
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
★予習・復習は必ずやり遂げてから授業に出席すること
★授業はマナーを守って受講すること。授業にとって迷惑になる場合は、退室を命じる
★授業計画は予定であり、実際の授業では予定が変更になる場合があります
★成績評価方法は目安であり、変更になる場合があります
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/14 14:55:34

科目名/Subject : 教育情報活用論

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 3 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 佐藤 克美, 渡部 信一, 小嶋 秀樹, 熊井 正之, 中島 平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育情報学入門

Introduction to educational informatics

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

ICT技術の進歩により、我々が扱うことのできる情報の量・質、そしてその扱い方が大きく変化してきている。教育の分野においても情報の扱いかたは大きく変わっている。本講義では、ICTを活用した教育情報の活用法について、5つの具体例をもとに紹介していく。また、実際にICTを活用した教育・学習を体験することでその活用の仕方についての理解を深める。またそれらをもとに、新しい教育情報学という学問の基礎を学ぶことを目的とする。

With the advancement of ICT technology, it has been changed significantly the quantity and quality of information that we can handle and how to handle it. As field of education, the handling of information has changed significantly. This cause will introduce how to use educational information using ICT based on five specific examples. In addition, students will deepen their understanding of how to use ICT by actually experiencing education and learning using ICT. Based on them, the purpose is to learn the basics of the new educational informatics.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育情報学の基本を理解する

教育情報の活用法の基礎について理解する

The purpose of this course is to help students better:

- ・Understand the basics of educational informatics
- ・Understand the basics of using educational information

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 イントロダクション

2 テクノロジーを活用して学ぶ方法 1

3 テクノロジーを活用して学ぶ方法 2

4 テクノロジーを活用して学ぶ方法 3

5 人間と情報テクノロジーの融和による新しい「学び」 1

6 人間と情報テクノロジーの融和による新しい「学び」 2

7 人間と情報テクノロジーの融和による新しい「学び」 3

8 アクセシブルデザイン入門 1

9 アクセシブルデザイン入門 2

10 アクセシブルデザイン入門 3

11 プログラミング的思考の育成とテクノロジー活用 1

12 プログラミング的思考の育成とテクノロジー活用 2

13 プログラミング的思考の育成とテクノロジー活用 3

14 AI時代の教育

15 まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

5回課す(予定)の課題と講義への参加態度、講義で作製した成果物等をもとに総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義時に紹介します

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業時間外にも課題への取り組み、また事前の調査が必要である。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

講義の順番は変更する可能性がある

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:30:34

科目名/Subject : 教育アセスメント論講義

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 有本 昌弘

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

21 世紀型コンピテンシーからみる「つながり」と「みきわめ」
 "Tsunagari" and "Mikiwame" from the perspective of the 21st century competency

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育アセスメントという学問は、近年成長が著しく、応用科学である教育学、教育心理学、特別支援教育、教育工学が交差する融合領域であり、教科教育のベースとなる親学問の認識論であるため、各学問分野を横断する。学際分野を切り拓くシステム思考とデザイン思考を核に、世界を見る 21 世紀型のコンピテンシーを取り上げ、共創的な対話や未来のありたい姿を描く対話、「ともに働くツール」をデジタルな世界から持ち込みながら、フィードバックと「学習する組織」づくりを進め、学習のイノベーションに関する示唆を得る。教育の来し方を振り返るとともに、近年の各国のカリキュラム改革の中で、生徒や学生の進路選択と関わり、教員の役割や研修が課題である。その動向、背景についてレビューするとともに、手法の、成果やプロセス、文脈に応じた国内での応用を図る。デジタルやテクノロジー関連組織や機関とのコラボも積極的に進める。

The academic terminology of "educational assessment" is a fusion area in which the growth is remarkable in recent years and that pedagogy, educational psychology, special education, educational technology intersects as applied science, and is the epistemology of various disciplines as the base of teaching subject or part curriculum across each academic field. With pioneering interdisciplinary fields with the system thinking and design thinking as the core, we take up the 21st century competency to see the world, dialogue that co-creative dialogue and a dialogue that depicts the future wishful appearance, "a tool to work with" from the digital world. While bringing in, we advance feedback and "learning organization" and get suggestions on learning innovation. In addition to looking back on the way of education, in the curriculum reform of each country in recent years, the course selection and involvement of students, the role of teachers and training are the subjects. To review the trends and background, and try to apply to adapt the methods according to the result, process and contexts. We will proactively promote collaboration with digital and technology organizations and institutions.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

学習者が、激変する今日の複雑な世界において、成長するしなやかなマインドセットをもって、チームをもとに対話できる知識とスキルを身につける。人間性や価値観、フィードバックによるメタラーニングを実感する足掛かりをえる。
 Learners gain knowledge and skills to interact with their team with a growing, flexible mindset in today's complex world with extreme change. Get a foothold to realize humanity, values, and meta-learning through feedback.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第 1 回 講義のアウトライン、これまでの学生のワークによるクライテリアの共有
- 第 2 回 「学ぶ」「遊ぶ」「働く」事象の「つながり」を読み解く引き出しとしての「20 の扉」
- 第 3 回 受験の後遺症とゆとり教育、PISA 調査の経緯、自己実現の理論
- 第 4 回 ミニパフォーマンス課題による文脈・プロセスの共有 (初回)
- 第 5 回 健康と安全 (環境)、雇用・労働・職業 (経済) と社会のプロセス・構造 (人工知能やグローバル他) の重なり
- 第 6 回 OECD 2030、政府・自治体政策における SDGs とシステム思考
- 第 7 回 パフォーマンス課題の共有と振り返り (中間)
- 第 8 回 自然現象、社会現象※とシステム思考からの「つながり」
- 第 9 回 学習と知覚から見た、教室プロセスの「つながり」
- 第 10 回 教育課程における教科・領域、課程外の「つながり」
- 第 11 回 個人の人格統合に向けた発達成長の「つながり」と改善
- 第 12 回 生徒と教職員など人との関係の「つながり」と絆、関係
- 第 13 回 「型」と社会的文脈の中の個人の「つながり」と気付き
- 第 14 回 日本の文化の諸刃の剣と、国際教育協力への活用
- 第 15 回 パフォーマンス課題の振り返り (最終回)

※宇宙、エネルギー、水、食糧、機械、生態、人体と健康と、社会経済等を、SDGs17 の目標と合わせ、カードゲームを実際に創り出すため、大学院の授業とは一旦切り離し、その後合流することを考える

5. 成績評価方法/Evaluation method :

無断欠席は 2 回までとする。パフォーマンス課題を複数回に分けたミニタスクによるレポート提出 (40%)、ルーブリック (採点指標) によるセルフ・ピアアセスメント (40%)、ポートフォリオの選択 (20%) とするが、これについては、意味のあるクライテリア (尺度や物差し) を受講生と探し、共有することに努める。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

安彦忠彦他編 (2012) 『よくわかる教育学原論』 ミネルヴァ書房

CCR (2015) 『21世紀の学習者と教育の4つの次元: 知識, スキル, 人間性, そしてメタ学習』 (翻訳 2016)

OECD (2005) 『形成的アセスメントと学力ー人格形成を目指して』 (有本監訳 2008) 明石書店

OECD (2008) 『スクールリーダーシップ』 (有本監訳 2009) 明石書店

OECD (2011) 『よくわかる持続可能な開発ー経済、社会、環境をリンクする』 (翻訳 2011) 明石書店

OECD (2)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

一連の講義の中で、数回の問いそして課題を設定するので、それに1回でも応えるように時間外の学習を仕組む。できれば、BYODによりTrelloを用いて文献(書籍と論文)を指定し、関連文献等を探し出し、時間外学習の課題レポート作成を、時間外学修をより深めるミニパフォーマンス課題により行う。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness ○ JICAベトナム派遣教育専門家、アフリカ・中南米(南アフリカ、ガーナ; ボリビア、ペルー) 派遣教員向け講義

9. その他/In addition :

映像を用いて具体的に展開する試みを行う。事情が許せば、個人保有の携帯用機器を教室に持ち込み、それを授業に使用することを示すBYOD(Bring your own device、ビーワイオーディ)を試みる。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 15:20:00

科目名/Subject : 教育行政学講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時 総合研究棟 202 教室

担当教員/Instructor : 2020 青木 栄一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育制度を支える教育行政

Politics of Education and Education System

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育行政、学校、教職員に関する法制度・歴史・実態を講義する。

This course introduce the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staffs.

それらに関する主要な論点を議論する。

The main issues will be discussed in this course.

さらに教育行政を理解するために必要な視点の一つである社会科学的な「もののみかた」の基礎を養うことも本授業の目的である。

Students are expected to learn how to discuss and think critically.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

教育行政組織、学校、教職員に関する法制度の基本的事項を理解する。

This course is designed to help students understand the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staffs.

教育行政組織、学校、教職員に関する論点について社会科学的に考察する力を身につける。

This course is designed to help students understand the main issues of the institution, history, and implementation of educational administration and schools, and teachers and staffs and discuss academically.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

内容及び進度は以下の通りであるが、内容を変更する場合もある。

The contents and schedule are as shown below, but subject to change.

講義とミニットペーパーを用いた質疑応答を中心とした授業とする。

This course is centered on a lecture and a questions and answers using the Minute Paper.

毎回、授業のテーマについてディスカッションを行う。

In every class, students discuss the issues of politics and education.

1. イントロダクションー教育政策、教育制度、教育行政
2. 教員行政
3. 就学前教育と幼稚園
4. 初等中等教育と学校
5. 高等教育・私立学校行政と学校
6. 特別支援教育と学校・学校外教育
7. 教育課程行政
8. 教育委員会と学校/学校と外部環境
9. 学校施設・学校統廃合
10. 学校安全
11. 地方教育政治/地方教育行政
12. 教育財政
13. 教育行政の政府間関係
14. 中央政府/教育制度の法体系と原理
15. まとめ/ (授業期間中) 授業内期末試験

5. 成績評価方法/Evaluation method :

教科書は各自購入すること。

Textbooks are available for purchase at Amazon.

試験 (100%)。

Test (100%)。

ミニットペーパー (Reaction paper) は 13 回課され、最低でも 10 回の期限内提出が必要である。さもなければ試験の受験資格を失う。

There are 13 weeks with reading assignments; students should post at least 10 reaction papers.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：青木栄一編（2019）『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房。

Textbook: Aoki, E. ed. (2019). Politics of Education and Education System. Minerva Shobo.

教科書：解説教育六法編修委員会（2020年）『解説教育六法2020』（令和2年版）三省堂。

Textbook: Kaisetsushouroppouhenshukai. (2020). Kaisetsushouroppou. Sanseido.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキスト等の授業当日の該当箇所を読み予習してくる。これは全受講生にとって極めて重要なことである。

Every student is required to prepare for the assigned part of the designated textbook, papers, and books for each class.

ミニットペーパーを投稿すること。締め切りは授業の前日月曜日の午前9時である。

Every student is required to write pa

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

授業中の各種 SNS への投稿行為等の不適切行為が判明次第、受講資格を喪失する。

Every student is strongly expected not to inappropriately post to SNS.

「教育行政学講義Ⅱ」と合わせての受講を推奨する。

Every student is expected to take class Educational Administration II.

担当教員ホームページ：<http://researchmap.jp/read0124718/>

See website of lecturer: <http://researchmap.jp/read0124718/>

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 22:59:18

科目名/Subject : 発達臨床論講義

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

青年心理学概論

Adolescent Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

青年期に関するさまざまな心理学的知見を学ぶとともに、青年期を生涯発達の一過程として位置づけることで、現代日本における「青年期」に対する理解を深める。

This course deals with

- 1) basic knowledge about Adolescent Psychology
- 2) defining Adolescence as the life-span developmental stage
- 3) relationships between adolescent development and contemporary Japanese society.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

青年心理学に関する基礎的な事項を理解し、現代日本における青年期の諸問題が歴史・時代的な社会変動の中で生じていることを考察する力を涵養する。

The goals of this course are to

- 1) understand basic knowledge about Adolescent Psychology
- 2) estimate current adolescent social problems under the social changes in contemporary Japanese society

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. 発達理論における青年期
2. 青年期の成立と伸長
3. 青年期の身体・運動発達
4. 青年期の認知と思考
5. 青年期の社会的認知
6. 自己と自我をめぐって
7. アイデンティティ・ステイタス
8. 青年期の対人関係の発達
9. 青年期のセクシャリティ
10. 青年期の恋愛行動とアイデンティティ
11. 戦後日本の社会変動
12. 現代青年の特徴とはなにか?
13. 戦後日本の「青年」の変遷
14. 成人期移行の問題とキャリア発達
15. まとめ：現代青年はどこへ行くのか

1. Adolescence in developmental theory
2. Formation and extension of adolescence
3. Physical and motor development in adolescence
4. Cognition and thinking in adolescence
5. Social cognition in adolescence
6. Self and Ego
7. Identity status
8. Development of interpersonal relationships in adolescence
9. Adolescent sexuality
10. Adolescent Romantic Behavior and Identity
11. Social Change in Post WWII Japan
12. What are the characteristics of modern adolescents in Japan?
13. The changing of Japanese adolescents after WWII
14. Issues of Transition into Adulthood and Career Development
15. Conclusion: Where are contemporary adolescents going?

5. 成績評価方法/Evaluation method :

毎講義時のコメント(30%)及び期末試験(70%)

Minute Papers: 30%, and Term-end examination: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

必要な資料はその都度配布する。参考書籍は、適宜講義時間内に紹介する。

Will be provided and introduced in the class or through ISTU.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

配布資料や紹介された書籍をもとに各自学習を進めてください。

Expected to proceed with your own study based on the handouts and books introduced.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

講義内容が青年期に関するものであることから、受講生自身にとっても身近なテーマが扱われる。そのため、受講生においては、自分の過去や現在の気にしていること、不安に思っていることなどが取り上げられることで、時には不快な思いをする可能性が指摘される。その点を予め了解の上、受講してください。

The content of this course is related to adolescence, and topics that are familiar to the participants themselves are treated. For this reason, students may feel uncomfortable when topics related to their past or present are taken up. Please take this course after accepting it.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : スポーツ文化論講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 4講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 佐久間 政広 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
近現代社会とスポーツ
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
この講義では、スポーツそれ自体を単独でとらえるのではなく、近現代社会のシステムのうちにスポーツを埋め戻して社会学の視点から考察をおこなう。次の二つを授業目的とする。①社会の変化とともにスポーツがいかに歴史的に変化してきたのかを明らかにするとともに、②現代日本の社会生活において、スポーツがいかなる意味を有しているのかを考察する。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
①近代スポーツの成立とその後の展開の概略を説明できる。
②近現代スポーツの特徴を資本主義社会という視点から大まかに説明できる。
③現代日本の社会生活においてスポーツが有している意味を自分なりに説明できる。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
授業は講義形式でおこなう。進度予定は以下。
 1. オリエンテーション
 2. 神事としての古代オリンピック
 3. イギリスにおける近代スポーツの誕生
 4. 近代オリンピックとナショナリズム
 5. 想像の共同体としての国民国家
 6. アメリカ社会とスポーツ
 7. 資本主義とはいかなるシステムか
 8. ビジネスとしてのスポーツ
 9. 近代日本の教育と体育
 10. 近代日本と運動会
 14. 現代日本人のライフスタイルとスポーツ
 12. 生活の視点からスポーツを考える
 13. 地域社会とスポーツ：その1
 14. 地域社会とスポーツ：その2
 15. まとめ
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
平常点 (毎回の授業で短い文章の提出を求める) 50%、レポート 50%
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
授業において適宜指示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
授業において適宜指示する。
8. **実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/02/20 13:50:03

科目名/Subject : 臨床心理学講義 I (臨床心理学概論)

曜日・講時/Day/Period : 後期 火曜日 5 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学概論 / Clinical Psychology

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学における代表的諸理論（精神分析、来談者中心療法、認知・行動療法、家族療法など）について改札する。また、それら代表的諸理論の日本への導入における東北大学の役割と貢献について補足する。 / In this subject, we will explain the major theories of clinical psychology (psychoanalysis, client-centered therapy, cognitive behavioral therapy, family therapy, etc.). In addition, we supplement the Tohoku University's role and contribution in introducing these major theories into Japan.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①臨床心理学が人間を理解し、援助することを志向した実践の学問であることを知り、人間のこころの固有性と可変性に対する柔軟な視点について理解を深めること。

②東北大学の歴史の一端を知り、臨床心理学の大きな流れに向けて興味が喚起されること。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ~ 2. 生物・心理・社会モデルと心理療法の効果的要因について

3. ~ 5. 力動的心理療法

6. 来談者中心療法

7. ~ 8. 認知・行動療法

9. ~ 10. システム理論とコミュニケーション理論

11. 家族療法のモデル

12. 解決志向短期療法

13. ナラティブセラピー

14. ~ 15. 事例の検討 /

1. ~ 2. Introduction to clinical psychology

3. ~ 5. Psychoanalysis

6. Client-centered therapy

7. ~ 8. Cognitive behavioral therapy

9. ~ 10. System theory and Communication theory

11. Family therapy

12. Solution focused brief therapy

13. Narrative therapy

14. ~ 15. Case study

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期間中、活動と複数のレポートによる。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

野島一彦・岡村達也 2018 第3巻『臨床心理学概論』 (遠見書房)

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、授業の際、資料を配布する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業 / Practical business

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:07:13

科目名/Subject : 公認心理師の職責

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 吉田 沙蘭

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

公認心理師の職責 / Professionalism of Licensed Psychologists

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理専門職の国家資格である公認心理師の職責について、以下の 8 点を中心にその基本的枠組を学ぶ。

- ① 公認心理師の役割
- ② 公認心理師の法的義務及び倫理
- ③ 心理に関する支援を要する者等の安全の確保
- ④ 情報の適切な取扱い
- ⑤ 保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の主要 5 分野における公認心理師の具体的な業務
- ⑥ 自己課題発見・解決能力
- ⑦ 生涯学習への準備
- ⑧ 多職種連携及び地域連携

To learn following basic professionalism of licensed psychologists.

1. Role of licensed psychologists.
2. Legal obligation of licensed psychologists.
3. Securing clients.
4. Handling of information.
5. Specific affairs of licensed psychologists in major 5 areas.
6. Ability to discover and solve one's own problem.
7. Preparation for lifelong learning.
8. Cooperation with other specialists and community.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ① 公認心理師の役割について理解する。
- ② 公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。
- ③ 心理に関する支援を要する者等の安全を最優先で確保し、常にその者中心の立場に立つ姿勢を身につける。
- ④ 守秘義務の重要性および、情報共有に関する問題について理解し、情報を適切に取扱うことができる姿勢を身につける。
- ⑤ 主要 5 分野における公認心理師の具体的な業務の内容について概説できる。
- ⑥ 自分の力で課題を発見し、自己学習によってそれを解決すべく、探究を進めるための能力を身につける。
- ⑦ 社会の変化を捉えながら、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲及び態度を身につける。
- ⑧ 多職種連携・地域連携による支援の意義について理解し、チームにおける公認心理師の役割について説明できる。

To understand 8 basic professionalism of licensed psychologists noted above.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 公認心理師の役割
3. 公認心理師の法的義務・倫理
4. クライアント/患者らの安全の確保のために
5. 情報の適切な取り扱いについて
6. 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
7. 福祉分野における公認心理師の具体的な業務
8. 教育分野における公認心理師の具体的な業務
9. 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務
10. 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務
11. 支援者としての自己課題発見・解決能力
12. 生涯学習への準備
13. 多職種連携・地域連携
14. 公認心理師の今後の展開
15. まとめ・期末試験

1. Orientation
2. Role of licensed psychologists

3. Legal obligation of licensed psychologists and ethics
 4. Securing clients
 5. Handling of information
 6. Specific affairs of licensed psychologists in medical and health area
 7. Specific affairs of licensed psychologists in social welfare area
 8. Specific affairs of licensed psychologists in educational area
 9. Specific affairs of licensed psychologists in forensics and criminology area
 10. Specific affairs of licensed psychologists in industry and work area
 11. Ability to discover and solve one's own problem as a therapist
 12. Preparation for lifelong learning
 13. Cooperation with other specialists and community
 14. Future development of licensed psychologists
 15. Review & Final exam
- 5. 成績評価方法/Evaluation method :**
期末試験 (100%)
Final exam (100%)
- 6. 教科書および参考書/Textbook and references :**
公認心理師の職責 (公認心理師の基礎と実践) : 野島一彦 (監修) 遠見書房 2018
- 7. 授業時間外学習/Preparation and Review :**
授業内でグループワークを行うため、事前に当該章を予習し、自らの疑問点を明らかにした上で授業に臨むこと。
This class includes group discussion. Students have to read the textbook and clarify question marks.
- 8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
- 9. その他/In addition :**
※ この授業科目は平成 30 年度以降入学者対象科目である
- 10. 更新日付/Last Update :**
2020/03/10 22:06:30

科目名/Subject : 人間形成史講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 八畝 友広

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人間形成と教育の歴史

History of human formation and education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人間形成と教育の成り立ちについて、1) 人間と認知的道具の関係、2) 近代化と学校教育による人間形成の変容、3) 教育と競争、4) 教育改革と人間形成の関係、などの視点から講ずる。これにより、人間形成と教育の現状について、マクロな視点から考察するための基礎とすることを目的とする。

This course introduces the history of human formation and education from the view point of the relation between human and cognitive artifacts, changing of human formation by modern schooling, education and competition, and educational reform and human formation.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①人間と認知的道具の関係について理解する。
- ②人間形成と「近代学校」との関係について理解する。
- ③教育と競争の関係について理解する。
- ④人間形成と教育の現代的な課題について考察できる。

The goals of this course are to

- (1) Understand the relation between human and cognitive artifacts
- (2) Understand the relation between human formation and modern schooling
- (3) Understand the relation between education and competition
- (4) Be able to consider the today's issues of human formation

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 マクロな視点から人間形成を考えるとということ
- 2 人間存在と教育
- 3 認知的人工物と教育
- 4 識字と人間
- 5 識字の歴史的展開
- 6 ノート・鉛筆・ガリ版の社会史
- 7 「教室」というテクノロジー
- 8 人間形成における近代
- 9 近代社会と規律訓練
- 10 近代学校と人間形成
- 11 競争と教育
- 12 一元的能力主義
- 13 ハイパーメリットクラシー
- 14 新自由主義と教育
- 15 「長い16世紀」から「長い21世紀」へ

1. Considering the human formation from a macroscopic perspective
2. Human and education
3. Cognitive artifacts and education
4. Literacy and human
5. History of literacy
6. Notebook, pencil, mimeograph
7. Class system in school
8. Human formation in the modern age
9. Discipline in the modern society
10. Modern schooling and human formation
11. Competition and education
12. Meritocracy in Japan
13. Hyper meritocracy

14. Neoliberalism and education

15. From the “long 16th century” to the “long 20th century”

5. 成績評価方法/Evaluation method :

小レポート20%+最終レポート80%

Short report 20%

Finale report 80%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特定の教科書は指定しない。

参考図書を、授業時間中に適宜紹介する。

No text book

Reference books will be introduced in the lecture

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業内容をふまえた小レポート・最終レポートの作成にむけ、授業外学習の素材・方法等について、授業時間中に適宜指示する。

Students need to prepare for short report and finale report

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 10:03:39

科目名/Subject : 教育社会学講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 水曜日 2講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 島 一則

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育経済学概論 Introduction to Economics of Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本講義では、日本においては教育社会学の一領域・境界領域としても扱われてきた①教育経済学の学問的性格、②その理論と方法の特質について講述したのち、③教育経済学の各研究領域に即して概括的な説明をし、教育がどのような経済・社会的効果を有しているのか、そして教育の意義について考究する。

In this lecture, students will learn: ① the academic character of economics of education, ② the characteristics of its theory and method, and ③ each research in economics of education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

受講学生は、専門的知識・技能という観点からは、教育経済学という学問の特徴と研究の現状を理解し、経済学の視点から教育に関わる研究課題をみずから設定できる力量を身に付ける。また、汎用的技能・態度志向性という観点からは、コミュニケーションスキル・数量的スキル・論理的思考力・自己管理力・批判的思考力、生涯学習力の必要性についての認識を深め、これらの能力を向上させる。

Students will understand the characteristics of the discipline of economics of education from the perspective of specialized knowledge and skills, and will acquire the ability to set research topics related to economics of education.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1・2回：教育経済学の誕生 (The Birth of Economics of Education)
- 2・3回：教育経済学の基礎概念と方法 (Basic Concepts and Methods of Economics of Educational)
- 4・5回：人的資本論 (Human Capital Theory)
- 6・7回：シグナリング論 (Signaling Theory)
- 8・9回：教育の投資収益率分析 (ROI Analysis of Education)
- 10・11回：教育の生産関数分析 (Educational Production Function Analysis)
- 12回：教育と経済発展 (Education and Economic Development)
- 13回：教育と健康 (Education and Health)
- 14回：教育と市民的関与 (Education and Civil Involvement)
- 15回：教育と幸福 (Education and Happiness)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業各回ごとの小テスト (50%)・最終レポート (50%) による。ただし、出席状況によっては受験資格を喪失する。

Quiz (50%)/Final Report (50%)

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書：特になし

参考書：島一則 (2011)『大学とマネー 経済と財政』玉川大学出版部

Textbook: Nothings special

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については授業内容や関連文献に基づいて具体的内容を指示する。

For the preparation and review, specific contents will be instructed in the class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

授業中の発言など積極的な関与を求める。

Ask for active involvement, such as remarks during class.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/09 19:06:00

科目名/Subject : 心理検査法 (心理的アセスメント)

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 加藤 道代, 野口 和人, 川崎 聡大, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

心理検査法の基礎

Basics of psychological assessment

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理検査の理論と実際について基礎的な知識を身につける。

This class aims to acquire basic knowledge about the theory and practice of psychological assessment.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①心理検査の歴史や目的、および代表的な検査法などの基本的な知識を習得する。

②検査法により得られた資料の整理や解釈の基本を理解する。

③心理検査法を施行するにあたり必要とされる倫理について理解する。

Participants will

1)acquire basic knowledge such as the history and purpose of psychological assessment, and representative methods.

2)understand the fundamentals of arrangement and interpretation of the data obtained by assessments.

3)understand the ethics necessary for conducting the psychological assessment .

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション
2. 心理検査法概説
3. 心理検査の信頼性と妥当性
4. 人格検査法(1)
5. 人格検査法(2)
6. 人格検査法(3)
7. 人格検査法(4)
8. 知能検査法(1)
9. 知能検査法(2)
10. 教育心理学と検査法(1)
11. 教育心理学と検査法(2)
12. 症状評価尺度、検査の倫理(1)
13. 生理検査法、検査の倫理(2)
14. 発達検査法(1)
15. 発達検査法(2)

1. Orientation
2. Outline of psychological assessment
3. Reliability and validity of psychological test
4. Observation method
5. Personality assessment 1
6. Personality assessment 2
7. Personality assessment 3
8. IQ test 1
9. IQ test 2
10. Psychological Assessment in Educational Psychology 1
11. Psychological Assessment in Educational Psychology 2
12. Symptom assessment, Ethics in Assessment 1
13. Physiological assessment, Ethics in Assessment 2
14. Developmental test 1
15. Developmental test 2

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加状況、レポート等について総合的に評価する。

Comprehensive evaluation by attendance attitude and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

担当教員ごとに教室内で指示する。

Each professor instructs homework in the classroom.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

授業の中で、質問紙調査法を中心とする被験者体験も行う予定である。

In this lesson, we plan to give the subjects' experience using a questionnaire survey method.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/14 17:07:33

科目名/Subject : 教育調査法

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 李 仁子

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育学におけるフィールドワーク入門

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

実証科学の方法の一つであるフィールドワークは、多様な場面で活用できる便利かつ優秀な調査研究ツールである。教育研究の手法としてはもちろんのこと、各自のプライベートにおいても、社会人としての仕事においても、さまざまに応用が利く。しかし、そのやり方はただ講義を聞くだけでは習得することが難しい。そこで、この授業では、フィールドワークの基本を学びながら自らも現場で体験してみるにより、自分で実際に使えるツールとして身につけることを目指す。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

フィールドワークの基本を学び、その初歩的な実践を体験することを通して、各自の研究や活動において質的な調査研究を行う必要が生まれたときに、余裕をもった対応がとれるようになることを目標とする。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業では、まず調査研究法に関する基本文献を受講者全員で読みながら自由なグループディスカッションを行い、理解を深める。その後、フィールドワークの実践に向けて具体的な手順や方法を学習する。その上で、各自の興味関心に基づいて自由に選択したフィールドにおもむき、座学で得た調査研究の基本を活かしながら、参与観察やインタビューなどを行う。授業の最後には全受講生による成果報告会を開き、討議と相互評価を行う。

1) オリエンテーション 2) 文化人類学的フィールドワーク入門① 3) 文化人類学的フィールドワーク入門② 4) 文化人類学的フィールドワーク入門③ 5) 参与観察の注意点 6) 聞き取り調査の注意点 7) フィールドノートの書き方・使い方 8) 記録の取り方・残し方 9) 資料の収集整理法 10) フィールドワークのテーマを設定 11) フィールドワーク計画書を作成 12) フィールドワーク実習① 13) フィールドワーク実習② 14) 調査データの整理と分析 15) フィールドワーク成果報告会

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業でのディスカッションへの積極的参加 (30%) や、調査成果の発表およびレポートなど (70%) を総合的に判断する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

李仁子・金谷美和・佐藤知久『はじまりとしてのフィールドワーク：自分がひらく、世界が変わる』昭和堂、2008

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

実際の現地調査 (フィールドワーク) 実施

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

ディスカッションにもフィールドワークにも自発的かつ積極的に参加する、意欲的な学生の受講を望む。自分が踏み込んだ分だけ世界が広がる体験は、そうした者にしか味わえないものだから。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/08 22:47:01

科目名/Subject : 発達障害学講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

言語障害・コミュニケーション障害・発達障害の評価と支援

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語モダリティーの発達やその心的プロセスについて学び、ディスレクシアをはじめとする当該領域の障害に対する教育的アセスメント方法についても併せて学びます

3. 学習の到達目標/Goal of study :

本講義の到達目標は次の通りである①「読み」「書き」「聞く」「話す」の心的プロセスについて代表的なモデルを基に習熟を深める②①を基に読み書き障害や特異的言語障害などの障害機序について知る③それぞれのアセスメント法について知る。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. イントロダクション*講義全般の内容について概説する。
2. Dyslexia と SLI とは① 定義と変遷
3. Dyslexia と SLI とは② 病理及び疫学
4. 「学業不振」と「学習障害」
5. 「読み」の認知プロセスとその障害
6. 「書き」の認知プロセスとその障害
7. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害①
8. 「聞く」「話す」の認知プロセスとその障害②
9. 「読み」「書き」の認知神経心理学的評価 (アセスメント)
10. 「聞く」「話す」の認知神経心理学的評価 (アセスメント)
11. コミュニケーションの障害とその背景①
12. コミュニケーションの障害とその背景②
13. 学習障害と学習意欲、二次障害等について
14. 注意とその障害*学習の観点から
15. まとめ

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 40%, term-end examination 60%.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

発達神経心理並びに心理検査法に関する項目を予習並びに復習しておくことが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 13:06:09

科目名/Subject : 統計的学習論講義

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 2講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

機械学習入門

Introduction to Machine Learning

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

古典的機械学習および深層学習について、基本的な概念と手法について学ぶ

The course introduces basic concepts and techniques about classical machine learning and deep learning.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 線形モデルに関する基本的な概念と手法を理解する
2. データクラスタリングの基本的なアルゴリズムを理解する
3. ニューラルネットワークの学習原理と典型的なネットワーク構造について理解する

The goals of this course are to:

1. understand the basic concepts and techniques of linear models,
2. understand the basic algorithms of data clustering, and
3. understand the deep learning fundamentals.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 導入

第2回 数学的準備：集合・関数・線形代数・確率・微分

第3回 線形モデル入門 パーセプトロン

第4回 線形モデル 学習と評価

第5回 線形モデル 解析の具体例

第6回 クラスタリング

第7回 ニューラルネットワークと深層学習

第8回 表現学習：単語埋め込みベクトル

第9回 アンケートに基づく復習回

第10回 再帰ネットワーク

第11回 深層学習：解析の具体例

第12回 畳み込みネットワーク

第13回 エンコーダ・デコーダ

第14回 過学習と予測性能・正則化

第15回 深層学習と強化学習

Lecture 1 Introduction

Lecture 2 Math Prerequisites: Set, Function, Linear Algebra, Calculus

Lecture 3 Introduction to Linear Models: Perceptron

Lecture 4 Linear Models: Training and Evaluation

Lecture 5 Linear Models: Modeling Example

Lecture 6 Clustering

Lecture 7 Neural Network and Deep Learning

Lecture 8 Representation Learning: Word Embedding Vector

Lecture 9 Review Session based on Questionnaire

Lecture 10 Recurrent Neural Networks

Lecture 11 Deep Learning: Modeling Example

Lecture 12 Convolutional Neural Networks

Lecture 13 Encoder-Decoder

Lecture 14 Overfitting and Prediction Performance / Parameter Regularization

Lecture 15 Deep Learning and Reinforcement Learning

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席および授業態度 (50%) と適宜 (3~4回) 出題するレポート課題 (50%) により評価する。

- 50% for attendance and attitude
- 50% for assignments

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

講義毎に適宜資料を配布する。

[参考書] (購入は必須ではありません)

Materials will be distributed as needed for each lecture.

[Reference book] (Purchase is not required)

Ian Goodfellow, Yoshua Bengio and Aaron Courville. Deep Learning. The MIT Press, 2016.

高村大也 著, 奥村学 監修, 言語処理のた

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

適宜 (3~4回) 出題するレポート課題の提出を求める。

You need to submit three to four assignments.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

線形代数、確率統計の基礎的な知識を身につけておくことが望ましい。

Students are expected to be comfortable with basics of probability theory and statistics, as well as linear algebra.

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

This course is for students enrolled after the 2018 academic year.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 19:23:15

科目名/Subject : 教育情報デザイン論講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時 総合研究棟 203 演習室

担当教員/Instructor : 2020 小嶋 秀樹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

未来の教育・療育に向けた人間科学と認知工学の多様な接続の探究

Explorative integration of human sciences and cognitive engineering for designing future education and therapy

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

未来の教育・療育を創出するには、人間の身体・脳・認知に関して、認知工学的な視点から理解するスタンスが求められる。この要請に対して学際的なアプローチをとる本講義は、人間に関する諸科学（脳科学・認知心理学・発達心理学・進化心理学など）を縦糸とし、担当教員が専門とする認知発達ロボティクスという工学的な視点を横糸として、それらが織りなす重層的な人間理解を解説していく。また、講義の後半では、このような学際的なアプローチの一例として、担当教員による一連の研究（ロボットを活用した自閉症療育支援）について詳説し、卒業研究など今後の学修や研究に向けた見通し・動機づけを与える。

To produce future education and therapy, students are required to cultivate a deep understanding of the human body, brain, and cognition from the viewpoint of cognitive engineering. In this interdisciplinary course of lectures, students learn to weave an integrated understanding of human nature from topics of cognitive developmental robotics research and the human sciences such as brain science, cognitive psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology. In the final part of the course, students examine research on using robots for autism therapy that was done by the lecturer. Through these activities, students are expected to be able to foresee their future studies and research on the field.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・教育・養育の分野に関する人間の認知特性を工学的な視点から理解できる。
- ・未来の教育・療育の形をデザインし、技術的な実現可能性やその教育・療育における効果等について検討し、説明・表現することができる。
- ・人間理解とテクノロジーをつなげ、その後の学修・研究に向けた動機づけや、教育・療育における実践的な手法・教材等の開発に向けた見通しを持つことができる。
- ・To be able to understand the fundamentals of human cognitive nature for future education and therapy from the viewpoint of cognitive engineering.
- ・To be able to design future forms of education and therapy, and to explain the expected effects of their technical feasibility and expected effects.
- ・To be able to have the perspective for producing innovative education and therapy in their future study and research.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回：イントロダクション：人間科学と認知工学
- 第2回：身体性認知科学：環世界とアフォーダンス
- 第3回：脳科学概論：脳の構造と機能
- 第4回：認知発達理論の諸相（1） 個体学習から社会的学習へ
- 第5回：認知発達理論の諸相（2） 活動理論とナチュラルペダゴジー
- 第6回：コミュニケーション発達（1） 共同注意
- 第7回：コミュニケーション発達（2） 心の理論
- 第8回：模倣と言語の発達（1） 行為と意図の模倣
- 第9回：模倣と言語の発達（2） シンボルと文法の獲得
- 第10回：模倣と言語の発達（3） 文化の創造と継承
- 第11回：ロボットによる自閉症療育：ケーススタディー
- 第12回：ICTによる自閉症療育
- 第13回：自閉症研究の諸相
- 第14回：自閉症の脳科学
- 第15回：まとめ：人間科学と認知工学の融合に向けて
定期試験（レポート）

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業時間内で随時行う小レポート（計 50%）と最終レポート「私は人間をこのように理解する」（50%）を総合して評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

- エドワード・リード「アフォーダンスの心理学」新曜社
- 河野哲也「環境に広がる心」勁草書房
- 高橋宏知「メカ屋のための脳科学入門」日刊工業新聞社

遠藤利彦編「読む目・読まれる目」東京大学出版会

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

第2回目以降では、事前に前回の講義について自主的に復習しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

※ この授業科目は平成30年度以降入学者対象科目である

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 09:02:52

科目名/Subject : 比較教育システム論講義

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 井本 佳宏

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

比較教育学概論/Introduction to Comparative Education

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

本授業では、比較教育学の歴史、理論および方法について概説するとともに、今日の教育をめぐる国際的なイシューを取りあげ、比較の視点から検討を行うことで、比較教育学の強み・弱みの両面にわたってその学問的特質についての理解を深めていく。/The aim of this course is to help students develop their skill in looking at education from a comparative perspective. This course introduces the foundations of history, theories and methods of comparative education study. Some issues of education are also discussed from the comparative perspective.
Notice: This course will be taught in Japanese.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

1. 比較教育学の学問的特質について理解する。
2. 教育のあり方の多様性を理解する。
3. 教育を比較という視点から考察するセンスを身につける。

/The goals of this course are to

- understand the characteristics of comparative education as a discipline,
- understand the diversity of education,
- acquire the sense to consider education from the viewpoint of comparison.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 第1回 オリエンテーション/Orientation
- 第2回 比較教育学の歴史/History of comparative education
- 第3回 比較教育学の理論と方法/Theories and methods in comparative education
- 第4回 インクルーシブ教育(1)課題の把握/Inclusive education 1
- 第5回 インクルーシブ教育(2)比較考察/Inclusive education 2
- 第6回 宗教と教育(1)課題の把握/Religion and education
- 第7回 宗教と教育(2)比較考察/Religion and education
- 第8回 エリート教育(1)課題の把握/Elite education 1
- 第9回 エリート教育(2)比較考察/Elite education 2
- 第10回 国際教育開発(1)課題の把握/International education development 1
- 第11回 国際教育開発(2)比較考察/International education development 2
- 第12回 国際学力調査(1)課題の把握/International academic achievement survey 1
- 第13回 国際学力調査(2)比較考察/International academic achievement survey 2
- 第14回 比較教育学の課題と可能性/Challenges and possibilities of comparative education
- 第15回 全体のまとめと補足/ Review, reflection, and course evaluation

5. 成績評価方法/Evaluation method :

1. 毎回記入・提出するミニットペーパー (30%)。
2. 期末レポート (70%)。

/Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- Class attendance and attitude in class (minute paper): 30%
- Final paper: 70%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

○教科書/Text book

特定の教科書を使用することはありません。

○参考書/Reference book

- ・長島啓記編著『基礎から学ぶ比較教育学』学文社、2014年。
- ・山田肖子・森下稔編『比較教育学の地平を拓く—多様な学問観と知の共働』東信堂、2013年。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業で扱ったテーマに関連する書籍の読書等を通じて、主体的に比較教育学についての認識・思考を深めていくこと。

/The students are expected to read the books related to each lecture.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

オフィスアワー 火曜日 13:00~15:00

／Office Hour: 13:00-15:00, Every Tuesday

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 16:31:24

科目名/Subject : 成人教育論講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 3 講時 文学部第 2 講義室

担当教員/Instructor : 2020 石井山 竜平

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. **授業題目/Class subject :**
生涯学習と地域社会教育
2. **授業の目的と概要/Object and Summary of Class :**
成人教育とそれを支える公的条件をめぐる基本理念と、それをめぐる今日的課題についての理解を深める。
3. **学習の到達目標/Goal of study :**
現代では、学校教育に限定されない教育への世間的な認知は一定程度広がっている。しかし、そうした領域を指す、たとえば、「生涯学習」「社会教育」などの概念が普及したのは 20 世紀、とりわけその後半からのことであり、人類史からすれば、ごく最近のことであるという。このことが持つ意味とは何なのだろうか。そして今、地域における学習にはいかなる展開がみられるのだろうか。
この講義では、今日の地域学習の諸相を手がかりに、私たちが生きている現代社会の課題をとらえ返しつつ、これからの時代における地域生涯学習の在り方について考察する。
4. **授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :**
 - ・成熟社会における生活課題と、その解決を目指す学習実践の実際
 - ・社会教育・生涯学習を支える理念と法制、国際的動向
 - ・社会教育・生涯学習の制度と地方分権改革
 - ・社会教育・生涯学習の提供主体の多元化
 - ・変革の時代をきりひらく学びと自治の創造
 - ・東日本大震災と社会教育、など。
5. **成績評価方法/Evaluation method :**
小レポート (約 3 回)、および学期末レポートによる総合評価
6. **教科書および参考書/Textbook and references :**
社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第 9 版』(エイデル研究所、2017) など。その他、授業中に指示する。
7. **授業時間外学習/Preparation and Review :**
8. **実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。**
/Note: "○" Indicates the practical business
9. **その他/In addition :**
10. **更新日付/Last Update :**
2020/03/22 13:42:29

科目名/Subject : 発達障害学演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 4 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 川崎 聡大

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

発達障害研究法基礎

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

主に発達障害や関連する症候を対象とする研究について研究の目的や方法、研究計画全般に必要な知識について習熟を深める。

The main purpose of this class is to learn research methods for developmental disorders.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

卒業研究に必須となる知識と技量（先行研究の検索、研究計画法他）に習熟する。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

授業目的に沿って先行研究や文献のレビューやケースレポート、各自興味のある領域について発表、報告を行う。各自の興味のある専門領域についてそれぞれの立場から討論を深める。1回目で概要を定め15回を受講者で分担する

5. 成績評価方法/Evaluation method :

Grading will be decided based on attendance and reports.

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の発表内容並びに関連領域について適宜習熟を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/17 16:02:29

科目名/Subject : 発達障害学講義Ⅲ (障害者・障害児心理学)

曜日・講時/Day/Period : 後期 木曜日 5講時 総合研究棟206教室

担当教員/Instructor : 2020 野口 和人

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

障害の理解と心理・教育的支援

Understanding of disabilities and psychological/educational supports

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

障害に関わる法制度、療育・教育制度、診断基準、心理・教育的支援について講述するとともに、発達障害のある子どもたちへの心理・教育的支援における課題を論じる。

In this lecture, the laws, nursing and education system, diagnostic criteria, psychological and educational supports related to disabilities are introduced, and also the issues in psychological and educational supports for children with developmental disabilities are discussed.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

①障害に関わる法制度、療育・教育制度、診断基準、心理・教育的支援について学ぶ。

②発達障害学について多角的に理解する。

After taking this lecture, you should be able to :

①Describe the laws, nursing and education system, diagnostic criteria, psychological and educational supports related to disabilities.

②Explain from various viewpoints some psychological and educational supports for the children with developmental disabilities.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション (公認心理師に求められる、障害に関する基礎知識について)
2. 障害者の権利に関する条約、障害者基本法等
3. 国際障害分類 (ICD11)、国際生活機能分類 (ICF) 等
4. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律等
5. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律、発達障害者支援法等
6. 国際疾病分類 (ICD)、精神疾患の診断と統計マニュアル (DSM)、AAIDD によるマニュアル
7. 障害のある幼児への支援システム、教育基本法及び学校教育法と特別支援教育
8. アセスメントの視点と方法
9. 主な心理・教育的支援①
10. 主な心理・教育的支援②
11. 発達障害について、事例に基づき理解する①
12. 発達障害について、事例に基づき理解する②
13. 発達障害について、事例に基づき理解する③
14. ニューロ・ダイバーシティ
15. まとめ

1. Orientation (basic knowledge on disabilities required of Licensed public psychologists)
2. Convention on the Rights of Persons with Disabilities, Basic Act for Persons with Disabilities, etc.
3. International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps (ICD11), International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF), etc.
4. Act for the welfare of Persons with Physical Disabilities, Act for the welfare of persons with intellectual disabilities, Act on Mental Health and Welfare for the Mentally Disabled.
5. Act on the Comprehensive Support for the Daily and Social Life of Persons with Disabilities, Support Law for People with Developmental Disorders.
6. International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems (ICD), Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (DSM), Intellectual Disability: Definition, Classification, and Systems of Support.
7. Support systems for infants with disabilities, Basic Act on Education and School Education Act and special support education
8. Perspectives and methods of assessment
9. Some Major psychological and educational supports①
10. Some Major psychological and educational supports②

11. Understanding developmental disabilities (case study)①
12. Understanding developmental disabilities (case study)②
13. Understanding developmental disabilities (case study)③
14. Neurodiversity
15. Conclusion

5. 成績評価方法/Evaluation method :

平常点 (50%) 及びレポート (50%) により総合的に評価する。

Comprehensive evaluation will be made based on class performance (50%) and report (50%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

特に指定しない。必要な資料は授業の際に配付する。

Not specified. Necessary materials will be distributed during class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

毎回の授業において指示する。

Learning tasks will be indicated in the class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

特になし。

None.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/06 19:02:18

科目名/Subject : 人体の構造と機能及び疾病

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 1 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 上埜 高志 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

人体の構造と機能及び疾病 human body structure, function and diseases

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

人体の構造と機能の概要を理解するとともに、各種疾病や障害等を学ぶ。

The aim of this course is to help students acquire an understanding of human body structure, function and diseases.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

人体の構造と機能および各種疾病や障害等に関する基礎的な知識を習得する。

The goal of this course is to understand human body structure, function and diseases

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1. オリエンテーション、健康と病気、主要な症候 Introduction, health and illness, clinical symptoms

2. 人体の構造と機能(1) human body structure and function (1)

3. 人体の構造と機能(2) human body structure and function (2)

4. 周産期・周生期、小児の成長と発達 perinatal period, child growth and development

5. 加齢、終末期ケア、リハビリテーション aging, terminal care, rehabilitation

6. 診断と治療、移植医療・再生医療、臨床検査 diagnosis and treatment, transplant and regenerative medicine, clinical test

7. 循環器疾患、呼吸器疾患、生活習慣病 cardiovascular disease, respiratory disease, lifestyle diseases

8. 消化器疾患、肝胆膵疾患、腎泌尿器疾患 digestive disorders, hepatobiliary pancreatic disease, renal urological disorders

9. 内分泌代謝疾患、免疫疾患、血液疾患 endocrine metabolic disorders, immune disease, blood disease

10. 神経疾患、精神疾患、整形外科疾患 neurology, psychiatry, orthopaedics

11. 小児疾患、先天性疾患、遺伝性疾患、産婦人科疾患 pediatrics, congenital disease, hereditary diseases, obstetrics and gynecology

12. 眼科疾患、耳鼻咽喉科疾患、皮膚科疾患、睡眠障害 ophthalmology, otolaryngology, dermatology, sleep disorders

13. がん、難病、感染症、医療安全 cancer, intractable disease, infection, medical safety

14. 討論「緩和ケアについて」(レポートのテーマ) Discussion "Palliative Care"

15. 総括、筆記試験(英語を含む) Examination

5. 成績評価方法/Evaluation method :

筆記試験(40%)、レポート(40%)および平常点(20%)による総合的な評価。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

とくに教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。

授業中に適宜、紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

予習・復習については、その都度、指示する。課題のレポートについては、討論時に指示する。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

次年度、開講する。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/21 16:48:11

科目名/Subject : 関係行政論

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 1 講時 総合研究棟 306 教室

担当教員/Instructor : 2020 前田 駿太, 長友 周悟

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

関係行政論 / Legal and Administrative Systems

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

心理学的支援に関係する法律・制度の基本について学ぶ。 / This course provides students with basic knowledge of legal and administrative systems related to psychological support.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野における心理学的支援に関係する法律・制度の概要について理解する。 / To acquire knowledge of legal and administrative systems related to psychological support in each professional area (medical & health, social welfare, education, forensics & criminology, and industry & work).

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回 オリエンテーション、法律・制度の基本と公認心理師

第2回 公認心理師の法的立場と多職種連携

第3回 公認心理師の各分野への展開

第4回 保健医療分野に関連する法律・制度 (1) : 保健医療全般

第5回 保健医療分野に関連する法律・制度 (2) : 精神科医療

第6回 保健医療分野に関連する法律・制度 (3) : 地域保健・医療

第7回 福祉分野に関連する法律・制度 (1) : 児童福祉、高齢者福祉

第8回 福祉分野に関連する法律・制度 (2) : 障害児・障害者福祉

第9回 教育分野に関連する法律・制度

第10回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度 (1) : 家事

第11回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度 (2) : 刑事

第12回 司法・犯罪分野に関連する法律・制度 (3) : 少年非行

第13回 産業・労働分野に関連する法律・制度

第14回 各分野に横断して関係する法律・制度、最近のトピック

第15回 筆記試験

#1 Orientation

#2 Legal status of Certified Public Psychologist and multi-professional collaboration

#3 Activities of Certified Public Psychologist in each professional area

#4 Legal and administrative systems related to medical & health area (1)

#5 Legal and administrative systems related to medical & health area (2)

#6 Legal and administrative systems related to medical & health area (3)

#7 Legal and administrative systems related to social welfare area (1)

#8 Legal and administrative systems related to social welfare area (2)

#9 Legal and administrative systems related to education area (1)

#10 Legal and administrative systems related to forensics & criminology area (1)

#11 Legal and administrative systems related to forensics & criminology area (2)

#12 Legal and administrative systems related to forensics & criminology area (3)

#13 Legal and administrative systems related to industry & work area

#14 Recent topics of legal and administrative systems related to psychological support

#15 Exam

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (保健医療分野) 50%、筆記試験 50% / Essay 50%, Exam 50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

元永拓郎 (編) : 関係行政論. 遠見書房、2018.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

授業終了後の復習に取り組むことが期待される。 / Students are expected to review for each class.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

公認心理師試験を受験するために必要な科目である。

この科目は平成30年以降入学者対象科目である。

10. **更新日付/Last Update :**

2020/03/03 15:34:44

科目名/Subject : 教育学研究入門

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 神谷 哲司, 島 一則, 野口 和人, 小嶋 秀樹, 柴山 直, 李 仁子, 松林 優一郎

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育諸研究への誘い

Introduction to Educational Research

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業科目では、教育の諸研究について、その内容及び研究方法の基本的な知識を得ることを目的とする。本学部の担当教員が、それぞれ専門領域においてどのような課題に対してどのような研究方法でアプローチしてきたのか、またそこで何が解明されてきたのか、今日いかなる研究が行われているのか、等について概説する。加えて、大学院生による研究発表を通じて、教育の各専門領域における卒業研究等について紹介する。

The aim of this course is to obtain the basic knowledge about various research fields in education and their research methodologies. The instructors outline the approaches taken, the facts revealed, and recent research topics in the literature. In addition, graduated students make presentations about their own research areas in order to introduce the specialized fields in education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1 教育を捉えるための多様かつ基本的な視点を獲得する。
- 2 教育に関する多様な視点を踏まえた議論ができるようになる。

At the end of the course, participants are expected to:

- understand basic and diverse perspectives for considering educational issues, and
- be able to discuss things from such various perspectives regarding education.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 教育学研究入門：幅広い教育学の世界(1)
- 2 教育学研究入門：幅広い教育学の世界(2)
- 3 教育学研究入門：「教育学」の研究紹介
- 4 文化人類学的アプローチ入門：教育学の文化人類学的アプローチ入門
- 5 文化人類学的アプローチ入門：フィールドワークという方法
- 6 文化人類学的アプローチ入門：研究の実例
- 7 教育心理学研究入門(1)：心理学的に考えるとはどういうことか
- 8 教育心理学研究入門(2)：心理学の諸領域と教育心理学
- 9 教育心理学研究入門(3)：「教授学習心理学」, 「発達心理学」領域の研究紹介
- 10 教育心理学研究入門(4)：「発達障害学」領域の研究紹介
- 11 教育心理学研究入門(5)：「臨床心理学」領域の研究紹介
- 12 教育心理学研究入門(6)：人に関わる研究と研究倫理
- 13 教育情報アセスメント研究法(1)：データサイエンス分野の研究紹介
- 14 教育情報アセスメント研究法(2)：自然言語処理分野の研究紹介
- 15 教育情報アセスメント研究法(3)：メディア工学分野の研究紹介

(講義の内容や担当順は変更される可能性もある)

- 1 Introduction to Pedagogy:(1) A Wide Range of Pedagogy
- 2 Introduction to Pedagogy:(2) A Wide Range of Pedagogy
- 3 Introduction to Pedagogy:(3) Examples of Research in Pedagogy
- 4 Introduction into Cultural Anthropological approach: Introduction into Cultural Anthropological approach to Pedagogy
- 5 Introduction into Cultural Anthropological approach: Method called Fieldwork
- 6 Introduction into Cultural Anthropological approach: Examples of research
- 7 Introduction into Educational Psychology (1): How and what should we think psychologically?
- 8 Introduction into Educational Psychology (2): Areas of Psychology and Educational Psychology
- 9 Introduction into Educational Psychology (3): Examples of Research in " Psychology in Teaching and Learning", and "Developmental Psychology"
- 10 Introduction to educational psychology (4): Introduction to research in the field of "Developmental

Disorders”

- 11 Introduction to educational psychology (5): Introduction to research in the field of “Clinical Psychology”
- 12 Introduction to educational psychology (6): Research on human and ethics to be followed by those conducting human research
- 13 Educational informatics and innovative assessment research methods (1): Introduction to data science for education
- 14 Educational informatics and innovative assessment research methods (2): Introduction to natural language processing
- 15 Educational informatics and innovative assessment research methods (3): Introduction to media technologies for education

(Lecture contents and the order may be slightly changed.)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

原則として、出席状況（15%程度）および筆記試験やレポート（85%程度）により評価する。具体的な評価方法は、各担当教員の指示に従うこと。

As a general rule, the evaluation will be based on class attendance and attitude (about 15%) and written exams and reports (about 85%). For specific evaluation methods, follow the

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は用いず、適宜プリントを配布する。

Handouts will be provided in each lecture.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各担当教員の指示による。

Assignments will be arranged by each instructor.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: “○”Indicates the practical business

9. その他/In addition :

授業の進め方は担当教員によって異なる。授業に臨むにあたっての事前準備など授業の運営方法に関しては、初回のオリエンテーションでの指示を確認すること。

The ways of conducting lectures including necessity of preparations for the lectures vary depending on the instructors. Follow the instructions at the orientation in the first lecture.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/13 17:41:54

科目名/Subject : 教育心理学講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 2講時 総合研究棟306教室

担当教員/Instructor : 2020 工藤 与志文

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

知識システムの教授学習心理学

Psychology in Teaching and Learning of Knowledge System

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教科教育の目標の一つは、当該領域における重要概念やルールによって構成された知識システムを学習者内に構築することである。この講義では、概念やルールの教授学習に関する心理学的知見を概説するとともに、知識システムの構築に関する心理学的諸問題について論じる。

This course deals with the psychological problems concerning the construction of knowledge system.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ①概念やルールに関する教授学習心理学研究の基礎的成果について知る。
- ②学校教育における知識システム構築の重要性について理解する。

The goals of this course are to

- (1) Obtain basic knowledge about psychology in teaching and learning of concepts and rules.
- (2) Understand the importance of the construction of knowledge system in school education.

4. 授業内容・方法と進捗予定/Contents and progress schedule of the class :

1. ガイダンス
2. 概念とは何か
3. 概念と思考
4. 概念に関する古典的見解
5. 概念学習の心理学(1)
6. 概念学習の心理学(2)
7. ルール学習の心理学(1)
8. ルール学習の心理学(2)
9. 知識システムと問題解決(1)
10. 知識システムと問題解決(2)
11. 知識システムと知識操作(1)
12. 知識システムと知識操作(2)
13. 知識システムと創造性
14. 知識システムと教育実践
15. まとめ

1. Introduction
2. What is Concepts?
3. Concepts and Thinking
4. A Classical View of Concepts
- 5~6. Psychology of Concept Learning
- 7~8. Psychology of Rule Learning
- 9~10. Knowledge System and Problem Solving
- 11~12. Knowledge System and Knowledge Operation
13. Knowledge System and Creativity
14. Knowledge System and School Education
15. Review

5. 成績評価方法/Evaluation method :

期末テスト100%である。

Final Exam 100%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業内で指示する。

Will be introduced in the class.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

前回の講義内容を復習するとともに、与えられた課題について準備する。

The students are expected to 1)review the last lecture; 2) work on the given subject for the next lecture.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

9. その他/In addition :

連絡先 : kudou@sed. tohoku. ac. jp

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/18 16:12:09

科目名/Subject : 教育哲学講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3 講時 総合研究棟 201 教室

担当教員/Instructor : 2020 池尾 恭一

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
カント教育学研究/Reading Kant's Texts ("Immanuel Kant über Pädagogik", herausgegeben von Rink)
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
18 世紀ドイツの哲学者カントによれば、人間理性の関心は (1) 私は何を知りうるか、(2) 私は何をなすべきか、(3) 私は何を望んでよいかという問いに向かい、これら三つの問いが (4) 人間とは何であるかという問いに集約される。カントの『教育学』の読解を通して、カントの人間形成論 (教育哲学) の理解を深める。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
カントのテキストを読み解き、そこにみられる思想を追思考することを通して、自律的に思考することができる。
4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :
1. カント倫理学 概観 2. カントの実用的人間学 概観 3. カントの教育学 概観 4~5. 『実用的見地における人間学』第二部「人間学的な性格論」人類の性格 the character of the species 読解 6~9. 『教育学』序論 読解 10~12. 『教育学』自然的教育論 physical education 読解 13~15. 『教育学』実践的教育論 practical education 読解~カントの人間形成論 (教育哲学) 総括へ
5. 成績評価方法/Evaluation method :
テキストの講読 (英語訳を使用する) とその内容に関するディスカッションへの積極的な参加・取り組みを総合的に評価する。
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
Kant, Anthropolgie in pragmatischer Hinsicht, 1798.
(Anthology from a Pragmatic Point of View)
Immanuel Kant über Pädagogik, herausgegeben von Friedrich Theodor Rink, 1803.
(Kant on Education)
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
Students are required to prepare for class.
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他/In addition :
10. 更新日付/Last Update :
2020/03/13 14:53:19

科目名/Subject : 教育心理学実験Ⅱ (心理学実験)

曜日・講時/Day/Period : 後期 金曜日 3講時 総合研究棟202教室. 後期 金曜日 3講時 総合研究棟206教室. 後期 金曜日 4講時 総合研究棟202教室. 後期 金曜日 4講時 総合研究棟206教室

担当教員/Instructor : 2020 深谷 優子, 吉田 沙蘭, 教育心理学コース教員

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育心理実験Ⅱ

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

この授業科目は、教育心理学コースの3年次学生が、従来の研究を追試的に検討することにより、心理学研究の基礎的技法を習得することを目的とする。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1 心理学研究の技法を学ぶ。
- 2 SPSS などを用いた心理学の統計的分析方法について学ぶ。
- 3 心理学の研究論文における記述方法について学ぶ。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

- 1 オリエンテーション
- 2 追試研究構想発表
- 3 追試研究構想再発表
- 4 追試研究構想再々発表
- 5 追試研究構想再々々発表
- 6 データ収集の依頼と実際
- 7 データの入力方法
- 8 仮説検証とデータの分析
- 9 「結果」「考察」のまとめ方
- 10 追試研究発表と討議
- 11 追試研究再発表と再討議
- 12 追試研究再々発表と再々討議
- 13 討議の振り返りと論文のまとめ方
- 14 最終レポート作成
- 15 合同発表会

5. 成績評価方法/Evaluation method :

授業への参加度（研究への取り組みの積極さ、他の班の発表時の聴講態度なども含む）とレポート（追試研究最終レポート（班ごと）および追試研究を振りかえるレポート（個人））によって評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

構想発表ならびに研究発表に関しては、授業時間を発表に充てるため、その準備は授業時間外での作業が中心となる。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

班に分かれての作業が中心となる。
事前に教育心理学実験Ⅰを履修のこと。

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/18 13:03:20

科目名/Subject : 臨床心理学演習 I

曜日・講時/Day/Period : 後期前半 木曜日 3 講時 総合研究棟 202 教室. 後期前半 木曜日 3 講時 総合研究棟 204 演習室.
後期前半 木曜日 4 講時 総合研究棟 202 教室. 後期前半 木曜日 4 講時 総合研究棟 204 演習室

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 加藤 道代, 砂川 芽吹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学研究法 / Clinical Psychology Research Methods

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。 / Learn various research methods of clinical psychology and plan their own research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。 / To master the fundamentals on various research methods of clinical psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。

1. オリエンテーション
2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, and present and discuss them.

1. Orientation
2. ～ 14. Presentation and discussion on research of each student, literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席とレポートにより評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

適宜、臨床心理学演習Ⅲ・Ⅳと合同で演習を行う。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:02:14

科目名/Subject : 臨床心理学演習Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期前半 木曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室. 後期前半 木曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学研究法 / Clinical Psychology Research Methods

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。 / Learn various research methods of clinical psychology and plan their own research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。 / To master the fundamentals on various research methods of clinical psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。

1. オリエンテーション
2. ~ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, and present and discuss them.

1. Orientation
2. ~ 14. Presentation and discussion on research of each student, literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%)、授業への参加度 (50%) による。

final report:50%, attitude in class:50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。

Students read articles according to their research themes and plan their research based on them.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

適宜、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱと合同で演習を行う。

This class will be conducted in conjunction with Clinical Psychology seminar I and II as appropriate.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/14 17:03:28

科目名/Subject : 臨床心理学演習Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期後半 木曜日 3 講時 総合研究棟 202 教室. 後期後半 木曜日 3 講時 総合研究棟 204 演習室.
後期後半 木曜日 4 講時 総合研究棟 202 教室. 後期後半 木曜日 4 講時 総合研究棟 204 演習室

担当教員/Instructor : 2020 若島 孔文, 加藤 道代, 砂川 芽吹

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学研究法 / Clinical Psychology Research Methods

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。 / Learn various research methods of clinical psychology and plan their own research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。 / To master the fundamentals on various research methods of clinical psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。

1. オリエンテーション
2. ～ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, and present and discuss them.

1. Orientation
2. ～ 14. Presentation and discussion on research of each student, literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

出席とレポートにより評価する。 / Evaluate by submitting activities and reports

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

授業中に適宜、提示する。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

適宜、臨床心理学演習Ⅲ・Ⅳと合同で演習を行う。

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/14 11:03:17

科目名/Subject : 臨床心理学演習Ⅳ

曜日・講時/Day/Period : 後期後半 木曜日 3 講時 総合研究棟 206 教室. 後期後半 木曜日 4 講時 総合研究棟 206 教室

担当教員/Instructor : 2020 安保 英勇, 吉田 沙蘭, 前田 駿太, 大場 麗

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

臨床心理学研究法 / Clinical Psychology Research Methods

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

臨床心理学研究法の基礎およびその実際を学ぶ。 / Learn various research methods of clinical psychology and plan their own research.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

臨床心理学研究法に関する基礎的事項を習得する。 / To master the fundamentals on various research methods of clinical psychology.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

受講生各自が卒業研究に向けて研究テーマ、研究内容等について計画・発表・討論する。研究論文の精読、紹介を行う。

1. オリエンテーション
2. ~ 14. 各受講生の研究に関する発表と討論、文献紹介
15. 総括 /

Students plan their own research, and present and discuss them.

1. Orientation
2. ~ 14. Presentation and discussion on research of each student, literature introduction
15. Summary

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート (50%)、授業への参加度 (50%) による。

final report:50%, attitude in class:50%

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

各自の研究テーマに従い、論文を検索し、論文を精読し、研究を計画すること。

Students read articles according to their research themes and plan their research based on them.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicates the practical business

9. その他/In addition :

適宜、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱと合同で演習を行う。

This class will be conducted in conjunction with Clinical Psychology seminar I and II as appropriate.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/14 17:02:21

科目名/Subject : 生涯学習論演習 V

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 松村 和則 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :
開発と環境保全への「実践」的視角—「フィールドを考える」から「フィールドで学ぶ」へ
2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :
東北地方の開発政策の手段としてスポーツが登場する背景を知り、環境保全への社会学的視座を学ぶ。さらに、フィールドで学ぶという「姿勢」がフィールドワークを超えて、「フィールドター」へと自らが変わっていくことを考えてみる。
3. 学習の到達目標/Goal of study :
社会学の方法(生活論を中心として)を理解し、フィールドでの「学び」を考えていく
4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :
①日本における農村社会学・環境社会学での「生活論」の展開を学ぶ
②事例研究・モノグラフ法具体例を学ぶ
③フィールドを考えるという姿勢からフィールドで学び、フィールドで実践するというスタンスへ移行する時の問題を考える。ゼミは、報告者が取り上げる論考を中心にして上記の授業内容に沿った形でコメントを用意し、議論を深める。
5. 成績評価方法/Evaluation method :
出席内容 (50%) と報告内容 (20%) 及び最終レポート(30%)で評価する
6. 教科書および参考書/Textbook and references :
教科書 なし
参考書 松村他編『白いスタジアムと「生活の論理」—スポーツ化する社会への警鐘—』東北大学出版会 2019
鳥越皓之他編『生活環境主義のコミュニティ分析—環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房 2018
松村編『「開発とスポーツ」の社会学—開発主義を超えて—』南窓社 2014
7. 授業時間外学習/Preparation and Review :
報告者は、当該の論考を解説するのではなく、注の論文などを交えて「論評」する。参加者は、報告者が取り上げる論文を必ず読んで授業に参加する。
8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。
/Note: "○"Indicates the practical business
9. その他/In addition :
社会学の方法の特徴を理解する。また、「実践」ということを必ず念頭に置いて議論する。
10. 更新日付/Last Update :
2020/02/20 13:51:21

科目名/Subject : 教育方法・技術論

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 荒井 龍弥 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

教育の方法と技術

METHODOLOGY and TECHNICS for EDUCATION

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

教育場を改善するためには、教える側および学習者側双方のさまざまな要素を考慮に入れなくてはならない。本講では、具体的な授業実践から学ぶべき情報内容と教育研究上での位置づけにつき検討を行う。さらに教育場を創造するために必要な知識・技能という観点から、学習が効果的に成立するための諸条件の操作を中心にこれまでの知見を紹介する。これらをもとに受講者の指導スタイルの確立や教育場改善向上の方法の獲得を目指す。

To improve effects of education, teachers must think of conditions of both teachers side and students side. We will consider about the conditions from the classroom practice in detail. And also we will examine some findings in educational research about remodeling the conditions to make better education . Through these, this course aims students to develop constructing ability for own teaching style and improving ability the process of education.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

「よい授業を創るための方法とその技術」をテーマとし、学習を支援するという立場から、指導計画・指導方法に対する学習者の反応や、指導者・学習者の相互作用のようすなどを交え、教育場の展開を考え学習指導案を作成することができる。より具体的には以下の点が到達目標となる。1)特定の教育内容をめぐって教育目標を設定する 2)教育目標を実現するための現実的計画を案出する 3)計画作成時に、学習者の反応や指導者側の応答などを明示的に予想する。4)それらの予想に基づき、指導時に留意すべき指導者・学習者のふるまいを指摘する。

This course is designed to help students to design class and process of education better as a teacher. The details of goals are as follows; 1) Students will be able to set learning targets. 2) Students will be able to make their own plan of education for the targets. 3) Students will be able to think clearly of teaching process in their plan. 4) Students will be able to point out of checking the significant point in the class from the view of teaching process.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

第1回：オリエンテーション・授業の「道具立て」

第2回：教育の技術（1） 指導言（1）説明

第3回：教育の技術（2） 指導言（2）指示

第4回：教育の技術（3） 指導言（3）発問

第5回：教育の技術（4） 指導言（4）発問作成練習

第6回：教育の技術（5） 板書・ノンバーバルコミュニケーション

第7回：授業の計画と検討（1） 学習指導案の計画と実際

第8回：授業の計画と検討（2） 実践記録の作成と検討

第9回：教育の方法（1） アクティブラーニングとは

第10回：教育の方法（2） アクティブラーニングを試してみよう

第11回：教育の方法（3） ルレグシステムと教授ストラテジー

第12回：情報機器の活用（1） 授業で用いられるメディアの発展

第13回：情報機器の活用（2） 映像教材の活用と効果

第14回：情報機器の活用（3） 情報活用能力とプログラミング教育

第15回：情報機器の活用（4） 著作権の問題と情報モラル

This subject is a lecture-centered course. The contents and schedule are as shown below, but it will be possible to change them according to your understanding condition or other circumstances.

(1) Orientation , The determinants of effects of the classwork

(2) Technics of education (1): Utterance of teacher(1) Explanation

(3) Technics of education (2): Utterance of teacher (2) Direction

(4) Tecnics of education (3): Utterance of teacher (3) Asking question

(5) Tecnics of education (4): Exercise of making asking question

(6) Tecnics of education (5): Writing on the board and Non-verbal communication

(7) Planning & Evaluation(1): Points of teaching plan and Actual problem

(8) Planning & Evaluation(2): Dictation record of the class-work

- (9) Method of education (1) :Student-centered learning(Active-Learning)
- (10) Method of education (2): Try and Examine Active-Learning
- (11) Methods of education (3): Various teaching strategies & Ruleg System
- (12) Use of information macinery (1): Development of teaching equipments in the class
- (13) Use of information macinery (2): Making and Effects of self-made videos
- (14) Using of information macinery (3): Ability for information utilization and programming
- (15) Using of information macinery (4): Problem of copyright & information morals

5. 成績評価方法/Evaluation method :

相互の評価のために、小テスト・授業内レポートを課す。これらの結果（50%）と、最終試験結果（50%）を材料として成績評定を行う。これらは授業内で解説・ディスカッションを行うことでフィードバックする。

To evaluate learning process , students will be requested to answer some questions at some classes. Students are measured by these submittted assignments

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は指定しない。参考書は授業内で適宜紹介する。

No textbooks will be used. References are introduced in the classes.

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

教員、指導者など、学習援助者側の視座に立つことを求める。このため、講義で示したことがらについて、自分なりの例を探したり、「自分だったらこうする」など、自分の身に引き寄せて考察する作業をしてほしい。

In this course, students are requested to stand point of view as a teacher. So, it is important for students to consider what to do as a teacher about ever

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

単位認定のためには、出席が3分の2以上必要です。質問等はメールでお願いします。

Attendance of more than two-third of all the classes is required to be eligible getting units/credits.

Students can contact me thorough e-mail(tt-arai@sendai-u.ac.jp).

10. 更新日付/Last Update :

2020/02/25 12:53:13

科目名/Subject : カリキュラム論講義 I

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 合田 哲雄 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

「教育課程行政」の理論と実際 The Theory and Practice of School Curriculum Administration

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

担当講師は文部科学省初等中等教育局教育課程課長として2017年の学習指導要領改訂に当たり、2008年の学習指導要領改訂についても同課教育課程企画室長として担当した。本授業では、このような経験を踏まえ、教育課程行政の基本的な構造や社会構造の変化と教育課程、今次学習指導要領改訂の考え方や方向性について、国会や霞ヶ関（府省間関係、文部科学省、中央教育審議会、文部科学省・教育委員会関係等）における意思決定プロセスを含めて扱い、「教育課程行政」についての理解を深めることを目的とする。

The lecturer has been responsible for the revision of Japanese National Curriculum Standards for K-12 education at 2008 and 2017 as an administrative staff of Ministry of Education. This course provides explanations of a basic structure of school curriculum administration, the correlation between a structural change of society and future direction of Japanese National Curriculum Standards, and the process of Japanese governmental decision making. Students will understand the concept and social role of school curriculum administration.

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- ・学習指導要領の変遷について概観し、文部科学省や中央教育審議会においてどのようなプロセスや議論を経て学習指導要領が改訂されているかを説明することができる。
- ・学校教育において学習指導要領が果たしている役割とともに、教育課程行政が学校における教育課程の編成や日々の授業をどのように支えているかを説明することができる。
- ・子供達や地域の実態に応じた教育活動を積極的に展開するために、学習指導要領などの教育課程を支える仕組みを「使いこなす」意義や方法を説明することができる。
- ・AIの飛躍的進化、Society 5.0と云われる未来社会において、学校の教育課程や教育課程行政の役割がどう変化するかを考えることができる。

The purpose of this course is to help students explain the process of decision making of Japanese National Curriculum Standards, including the history of Japanese school curriculum, the role of school curriculum administration in the development of each school curriculum and lessons, and the way to use the National Curriculum Standards efficiently to make a quality of school education better. And also to help students explore how the school curriculum and school curriculum administration should be changed in the future society.

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

【12月26日】

- 第1回 インTRODakション (受講生の本授業に対する問題意識や要望もお聞きしたい)
- 第2回 社会の構造的変化と教育課程
- 第3回 教育課程行政の基本的構造
- 第4回 教育課程の歴史的展開
- 第5回 2008年学習指導要領改訂の位置づけと構造

【12月27日】

- 第6回 2017年学習指導要領の背景と基本的構造
- 第7回 資質・能力と各教科等に固有のものの方・考え方
- 第8回 「カリキュラムマネジメント」と「アクティブ・ラーニング」
- 第9回 各教科等の構造① (教科等横断の構造)
- 第10回 各教科等の構造② (各教科固有の内容事項)

【12月28日】

- 第11回 各学校段階の構造① (義務教育)
- 第12回 各学校段階の構造② (高校教育)
- 第13回 学習指導要領を支える構造 (教職員の配置、教員免許、GIGAスクール構想等)
- 第14回 成熟社会に相応しい教育課程
- 第15回 まとめ (レポートの課題の説明等)

This is a lecture-centered course. The first day of this course will show the outline of the concept and structure of school curriculum administration, second day will explain the process of revision of Japanese National Curriculum Standards for K-12 education at 2017, and the final day will discuss how the school curriculum and school curriculum administration should be changed in the future society.

5. 成績評価方法/Evaluation method :

筆記試験は行わず、レポートの提出を求める。最終回でレポートの課題等を提示したい。レポートに対する評価 (着眼点、

構想力、論理構成、事実関係の正確さ、フィージビリティの5つの観点で評価。80%)及び授業に対する参画(20%)で評価を行う。 Students are evaluated on their points from the final report (about 80%) and the level of class participation (about 20%).

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

合田哲雄『学習指導要領の読み方・活かし方 ―学習指導要領を「使いこなす」ための8章―』(教育開発研究所、2019年)を教科書とし、同書185・186ページに掲載する図書を参考書とする。 Goda, T. (2019). The Way to Use the National Curriculum Standards efficiently to Develop Each School Curriculum and Lessons. Kyouikukaihatsu Kenkyusyo

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

指定したテキストをあらかじめ読み、理解いただきたい。また、あらかじめ配布する参考資料も目を通しておいていただきたい。 Students are required to read and understand the designated textbook and references will be handed out in advance.

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicates the practical business ○

9. その他/In addition :

受講生の皆さんのこれまでの経験や問題意識、疑問点などを踏まえた対話の機会を重視したいと思っているので、授業に対する積極的な参加をお願いしたい。 Positive

participation in classes is expected.

10. 更新日付/Last Update :

2020/03/10 09:10:21

科目名/Subject : 教育心理学講義Ⅲ

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講

担当教員/Instructor : 2020 山本 博樹 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

支援者が果たすべき説明実践の理論と方法

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

授業の目的 :

本授業では、一人ひとりの学習者を支援する説明実践の理論と方法を学ぶ。この背景には「支援」に軸足を移す教育界・産業界からの要請がある。そこで、理論については説明実践のための基礎概念と理論的枠組みを習得する。方法については、学習者が抱える理解不振を汲み取り、これを改善する説明方法を習得する。さらに理論と方法を踏まえて、説明実践が抱える課題を概観する。

授業の概要 :

本授業は講義形式を基本とするが、授業目的を踏まえて受講者による説明活動（口頭説明や相互説明）を取り入れる。本授業を通して、学習者の理解不振を把握・改善する説明実践の理論と方法を学び、説明実践への視座を得て欲しい。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

- 1) 支援者が果たすべき説明実践の理論を理解できる。
- 2) 支援者が果たすべき説明実践の方法を理解できる。
- 3) 支援対象や教科に即して説明実践の理論と方法を活用できる。
- 4) 研究課題を踏まえて research question を導出し、説明研究が始動できる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

1 期 支援者が果たすべき説明実践の理論

- 1 回 説明社会における説明の重要性 (key word : 説明責任, 「わかりやすさ」問題, 教師の役割)
- 2 回 苦戦する学習者と支援行為としての説明 (key word : 説明の原義, 学業不振, 探求学習, 学び合い)
- 3 回 軽視される「理解」と SOI モデル (key word : 「深い理解」, SOI モデル, 選択, 体制化, 統合)
- 4 回 理解不振を把握する理解確認と発問 (key word : 理解状態, 理解確認, 発問, 1 期の総括)

2 期 支援者が果たすべき説明実践の方法

- 5 回 選択過程の不振と支援—文書説明— (key word : 選択不振事例, 説明文表現, テキストデザイン)
- 6 回 体制化過程の不振と支援①—教材説明— (key word : 体制化不振事例, 「する」教材観, 教材化)
- 7 回 体制化過程の不振と支援②—映像説明— (key word : 体制化不振事例, 手順説明, 映像マニュアル)
- 8 回 体制化過程の不振と支援③—メタ説明— (key word : 体制化不振事例, メタ説明の役割, 標識化効果)
- 9 回 統合過程の不振と支援①—口頭説明— (key word : 統合不振事例, 口頭説明技術, 聞き手意識)
- 10 回 統合過程の不振と支援②—自己説明— (key word : 統合不振事例, 自己説明の役割, 学校での活用)
- 11 回 統合過程の不振と支援③—相互説明— (key word : 統合不振事例, 有効な相互説明, 2 期の総括)

3 期 支援者が果たすべき説明実践の課題

- 12 回 教科指導に求められる説明実践 (key word : 読解・作文, 算数・数学の支援)
- 13 回 高校「倫理」に求められる説明実践 (key word : 学説史学習, 心理学教育, 素朴心理学の畏)
- 14 回 公認心理師に求められる説明実践 (key word : 説明責任, 学習支援, 認知カウンセリング)
- 15 回 到達度評価と総括 (key word : 到達度評価, 総括)

5. 成績評価方法/Evaluation method :

全ての授業内容を対象にした到達度テスト（最終日に実施）で評価したい（60%）。またこれに加えて、受講生による説明活動についても評価対象としたい（40%）。総じて到達目標を評価する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書 : 山本博樹 (編) 教師のための説明実践の心理学 ナカニシヤ出版 ISBN:779514111

参考書 : 山本博樹 (編) 公認心理師のための説明実践の心理学 ナカニシヤ出版 ISBN:779513176

比留間太白・山本博樹 (編) 説明の心理学 ナカニシヤ出版 ISBN:779501777

石隈利紀・水野治久 (編) 学校での効果的な援助をめざして ナカニシヤ出版 ISBN:779503485

伊東昌子 (編) コミュニケーションの認知心理学 ナカニシヤ出版 ISB

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

受講者には講義内容に即して説明実践の理論と方法の習得を求めるとともに、「支援者」として説明実践を行う機会を日常生活の中に求め、実践知の達成にも向かって欲しい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他/In addition :

連絡先 : yhiroki@fc.ritsumei.ac.jp

10. 更新日付/Last Update :
2020/03/06 15:53:34

科目名/Subject : 成人教育論講義Ⅱ

曜日・講時/Day/Period : 後期集中 その他 連講 その他

担当教員/Instructor : 2020 赤尾 勝己 (非常勤講師)

単位数/Credit(s) : 2

使用言語/Language Used in Course : 日本語

1. 授業題目/Class subject :

生涯学習研究の諸相

2. 授業の目的と概要/Object and Summary of Class :

目的：これまでの授業者による生涯学習研究の蓄積をもとに、主として社会学的観点から新たな研究課題の提示を試みる。

概要：8つの研究分野についての授業者のこれまでの研究業績を提示し、各々にどのような先行研究があり、そこにどのような問題が孕まれ、それをどのように解決しようとしたのかを示す。各セッションの終わりに、受講者によるディスカッションを行う。

3. 学習の到達目標/Goal of study :

生涯学習研究の諸側面についての理解を深め、受講者が自ら独自の視点で学術論文を書くことができるようになる。

4. 授業内容・方法と進度予定/Contents and progress schedule of the class :

この授業は、次の8つのセッションから構成される。

- ①学習社会学の構想
- ②アメリカの生涯学習社会
- ③成人学習の理論
- ④ユネスコと OECD による生涯学習振興
- ⑤生涯学習政策・行政研究
- ⑥市民参加による現代的課題に関する学習プログラム計画
- ⑦学習都市研究—これまで4回の国際会議の成果から—
- ⑧生涯学習支援論：2022年度放送大学新規開講科目

これらの8つのセッションのうち6つは、下記の研究業績から抽出したものである。

1. 赤尾勝己『生涯学習の社会学』玉川大学出版部、1998年。
2. 赤尾勝己編『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社、2004
3. 赤尾勝己編集『生涯学習社会の諸相—その理論・制度・実践—』現代のエスプリ第466号、至文堂、2006年。
4. 赤尾勝己『生涯学習社会の可能性—市民参加による現代的課題の講座づくり—』ミネルヴァ書房、2009年。
5. 赤尾勝己『新しい生涯学習概論—後期近代社会に生きる私たちの学び—』ミネルヴァ書房、2012年。
6. 赤尾勝己編著『学習社会学の構想』晃洋書房、2017年。

2021年2月14日(月)から4日間の連続講義で、1日2セッションずつ進めていく。

5. 成績評価方法/Evaluation method :

レポート4000字を課し、その達成度に応じて評価を行う。レポートの題目は、最終日に出題する。

6. 教科書および参考書/Textbook and references :

教科書は使用しない。上記の研究業績をもとに作成した資料を配布する。

参考書：高橋満編『成人教育の社会学—パワー・アート・ライフコース—』東信堂、2017年。

シャラン・B・メリアム、ローズマリー・S・カファレラ著、立田慶裕、三輪建二監訳『成人期の学習—理論と実践—』鳳書房、2005年。

ピーター・ジャーヴィス著、渡邊洋子、犬塚典子監訳 P.ジャーヴィス研究会訳『成人教育・生涯学習ハンドブック—理論と実践—』明石書店、2020年。

7. 授業時間外学習/Preparation and Review :

8. 実務・実践的授業/Practical business※○は、実務・実践的授業であることを示す。

/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他/In addition :

10. 更新日付/Last Update :

2020/04/01 11:12:53

